

薬事・食品衛生審議会薬事分科会

平成23年度 第2回血液事業部会 議事次第

日時:平成24年3月6日(火)14:00~16:00

場所:厚生労働省専用第15・16会議室(12階)

議題:

- 議題1 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 議題2 平成24年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について
- 議題3 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会報告書について
- 議題4 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について
- 議題5 その他の報告事項

配付資料:

- 座席表
- 委員名簿

議題1関連:

- 資料 1-1 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 資料 1-2 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)に対するパブリックコメントについて

議題2関連:

- 資料 2 平成24年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について(日本赤十字社提出資料)

議題3関連:

- 資料 3 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会最終報告書

議題4関連:

- 資料 4 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について

その他:

- 資料 5 「血液製剤の輸出承認について」の一部改正について
- 資料 6 「輸血療法の実施に関する指針」の一部改正について
- 資料 7 「血液製剤の使用指針」の一部改正について
- 資料 8 「遡及調査ガイドライン」の一部改正について

薬事・食品衛生審議会  
血液事業部会表  
席

平成24年3月6日  
厚生労働省専用第15・16会議室  
午後2時から

大部  
石会  
委長  
代理  
員理

高部  
橋会  
委長  
員

審  
議  
官

速記

				血液対策課長	事務局
稲田委員				血液対策企画官	
大平委員				(日本赤十字社)	
岡田委員					
小幡委員					
嶋委員					
花井委員					
半田委員					
前野委員				溝口参考人	
牧野委員				渡邊委員	

幕  
内  
委  
員

三  
谷  
委  
員

三  
村  
委  
員

委  
山  
口  
一  
員

委  
山  
口  
(照  
員)

吉  
澤  
委  
員

(欠席委員3名)  
朝倉委員 大戸委員  
鈴木委員

傍聴席

## 血液事業部会 委員名簿

氏 名	ふりがな	現 職
朝倉 正博	あさくら まさひろ	医療法人社団博栄会理事長
稲田 英一	いなだ えいいち	順天堂大学医学部教授
○ 大石 了三	おおいし りょうぞう	国立大学法人九州大学病院教授・薬剤部長
大戸 斉	おおと ひとし	福島県立医科大学輸血・移植免疫部教授
大平 勝美	おおひら かつみ	はばたき福祉事業団理事長
岡田 義昭	おかだ よしあき	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室長
小幡 純子	おばた じゅんこ	上智大学法科大学院長
嶋 緑 倫	しま みどり	奈良県立医科大学小児科教授
鈴木 邦彦	すずき くにひこ	社団法人日本医師会常任理事
◎ 高橋 孝喜	たかはし こうき	国立大学法人東京大学医学部附属病院輸血部教授・輸血部長
花井 十伍	はない じゅうご	ネットワーク医療と人権 理事
半田 誠	はんた まこと	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法部長
前野 一雄	まえの かずお	読売新聞編集委員
牧野 茂義	まきの しげよし	国家公務員共済組合連合会虎の門病院輸血部長
幕内 雅敏	まくうち まさとし	日本赤十字社医療センター長
三谷 絹子	みたに きぬこ	獨協医科大学血液内科教授
三村 優美子	みむら ゆみこ	青山学院大学経営学部教授
山口 一成	やまぐち かずなり	国立感染症研究所血液・安全性研究部 客員研究員
山口 照英	やまぐち てるひで	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部研究員
吉澤 浩司	よしざわ ひろし	広島大学名誉教授
渡邊 治雄	わたなべ はるお	国立感染症研究所長

(計21名, 氏名五十音順)

◎部会長 ○部会長代理

薬事・食品衛生審議会薬事分科会  
平成23年度 第2回血液事業部会 議事次第

日時：平成24年3月6日(火)14:00～16:00  
場所：厚生労働省専用第15・16会議室(12階)

薬事・食品衛生審議会  
血液事業部会表  
座席

平成24年3月6日  
厚生労働省専用第15・16会議室  
午後2時から

議題：

- 議題1 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 議題2 平成24年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について
- 議題3 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会報告書について
- 議題4 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について
- 議題5 その他の報告事項

配付資料：

- 座席表
- 委員名簿

議題1関連：

- 資料 1-1 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 資料 1-2 平成24年度の献血の推進に関する計画(案)に対するパブリックコメントについて

議題2関連：

- 資料 2 平成24年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について(日本赤十字社提出資料)

議題3関連：

- 資料 3 血漿分画製剤の供給のあり方に関する検討会最終報告書

議題4関連：

- 資料 4 平成24年度の血液製剤の安定供給に関する計画(需給計画)(案)について

その他：

- 資料 5 「血液製剤の輸出承認について」の一部改正について
- 資料 6 「輸血療法の実施に関する指針」の一部改正について
- 資料 7 「血液製剤の使用指針」の一部改正について
- 資料 8 「遊及調査ガイドライン」の一部改正について

大部 高部 審  
石会 橋会 議  
長長 委長 議  
代代 委長 官  
員理 員 官

速記

稲田委員								血液対策課長	事務局
大平委員								血液対策企画官	
岡田委員								(日本赤十字社)	
小幡委員									
嶋委員									
花井委員									
半田委員									
前野委員								溝口参考人	
牧野委員								渡邊委員	

幕 三 三 委山 委山 吉  
内 谷 村 口 口 澤  
委 委 委 ( ( 委  
員 員 員 員 ) 員 ) 員

(欠席委員3名)  
朝倉委員 大戸委員  
鈴木委員

傍聴席

## 血液事業部会 委員名簿

氏名	ふりがな	現職
朝倉 正博	あさくら まさひろ	医療法人社団博栄会理事長
稲田 英一	いなだ えいいち	順天堂大学医学部教授
○ 大石 了三	おおいし りょうぞう	国立大学法人九州大学病院教授・薬剤部長
大戸 斉	おおと ひとし	福島県立医科大学輸血・移植免疫部教授
大平 勝美	おおひら かつみ	はばたき福祉事業団理事長
岡田 義昭	おかだ よしあき	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室長
小幡 純子	おばた じゅんこ	上智大学法科大学院長
嶋 緑 倫	しま みどり	奈良県立医科大学小児科教授
鈴木 邦彦	すずき くにひこ	社団法人日本医師会常任理事
◎ 高橋 孝喜	たかはし こうき	国立大学法人東京大学医学部附属病院輸血部教授・輸血部長
花井 十伍	はない じゅうご	ネットワーク医療と人権 理事
半田 誠	はんた まこと	慶應義塾大学医学部輸血・細胞療法部長
前野 一雄	まえの かずお	読売新聞編集委員
牧野 茂義	まきの しげよし	国家公務員共済組合連合会虎の門病院輸血部長
幕内 雅敏	まくうち まさとし	日本赤十字社医療センター長
三谷 絹子	みたに きぬこ	獨協医科大学血液内科教授
三村 優美子	みむら ゆみこ	青山学院大学経営学部教授
山口 一成	やまぐち かずなり	国立感染症研究所血液・安全性研究部 客員研究員
山口 照英	やまぐち てるひで	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部研究員
吉澤 浩司	よしざわ ひろし	広島大学名誉教授
渡邊 治雄	わたなべ はるお	国立感染症研究所長

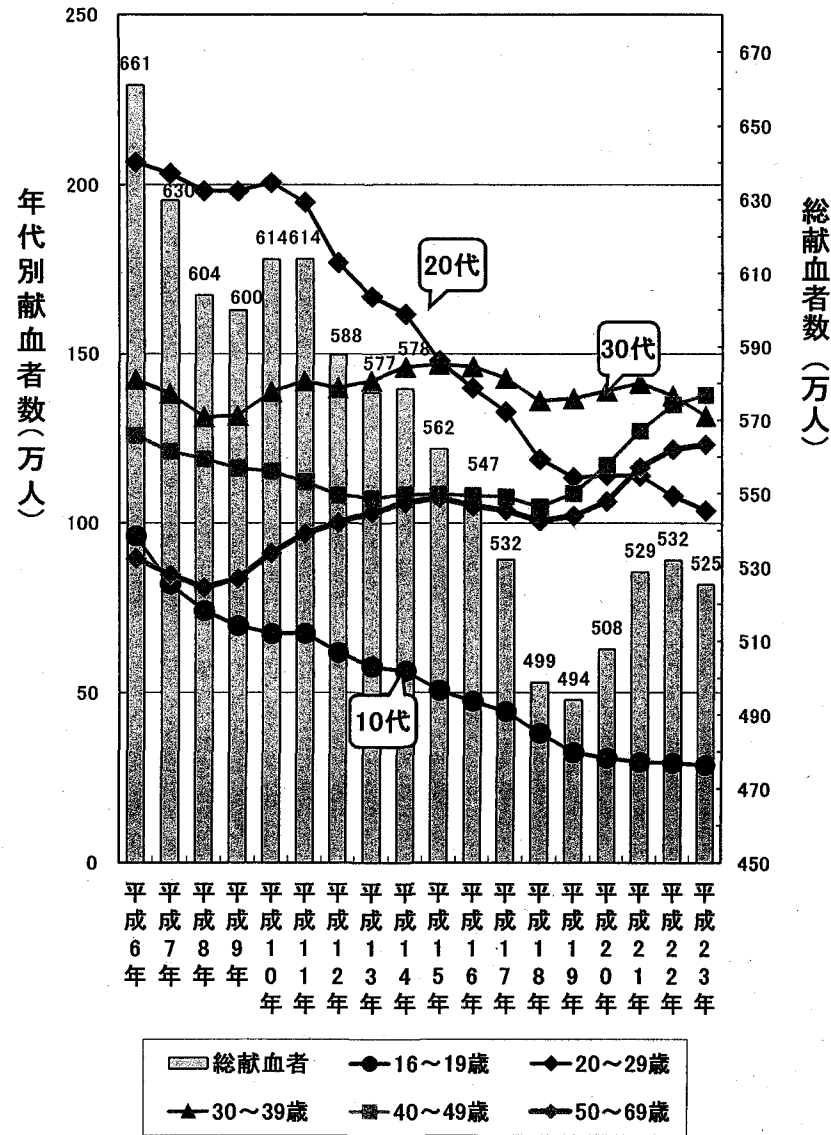
(計21名, 氏名五十音順)

◎部会長 ○部会長代理

平成24年度の献血の推進に関する計画（案）について

- ・献血者の推移 . . . . . 1
- ・諮問書 . . . . . 2
- ・平成24年度の献血の推進に関する計画（案） . . . . . 3

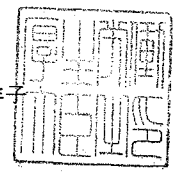
# 献血者の推移



厚生労働省発薬食0302第55号  
平成24年3月2日

薬事・食品衛生審議会会長  
望月正隆 殿

厚生労働大臣 小宮山 洋子



諮問書

平成24年度の献血の推進に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第3項において準用する同法第9条第4項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

# 目次

前文	1
第1節 平成24年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
(1) 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
(2) 献血運動推進全国大会の開催等	
(3) 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
(4) 献血推進協議会の活用	
(5) その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	5
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	5
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	5
(1) 血液検査による健康管理サービスの充実	
(2) 献血者の利便性の向上	
(3) 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
(4) 採血基準の在り方の検討	
(5) まれな血液型の血液の確保	
(6) 200ミリリットル全血採血の在り方について	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	6
3 災害時等における献血の確保等	6
4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価	7

## 平成24年度の献血の推進に 関する計画（案）

平成 年 月 日

厚生労働省告示第 号



## 平成24年度の献血の推進に関する計画

### 前文

- 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第1項の規定に基づき定める平成24年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成20年厚生労働省告示第326号）に基づくものである。

### 第1節 平成24年度に献血により確保すべき血液の目標量

- 平成24年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤0.001万リットル、赤血球製剤54万リットル、血漿製剤27万リットル、血小板製剤17万リットルであり、それぞれ0.002万リットル、54万リットル、27万リットル、17万リットルが製造される見込みである。
- さらに、確保されるべき原料血漿の量の目標を勘案すると、平成24年度には、全血採血による145万リットル及び成分採血による63万リットル（血漿採血28万リットル及び血小板採血35万リットル）の計208万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

### 第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成24年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

#### 1 献血に関する普及啓発活動の実施

- 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、地域の実情に応じ、対象となる年齢層への啓発、献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。

このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解を促すとともに、献血への協力を呼びかけることが求められる。

- 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、病気や怪我のために輸血を受けた患者や、その家族の声を伝えること等により、血液製剤がこれが必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血の正しい知識や必要性、血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力することが必要である。また、少子高齢社会を迎えたことによる血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。さらに、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。
- 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、平成22年1月27日に実施された英国滞在歴による献血制限の見直し及び平成23年4月1日に施行された採血基準の改正について、国民に対して十分に広報を行い、献血への協力を求める必要がある。
- これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

#### ① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業・団体、複数回献血者に対して、普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を実施し、以下の取組を行う。

<若年層を対象とした対策>

- 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。また、若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、実際に献血してもらえよう、学生献血推進ボランティア等の同世代からの働きかけや、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、実効性のある取組が必要である。特に10代層への啓発には、採血基準の改正により、男性に限り400ミリリットル全血採血が17歳から可能となったこと等について情報を伝え、献血者の協力を得る。さらに、子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、親子向けの雑誌等の広報手段や血液センター等を活用して啓発を行うとともに、親から子へ献血や血液製剤の意義を伝えることが重要であることから、地域の特性に応じて採血所に託児体制を確保する等、親子が献血に触れ合う機会を設ける。
- 国は、高校生を対象とした献血や血液製剤について解説した教材、中学生を対

象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び採血事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。

- ・ 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボランティア活動推進の観点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層へ献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センター等での体験学習を積極的にを行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図る。その推進に当たっては、国と連携するとともに、都道府県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。
- ・ 採血事業者は、国及び都道府県の協力を得て、学生献血推進ボランティアとの更なる連携を図り、大学等における献血の推進を促すとともに、将来、医療従事者になるうとする者に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行う。

#### <50歳から60歳代を対象とした対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、年齢別人口に占める献血者の率が低い傾向にある50歳から60歳代の層に対し、血液製剤の利用実態や献血可能年齢等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、献血者の増加を図る。また、血小板成分採血について、採血基準の改正により、男性に限り69歳まで(65歳から69歳までの者については、60歳から64歳までの間に献血の経験がある者に限る。)可能となったことについて情報を伝え、献血者の確保を図る。

#### <企業等における献血の推進対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

#### <複数回献血者対策>

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに

に、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

#### <献血推進キャンペーン等の実施>

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。
- ・ 都道府県、市町村及び採血事業者においても、これらの献血推進活動を実施することが重要である。また、市町村においては、地域における催物の機会等を活用する等、積極的に取り組むことが望ましい。

#### ② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催するとともに、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

#### ③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、献血推進活動を行うボランティア組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

#### ④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。
- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者、血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

#### ⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易

にするよう配慮する等、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

## 2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者に不快の念を与えないよう、丁寧な処遇をすることに特に留意し、献血者の要望を把握するとともに、採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等、献血者が安心して献血できる環境整備を行う。
- 採血事業者は、特に初回献血者が抱えている不安等を払拭するため、採血の手順や採血後の過ごし方等について、映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。
- 採血事業者は、採血所における地域の特徴に合わせたイメージ作りや移動採血車の外観の見直し等、なお一層のイメージアップを図り、献血者の増加を図る。
- 国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

## 第3節 その他献血の推進に関する重要事項

### 1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

#### ① 血液検査による健康管理サービスの充実

- 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知する。また、低色素により献血ができなかった献血申込者に対して、栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実は献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。
- 都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

#### ② 献血者の利便性の向上

- 採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。
- 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。また、採血事業者とともに、献血実施の日時や場所等について、国民に対して献血への協力が得られるよう、十分な広報を行う必要がある。

#### ③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携

し、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずる等、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

#### ④ 採血基準の在り方の検討

- 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しの検討を行う。

#### ⑤ まれな血液型の血液の確保

- 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

#### ⑥ 200ミリリットル全血採血の在り方について

- 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進する上では、400ミリリットル全血採血を基本として行う必要がある。
- しかしながら、将来の献血基盤の確保という観点からは、若年層の献血推進が非常に重要であることから、若年層に対しては、学校と連携して「献血セミナー」を実施する等、周知啓発の取組を積極的に行うとともに、初回献血を中心に200ミリリットル全血採血を推進することが重要である。

### 2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

### 3 災害時における献血の確保等

- 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等の関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。
- 平成23年3月の東日本大震災により、東北地方の一部の地域（岩手県、宮城県、福島県）で献血の受入れができなかった状況となったが、全国の非被災地において被災地域の需要分を加えた献血血液を確保することによって、血液製剤を安定的に供給することができた。今後も、献血血液の確保に支障を来さないよう、継続的に全国的な献血の推進を図っていくことが重要である。

- また、東日本大震災の際には、停電や一般電話回線（携帯回線を含む。）の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたことにより、移動採血車等の燃料の確保も困難となった。このことから、国、都道府県、市町村及び採血事業者は、災害時等に備えた複数の通信手段の確保や燃料の確保が確実に行われるよう対策を講ずる必要がある。

#### 4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価

- 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的及び長期的な効果及び進捗状況並びに採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直す必要がある。
- 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関し関係者の協力を求める必要性について献血推進活動を行うボランティア組織と認識を共有し、必要な措置を講ずる。
- 採血事業者は、献血の受入れに関する実績、体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

資料 1 - 2

「平成24年度の献血の推進に関する計画」(案) に対する  
意見募集結果について

平成24年3月  
厚生労働省医薬食品局  
血液対策課

「平成24年度の献血の推進に関する計画」(案) について、平成24年  
1月16日から平成24年2月14日まで御意見を募集したところ、7名の方か  
ら御意見等をお寄せいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見等とこれらに対する当省の考え方について、別  
紙のとおり取りまとめたので公表します。

今回、御意見等をお寄せいただきました方々のご協力を厚く御礼申し上げます。

今後とも厚生労働行政の推進にご協力いただけますよう、よろしくお願いいた  
します。

「平成24年度の献血の推進に関する計画」(案)に関する意見募集に寄せられたご意見とそれに対する考え方

〇 意見募集期間 平成24年1月16日～平成24年2月14日

〇 提出意見者数 7 名

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>誰でも献血に参加できるかといえど、そうではあっても、献血範囲についてわかりやすく整理し、広報等を通じて十分に説明することで、賛同した献血が行われたいように配慮することも、計画の中に盛り込むべきと考えます。</p> <p>献血範囲の例としては、英国滞在歴に関するものがあります。</p> <p>英国滞在歴に関する献血制限について(日本赤十字社) <a href="http://www.jrc.or.jp/blood/eitoku/index.html">http://www.jrc.or.jp/blood/eitoku/index.html</a></p>	<p>献血へのご理解ご協力ありがとうございます。</p> <p>献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝えることの一端として、献血をご遠慮いただく機会に、日本赤十字社に活用した全国の情報提供に加え、メデア(IV、ラシオ、新聞等)を広く利用した全国的な広報活動を通じて、各都道府県に所在する情報センターや献血ルームにおいても関連情報の提供やIP等での広く周知を行い、献血を申し込まれた方の感染症等に関する既往歴や海外滞在歴、さらに現在の健康状態を把握し、血液を介して感染する病原体に感染する可能性のある方や、血液製剤の安全性・有効性に支障を来す医薬品を服用していると思われる方からの献血を断りさせていただきます。いただいたご意見は貴重な提案として承り、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>献血へのご理解ご協力をありがとうございます。</p> <p>日本赤十字社において、献血者層の状況に応じて、受付時間を延長するなどの対応を行っているケースもございますが、血液製剤の確保上、一定の期間が短いものがあることから、献血した日付を考慮し、献血を必要としないと思われる献血者に対しては、献血の可否を個別に判断し、献血の可否を判断する必要があります。本格的には受付時間内での受付を断りさせていただきます。いただきます。</p> <p>今後とも献血への理解ご協力をお願いいたします。</p>
2	<p>「平成24年度献血推進…」に関する意見募集ですが、日常的に考えている点がございますので、意見をさせていただきます。</p> <p>私は現在200回以上献血をしております。時間ができれば献血ルームに足を運んでおります。「成分献血」と一年に最大24回までですが、(一般的な勤務者にとっては、日中勤務し勤務終了後献血を考えたうえで、最大の問題点があります。献血ルームの営業時間です。</p> <p>一般的な献血ルームは大体17:30で受付が終了しますが、勤務者が献血をしたいと思っただけに、献血ルームに行っても「受付終了」になっている場合が大半です。</p> <p>献血者が不足して、スタッフが不足している場合、受付が断られるケースがあります。</p> <p>献血者が増えるためには、献血者自身が献血の時間を自分たちで確保する必要があると思います。献血者が増えるためには、献血者自身が献血の時間を自分たちで確保する必要があると思います。</p> <p>献血者が増えるためには、献血者自身が献血の時間を自分たちで確保する必要があると思います。</p> <p>献血者が増えるためには、献血者自身が献血の時間を自分たちで確保する必要があると思います。</p>	<p>献血へのご理解ご協力をありがとうございます。</p> <p>献血者層の状況に応じて、受付時間を延長するなどの対応を行っているケースもございますが、血液製剤の確保上、一定の期間が短いものがあることから、献血した日付を考慮し、献血を必要としないと思われる献血者に対しては、献血の可否を個別に判断し、献血の可否を判断する必要があります。本格的には受付時間内での受付を断りさせていただきます。いただきます。</p> <p>今後とも献血への理解ご協力をお願いいたします。</p>

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
3	<p>献血に関して、若者だけでなく幅広い年齢層からの献血を呼びかけるべきだと思います。それには献血しやすい環境</p> <p>①先ず、子育て世代…子供を連れては託児もないため献血には行けません。実際私も丸5年半の間、献血に行くことができませんでした。託児が無理ならば、献血ルームを都市圏だけでなく郊外型への設置も検討して欲しいと思います。そうすれば、大駐車場完備で夫帰りで子供をみながらの献血も可能です。天神や博多駅での駐車場代を負担してまでも献血には行きませんが(一部負担程度ではなかなか行きません)…また献血ルームによっては提携駐車場もあるようなのですが、もつとそれもインターネット上できちんと大きく掲載して欲しいのです。「おっよい博多」の提携駐車場の検索に、かなり時間がかりました。またいくらの補助があるのかも具体的に載せて欲しいです)</p> <p>②福岡について言えば、閉鎖された北天神ルームにいられた中高年の方々はどこで現在、献血されているのだろうかと思っています。次に献血ルームの開所時間に関して、もっと遅い時間までの開所を望みます。勤務者は開所時間は仕事のために行けません。献血推進宣伝の際に職員の方が「出来れば午前中の献血をお願いします。そうすればいただいた血液を新しい状態で製剤に出来ます。午後や遅い時間だとせっかくいただいた血液の製剤化が翌日になってしまうので…」とラング等言われているのをよく耳にします。しかし休みを使ってまで献血に行く勤労者は少ないと思います。もっと献血する者の立場に立って、遅い時間の献血にも対応していただきたいものです。</p> <p>また、献血ルーム勤務の職員について技術と共に接客ももっと学んで欲しいです。採血する看護師の採血技術はもちろんのこと、血管が出ていない事は献血する本人も分かっているのをそれを指摘し理由にして欲しくない、そんな血管に入れるのが自分の仕事だと言うことをもって自覚して欲しいです(私自身が看護師のため余計にそれを感じます)。また医師に関して自分より高齢の医師が接客で問題がある様な医師が多いように思います。医師の間診業務は簡単だし、医師資格があればいいのですが、献血時の急変時に対応出来るのかと考えると献血する側は不安になってしまいます。献血ルームは病院ではありません。慈善事業で、献血者が時間を使って来ている事をもっと献血ルームの職員も考えるべきだと思います。後は、献血後のお菓子に関して…私は現在のようにお金を沢山使って種類豊富にする必要があるのかと思います。要は血糖が上げられないので極端な話、スティックシュガーでも良いわけです。お菓子をガバっと欲しく入れて持って帰る方も良く見かけます。どうせお金を使うのなら、それよりもっと献血感謝の菓子を魅力的にして欲しいです。同じ食器洗い洗剤やカップラーメンでも、普段は自分では買わないような商品に、食器洗い洗剤やカップラーメン等も現在の商品はスノーの日割奉仕品にあるようなものです。〈選ぶ楽しみも献血推進につながると思います。献血は売血行為ではないことは分かっていますが、診療報酬の高さを考えれば少しは献血者にも還元すべきだと私は考えます。</p>	<p>献血へのご理解・ご協力ありがとうございます。</p> <p>現在、日本赤十字社において、献血いただく方にとって、より安全かつ快適な環境を提供するために平成22年9月に策定した「献血ルーム施設整備ガイドライン」により、既存の献血ルームの改修などを計画的に行っており、併せてお子さんを連れて方でも気軽に献血にご協力いただけるよう、献血ルーム内に「キッズスペース」を設置することも進めております。また、献血受入に関する広報については、ご意見を踏まえ、お越しいる献血者の方が必要とする情報を出来るだけ詳細に分かりやすく提供できるように努めてまいります。</p> <p>また、日本赤十字社において、献血受入(受付、問診、採血等)に係る各職員の接遇研修等を定期的に行っておりますが、いただいたご意見を参考にいたしまして、今後より一層の技術向上に役立ててまいります。</p> <p>今後とも献血への温かいご理解・ご協力をお願いいたします。</p>
4	<p>医療系の大学生の体験実習の一環として、入学早期1年生に希望者の献血を体験させる。新入生への動機付けとして医療現場の早期体験をさせることが増えている。この一環として、入学早期に献血車を定期的に構内に入れる。あるいは献血センターが近い場合は、順次都合の付く時間帯に献血して、献血カードで単位認定の一部にする。この際の血液検査のデータは、入学時健康診断のデータとして大学が利用できるようにすると、大学の経費節減にもなる。何割かの学生は、複数回の献血を学生時代に行い、社会人となって血液の有効利用を考える医療人になることが期待できる。大学のカリキュラムとその地区の献血が減る時期を血液センターと当該大学で調整して、実施時期を決めると良いと思われる。</p>	<p>献血へのご理解・ご協力ありがとうございます。</p> <p>御提案は、国民の方々に献血の重要性や意義を御理解いただく観点から、今後の献血推進の取組を検討する際の参考とさせていただきます。貴重な御意見をありがとうございます。</p>

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
5	<p>今の状態のまま、大きな改善を見ることは不可能だと考えます。特に小生のように複数回参加しているものにとって、メリットが見えてきません(メリットを求めているのではないことは承知していますが)。例えば、自身、家族が緊急に輸血が必要な場合、献血回数によって配属(優先的に血液を廻すなど)いただくようなこと。また、献血回数によって実施される表彰が、警察の発行する人命救助による表彰と同等の価値を持たせるようなことを検討されるべきだと感じます。前述の2案件は実際に小生が体験した話です。病院で聞いた話ですが、母親が手術の時、緊急で血液が必要な場合でも、献血経験は配属していただけないと言われました。また、交通違反で検挙された時、人命救助で表彰されたことがあれば、持参すると言われましたが、献血の銀色表彰は何の効果も発揮しませんでした。「警察署長の表彰でなきゃ…」と言われただけでした。他人を助けるためにやっても自分はならぬ助けられることがないのが現状です。献血は博愛の元に行われる行為(メリットを求めてはいけない行為)だとは思いますが、何のメリットもないことに対して多くは他人事としか考えていない人々に広告・宣伝・教育だけで量を確保するという話は難しいのではないのでしょうか。</p>	<p>献血へのご理解・ご協力ありがとうございます。</p> <p>預金制度は、やむを得ない理由で献血ができない人が不利益を被る等、倫理的な問題が生じていたことから、廃止された経緯があります。また、日本赤十字社における献血者の表彰制度は、継続的に献血のご協力をいただいた方々へ感謝の意を表するという趣旨で行っておりますので、引き続き、献血へのご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。</p>
6	<p>リアルタイムで血液不足(予報)を発信できる方法を考えた方がよいと思います。電力不足のときも日本人は協力的でした。災害時にも有効だと思います。</p>	<p>献血へのご理解・ご協力ありがとうございます。</p> <p>各血液センターで日々の在庫管理に基づいた献血者への呼びかけを行っておりますが、御提案は、今後の献血推進の取組を検討する際の参考とさせていただきます。貴重な御意見をありがとうございます。</p>

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
7	<p>1. 現在の献血推進計画は平成24年度の需給予測に対する計画であり、将来の少子化による献血者不足、高齢化による血液製剤の需要増に対する中長期の需給予測に関連付けられた年度別の具体的な献血推進計画を作成するべきである。中長期的には血液不足をまねくことの日赤の推定もあることから、それに対する各年度の献血推進計画とするべきである。</p> <p>2. 将来の血液製剤需要予測は輸血用血液製剤と血漿分画製剤を分けて推定する必要がある。血漿分画製剤は種類も多く、それぞれの製剤の需給予測は輸血用製剤と大きく異なる。輸血用製剤の需要が満たされても血漿分画製剤の需要を満たすことができず、供給不足に陥る可能性があり、現在の献血制度で将来の血漿分画製剤需給に対応できるか早急に検証し公表するべきである。そして現在の献血システムで対応が難しい場合は、国民・患者・献血者・医療関係者に対して科学的で客観的な情報を提供し共有することで、現制度に固執するのではなく海外の輸血用製剤と血漿分画製剤の原料血漿確保制度も参考に、制度自体の再構築を検討するべきである。</p> <p>3. 平成23年度に実施された若年層献血意識調査結果では「輸血用製剤の使い道に対する認知」は8割が認知されていないという結果が出ている。血漿分画製剤についての認知は我々が実施した調査では更に低い。これらのことから、国民・献血者は血液製剤と輸血用製剤が同意語になっていると考えられることから、血液製剤という言葉ではなく輸血用製剤と血漿分画製剤を分けて国民・献血者に情報発信し共有するべきである。</p> <p>4. また同調査では、「血液製剤の海外依存の認知」を調査した結果、90%が認知していないとした結果を得たが、回答者が血液製剤を輸血用製剤と認知していると考えられることから、輸血用製剤は100%国内自給できていることと血漿分画製剤の一部製剤は現在の国内献血制度では製造できないことや、国内に製剤製造技術がない事等から海外製剤を輸入していることを正しく伝えて回答を求めなければならない。このような国民に誤解を招く質問と回答結果は国民の血液事業に対する理解を損ね、結果として間違った血液事業政策に繋がる可能性がある。国民に対して誤解をまねくことの無い正しい情報を発信するという観点から、今後、改善するべきである。</p> <p>5. 日本の血液事業は外国人の献血によっても支えられている。従って、日本人の献血意識の向上のためにも外国人が日本で献血している人数や血液量について公表するべきである。</p> <p>6. 日本の献血定義は1991年の国際赤十字・赤新月社決議に則っている。また血液法では有料での採血を禁じているという理解であるが、定義には「自発的な無償供血とは、供血者が血液、血漿、その他の血液成分を自らの意思で提供し、かつそれに対して、金銭又は金銭の代替とみなされる物の支払いを受けないこと」とある。献血推進策として「血液検査による健康管理サービス」の充実が挙げられているが、血液検査を健康管理として自己負担で実施すると高額になる。これを代替するサービスは金銭の代替とみなされる物の支払と考えるが、これが定義に反しないと解釈する理由が明確ではない。また定義に「少額の物品、軽い飲食物や交通に要した実費の支払いは、自発的な供血と矛盾しない」と記載されているに反し、交通費の支払は定義に反するとする解釈は矛盾し献血者を混乱させる。欧米では献血のために要した交通費や血漿採血に要した拘束時間に対して少額の金銭が支払われているが、将来の需要に応じた原料血漿の確保の観点から、これらについても国民・献血者に対して情報提供し共有して、これら考え方を日本に導入することについて国民的議論を行うべきである。我々の調査では多くの献血者が欧米のシステム導入について賛同した結果を得た。</p>	<p>一層の少子高齢社会をむかえるにあたって、将来の献血者数の不足が懸念されることから、平成22年度に献血推進に係る中長期的な目標を掲げた「献血推進2014」を策定しております。このたび、平成24年度の献血推進計画(案)を策定するにあたっては、「献血推進2014」で掲げられた中長期的な施策の方向性も鑑み、血液事業部会等で審議されたところです。引き続き、中長期的な計画、毎年度の献血推進計画に基づき、日々の献血推進に努めてまいりたいと考えております。</p> <p>御提案は、国民の方々に献血の重要性や意義を御理解いただく観点から、今後の献血推進の取組を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>血液検査による健康管理サービスは、献血いただき検査結果を希望された方にコレステロールやグリコアルブミン等、7項目の生化学検査の結果を通知することによって、常日頃からの健康管理に役立てていただき、健康な献血者の確保を図る施策であり、金銭の代替とするサービスにはあたりません。また、稀な血液型を持つ献血者に対し、緊急的に献血の協力を要請した場合には、その交通に要した実費の支払いを行うことがあります。</p> <p>なお、わが国においては、血液法第16条において、有料での採血等は禁止されておりますので、引き続き、無償の献血にご理解・ご協力いただけるよう、献血の意義を正しく伝え、献血者が安心して献血できる環境の整備・充実を継続的に実施してまいります。</p>

資料 2

平成24年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

- ・ 諮問書 . . . . . 1
- ・ 平成24年度の献血の受入に関する計画（案） . . . . . 2

【参考資料】

- ・ 平成23年度献血受入計画（平成23年度4～12月）における  
取組み状況と平成24年度献血受入計画の策定について  
. . . . . 12



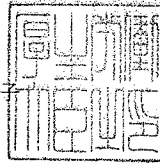
厚生労働省発薬食0302第56号  
平成24年3月2日

血企第107号  
平成24年2月29日

薬事・食品衛生審議会会長  
望月正隆 殿

厚生労働大臣 小宮山 洋子 様

厚生労働大臣 小宮山 洋子



日本赤十字社  
理事 西本 至



諮 問 書

平成24年度献血受入計画について

平成24年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第11条第3項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（昭和31年法律第160号）第11条第1項の規定に基づき提出いたします。

## 平成24年度献血受入計画について

平成24年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第11条及び同法律施行規則第4条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

### 1. 平成24年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成24年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去3年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で145万リットル、血漿成分献血で28万リットル、血小板成分献血で35万リットルの合計208万リットルを確保することとします。

なお、都道府県別目標量については、別紙1のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

### 2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

#### (1) 献血受入の基本方針

##### ①目標量の確保

平成24年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼働数及び目標量については、別紙2のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL及び成分献血を積極的に受入れます。

##### ②献血受入体制の整備

献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に実施します。また、採血所における休憩スペースの十分な確保や地域の特性に合わせたイメージ作り等の環境整備に努め、一層のイメージアップを図ります。

##### ③献血者の処遇等の充実

献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては、献血者を丁

寧に処遇し、不快の念を与えることのないよう、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血者の意見・要望を把握し、献血受入体制の改善に努めます。

また、献血者の個人情報保護や献血者健康被害救済制度についても適正な運用に努めます。

#### ④初回献血者への対応

初めて献血をする方の献血に対する不安等を払拭するために、献血の手順や献血後の過ごし方等の映像やリーフレット等を活用した事前説明を十分に行います。また、学校献血会場において、採血後の献血者をケアする者を配置し、採血副作用の防止に努めます。

#### ⑤検査サービス等の実施

献血者の健康管理に資するため、引き続き希望者に対し生化学検査成績、血球計数検査成績をお知らせします。

また、ヘモグロビン濃度の低値により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

#### (2) 献血者の確保対策

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者を普及啓発の対象として効果的な活動や重点的な献血者募集を実施するとともに健康な高齢層の献血受入れについても積極的に推進します。

また、献血の意義等について、国民が広く理解できるように情報を提供することが、献血意識を高めることに繋がることから、血液事業をより理解していただくための各年齢層の広報を継続的に展開し、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等により、血液製剤がこれを必要とする患者さんへの医療に欠くことのできない有限なものであることを含めた献血思想の普及啓発を図ります。

特に少子高齢化による若年層献血者の減少を踏まえ、若年層を対象とした取組として体験学習の継続的な実施等、献血への動機付けとしての活動も積極的に推進します。

なお、各都道府県血液センターにおける主な取組は、別紙3のとおりです。

##### ①若年層を対象とした対策

(ア) 若年層全体に対する対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報に努めます。

(イ) 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての献血セミナーや血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図ります。

(ウ) 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたことから、これまで実施してきた若年層献血はもとより、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等についての献血セミナーを学校へ出向いて積極的に実施するよう努めます。

(エ) 大学生を対象とした対策

- ・ 献血推進活動を行っている学生献血推進ボランティア組織等と更なる連携を図り、大学生における献血や血液製剤に関する理解、献血体験の促進に努めます。
- ・ さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行ってまいります。

(オ) 10代への啓発として、採血基準の改正により、平成23年4月から男性に限り400mL全血採血が17歳から可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

(ア) 20歳代後半～30歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血をする機会が減少しているものと考えられることから、その方々に安心して献血していただけるための取組として、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制を整え、親子が献血にふれあう機会を設けるよう努めます。

(イ) 40歳～50歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」及び「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血の推進を図ります。

(ウ) 60歳以上を対象とした対策

この年代は、60歳を超えたところで献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減少することや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めます。

70歳以上の献血が出来なくなった方についても、個人ボランティアとして協力頂き、献血の推進に支援いただけるよう努めます。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、平成23年4月から男性に限り69歳まで可能となったことを伝え、普及啓発に努めます。

③企業等における献血の推進対策

社会貢献活動の一環として、献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で献血の推進を図ります。

④複数回献血協力者の確保

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行うよう努めます。

また、複数回献血クラブ会員の中で、適宜献血への協力が期待できる登録者の増加を図るため、特にメールサービスを利用する会員の増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう努めます。

⑤献血推進キャンペーン等の実施

将来の献血基盤となる10代・20代の若年層献血の推進は、血液事業にとって喫緊の課題であり、広く国民への献血の普及啓発を図るため、通年で実施しているLOVE in Actionプロジェクトを基軸とし、複数回献血者確保キャンペーン(4～5月)、愛の血液助け合い運動(7月)、いのちと献血俳句コンテスト(7月～12月)、全国学生クリスマスキャンペーン(12月)及びはたちの献血キャンペーン(1～2月)等を連動させながら実施し、戦略的な広報を展開します。

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。今後も献血者本人確認を徹底するとともに、検査目的献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な

平成24年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

(単位:L)

No	都道府県名	全血献血			成分献血			合計
		200mL	400mL	計	血小板	漿	計	
1	北海道	6,880	80,080	86,960	17,020	3,375	20,395	107,355
2	青森	1,220	14,600	15,820	3,800	2,055	5,855	21,675
3	岩手	1,900	12,360	14,260	3,760	1,909	5,669	19,929
4	宮城	1,928	21,852	23,780	6,608	5,941	12,549	36,329
5	秋田	1,180	12,080	13,260	3,560	1,115	4,675	17,935
6	山形	1,310	10,860	12,170	2,460	2,484	4,944	17,114
7	福島	2,692	22,736	25,428	5,440	1,438	6,878	32,306
8	茨城	3,596	25,501	29,097	6,533	6,341	12,874	41,971
9	栃木	2,729	17,672	20,401	4,738	6,175	10,913	31,314
10	群馬	2,344	21,503	23,847	6,250	2,834	9,084	32,931
11	埼玉	6,303	59,424	65,727	14,166	20,367	34,533	100,260
12	千葉	6,937	58,393	65,330	13,529	16,390	29,919	95,249
13	東京	8,351	150,323	158,674	48,330	31,723	80,053	238,727
14	神奈川	1,291	83,471	84,762	17,167	24,922	42,089	126,851
15	新潟	2,400	21,724	24,124	9,215	4,575	13,790	37,914
16	富山	660	9,840	10,500	3,048	1,995	5,043	15,543
17	石川	830	12,220	13,050	4,040	2,913	6,953	20,003
18	福井	542	9,688	10,230	2,896	935	3,831	14,061
19	山梨	935	8,002	8,937	0	5,066	5,066	14,003
20	長野	1,627	18,445	20,072	5,041	5,237	10,278	30,350
21	岐阜	1,740	18,320	20,060	4,360	4,949	9,309	29,369
22	静岡	1,968	35,512	37,480	8,656	8,429	17,085	54,565
23	愛知	4,400	68,000	72,400	20,200	23,800	44,000	116,400
24	三重	46	14,280	14,326	3,992	6,944	10,936	25,262
25	滋賀	508	12,374	12,882	2,858	2,429	5,287	18,169
26	京都	190	32,934	33,124	6,866	5,609	12,475	45,599
27	大阪	3,744	114,115	117,859	24,704	19,966	44,670	162,529
28	兵庫	1,831	58,771	60,602	13,649	10,074	23,723	84,325
29	奈良	624	15,048	15,672	3,510	2,648	6,158	21,830
30	和歌山	667	13,034	13,701	2,764	1,507	4,271	17,972
31	鳥取	228	7,009	7,237	2,066	863	2,929	10,166
32	島根	41	6,068	6,109	1,808	2,012	3,820	9,929
33	岡山	1,138	23,120	24,258	6,662	2,620	9,282	33,540
34	広島	646	32,344	32,990	13,108	3,479	16,587	49,577
35	山口	353	17,872	18,225	3,372	1,658	5,030	23,255
36	徳島	69	9,270	9,339	2,336	1,005	3,341	12,680
37	香川	104	12,049	12,153	2,336	1,904	4,240	16,393
38	愛媛	57	18,006	18,063	3,928	1,840	5,768	23,831
39	高知	422	9,581	10,003	1,996	789	2,785	12,788
40	福岡	282	63,767	64,049	16,354	10,243	26,597	90,646
41	佐賀	48	8,700	8,748	2,280	3,754	6,034	14,782
42	長崎	502	18,884	19,386	4,352	1,620	5,972	25,358
43	熊本	244	23,888	24,132	4,792	2,574	7,366	31,498
44	大分	384	14,496	14,880	3,176	2,270	5,446	20,326
45	宮崎	437	14,227	14,664	3,701	2,884	6,585	21,249
46	鹿児島	375	20,757	21,132	3,895	2,610	6,505	27,637
47	沖縄	173	18,046	18,219	3,323	2,810	6,133	24,352
	合計	76,876	1,371,246	1,448,122	348,645	279,080	627,725	2,075,847

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板製剤製造が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血者には、医療機関からの突発的な要請に対応できるよう、本人の意向を踏まえて予め登録を依頼し、必要時に献血を依頼します。

(3) 200mL全血献血のあり方について

血液製剤の安全性、製造効率、医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで400mL全血献血を基本とし、併せて、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、400mL献血ができない若年層に対して、国、都道府県、学校と連携し「献血セミナー」を実施する等、献血の知識について啓発する取組みを積極的に行うとともに、将来の献血基盤となる若年層の初回献血を中心とした献血推進を図ります。

(4) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保対策を実施します。

(5) 災害時等における危機管理

① 平成23年3月の東日本大震災により、東北地方の一部の地域(岩手県、宮城県、福島県)で献血の受入れができない状況でしたが、全国の非被災地において被災地域の需要分を加えた献血血液を確保することによって、血液製剤を安定的に供給することができたことから、今後も災害時において、献血血液の確保に支障を来さないよう、広域的な需給管理体制のもと、国、都道府県及び市町村と協力して継続的に全国的な献血の推進を図り、円滑な血液供給に努めます。

② 東日本大震災の際には、停電や一般電話回線(携帯回線含む。)の輻輳により、通信手段の確保が困難となったほか、精油所等の被災や燃料の流通に支障が生じたため、移動採血車等の燃料の確保も困難となったことから、国、都道府県、市町村及び企業等と協力して、災害時等に備えた複数の通信手段の確保及び燃料の確保について対策を講じます。

(6) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

Table with columns for prefectures (e.g., 北海道, 青森, 岩手), categories (血液センター, 献血ルーム, 移動採血車), and metrics (全血献血量, 成分献血量, 稼働数, etc.).

注1. オープン献血とは、献血のベッド等の器材を待参し、事業所や学校の会議室等を会場として行う献血入取方式。  
注2. 稼働数とは、血液センター・献血ルームでは開設日数を、移動採血車では記事台数を、オープン献血では献血会場数をいう。

平成24年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

Table showing the number of blood donation facilities and planned equipment for FY2024, categorized by prefecture and facility type (血液センター, 献血ルーム, 移動採血車, 成分採血装置).

※平成24年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)について...については、実際に受入を行っている血液センター。  
※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

6

10

各都道府県血液センターにおける主な取組

①若年層を対象とした対策

取組	対象
1 学校が実施する社会人体験学習や受入施設を登録し、血液センターの業務等を体験しながら血液事業への理解を深めてもらう。	中学2年生
2 公立高校の1年生全員に対して、献血ルーム見学会カードを配布し、高校に対してポスターの掲示を依頼する。	高校1年生
3 献血未実施校に対して、県・市町村・血液センター3者による高校訪問を実施し、校内献血等の実施に向けた啓発活動を行う。	高校生
4 Web上に学生献血アプリを登録し、TwitterやラジオCM等で情報展開を図る。	大学生
5 学生に対して、献血への理解を深めてもらう啓蒙の献血へのきっかけづくりとなるよう、献血に関する勉強会を開催し、併せて街頭献血にて献血呼びかけなどのボランティア活動を行う。	小学生・中学生・高校生、その他学生

②献血者の年齢層に応じた献血推進対策

取組	対象
1 県内の小学生を対象に保護者同伴のもとキッズスクールを開催し、スライドを用いた献血クイズ及び献血バス等の施設見学を実施することで親子で献血について学んでもらい、将来の献血者確保ならびに保護者の方へ献血の必要性を訴える。	小学生と保護者
2 現在、協力者が少ない20歳代から30歳代の方に対して、市の広報を活用するなど、多目的スペースを整備した献血ルームの広範を行い、献血ルームへの来場者を増やす。	20歳代から30歳代の方
3 55歳以上の血小板成分献血が可能なお子さんに対しては、子供と一緒にゆったり過ごせる空間を提供し、継続的な献血への協力を依頼する。また、子供連れで献血ルームに来ていただいた方に対しては、子供と一緒にゆったり過ごせる空間を提供し、継続的な献血者に対して採血基準改定のお知らせ及び献血依頼をハガキで行う。	55歳から64歳の方

③企業等における献血推進対策

取組	対象
1 献血への取組がない企業の中などを調査し、その中でも社会貢献活動をしている企業に対して、電話等により献血の必要性について説明し協力を依頼する。献血協力企業に対しては、グループ企業で献血をしていない企業を紹介してもらい啓発活動を行う。	献血未実施の企業や献血協力企業等
2 各献血受入団体担当者に対して、より献血への理解を深めてもらうため、血液事業の現状等について、電話等により献血の必要性を説明し協力を依頼する。	献血受入団体
3 各市町村担当者から献血未実施事業所を紹介してもらい、担当者や事業所の現状や献血の必要性を説明して新規開拓に努める。	献血未実施事業所

④複数回献血者の確保対策

取組	対象
1 献血会場に複数回献血クラブを設置（サイトスタンパー）を設置し、空疎手帳を簡素化し空疎しやすい環境を整備する。	献血会場来場者
2 上半期の既献血者のうち、下半期400mL献血可能者に対して、ハガキまたは封書による献血依頼をする。併せて来場者にチラシを配布し複数回献血クラブへの加入を促進する。	既献血者で400mL献血可能者
3 65歳～69歳までの献血者再推進のため、60歳～64歳の方に葉書等により400mL献血協力を依頼する。	60歳から64歳の方

⑤その他の具体的対策

取組	対象
1 各献血ルームにおいて、献血者全員に「予約のお願い」のチラシを配布又は予約推進ポスターを所内に掲示し、献血終了後に予約を依頼する。	献血者
2 献血ルームにおいて献血希望者のうちへモグロビン濃度低値の方に対する健康相談事業を実施し、再来を促し献血者増を図る。	献血希望者のうちへモグロビン濃度低値の方
3 地方FM局においてキャンペーンの周知CMや血液不足時の献血案内スポット放送を行う。	献血希望者

平成24年3月6日

平成23年度献血受入計画（平成23年度4～12月）における取組状況と  
平成24年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

- 平成23年度4～12月における各都道府県別の血液確保量、確保目標量に対する達成率及び比較  
別紙1のとおり
- 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析  
各血液センターにおける献血受入計画（平成23年度4～12月：平成23年度の受入計画を3/4したもの）の目標量155.1万Lに対する確保量は139.6万Lで、達成率は90.0%となっており、確保量が目標量を下回っています。これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、期限切れ等に注視しながら安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果です。また、全体の血液確保量139.6万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は144.2万L（使用量に対する確保率▲3.3%）です。使用量のうち4.6万L（使用量の3.3%）が確保量を上回っておりますが、これは、平成23年度において、赤血球製剤及び血小板製剤の供給量は前年度とほぼ横ばいにあるものの、6ヶ月の貯留保管をしている血漿製剤の供給量が前年度上半期実績と比べ4.5%伸びており、平成22年度に確保した血液を使用していることによるものです。  
以上のことから、平成23年度は、安定供給が確保されています。なお、今後も安定供給を確保するため、引き続き需給管理の精度向上と需給調整による有効活用を図ってまいります。
- 血液製剤の安定供給等にかかる取組  
輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組を行っています。
  - 血液事業本部の取組  
血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する「血液事業推進委員会」を設置しています。特に、より高精度な需要予測を図る

ことを目的として、同委員会の下に「輸血用血液製剤需要予測特別委員会」を設置し、医学的及び臨床的な観点から需要について検証しております。また、輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、「安定供給促進小委員会」（原則毎週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

## (2) 各血液センターの取組

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」（原則毎週開催）を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中期的需給計画を策定しています。

また、基幹センターは、上記の血液センターとしての対応に加え、管内血液センターの需給状況（採血・製造・供給状況等）の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っています。

## (3) 在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握（別紙2）し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った血液センターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を基幹センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

平成23年度については、注意報水準が1回発生していますが、一過性のもので、需給調整等の早急な対応により翌日には回避しております（警報水準発生はなし）。

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

⑤ 更に、赤血球製剤在庫が減少する冬季対策として、各ブロックの赤血球在庫が適正在庫数の120%以上で推移するよう需給管理を図っております。

## (4) 冬季・春季献血者確保対策

平成23年10月、平成24年1月に基幹センター需給管理担当課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、各基幹センターにおいても管内の血液センターを招集し、そこに血液事業本部からも職員を派遣して冬季・春季献血者確保対策の検討を行いました。

## (5) 東日本大震災への対応

震災により献血受入が困難となった岩手、宮城、福島県における医療需要分を、他の地域の血液センターが上乘せして採血し、特に赤血球製剤の在庫を通常の2倍程度に維持することで、円滑に供給しました。

## 4 平成23年度献血受入計画の進捗状況

平成23年度献血受入計画として、核となる対策と取組を血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組の実施状況は次のとおりです。

### (1) 若年層を対象とした対策

若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、同世代からの働きかけ、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝える等、効果的な広報を実施しました。

参考① 青少年ふれあい事業の実施状況（国庫補助事業）

小中学生を対象とした血液センター等の見学等（体験学習を通じ、献血に触れ合う機会の創出により献血への理解を深める）

平成22年度実績 実施回数 595回、参加人数 35,897人

平成23年度上半期実績 実施回数 378回、参加人数 18,218人

参考② 若年層献血セミナー（国庫補助事業）

10代後半から30代前半若年層を対象に献血への理解促進を図るために

血液センターの施設を利用し、セミナー等を開催。

平成 22 年度実績 実施回数 394 回、参加人数 36,510 人

平成 23 年度上半期実績 実施回数 205 回、参加人数 14,087 人

ア. 小学生、中学生を対象とした対策

献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明するため、ボランティア組織の協力を得ながら、学校へ出向いての勉強会や血液センター等での体験学習を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図りました。

イ. 高校生を対象とした対策

「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたことから、これまで実施してきた若年層献血はもとより、献血のみならず、赤十字活動全体を含めた命の大切さ等についての勉強会を学校へ出向いて積極的に実施しました。

ウ. 大学生を対象とした対策

献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得て連携を図り、大学生に対して献血や血液製剤に関する理解を深め、実際に献血を体験してもらう取組を行いました。

また、学生献血ボランティアとの更なる連携を図るとともに、その組織基盤の強化にあたりました。

さらに、将来の医療の担い手となる学生等に対して、多くの国民の献血によって医療が支えられている事実や血液製剤の適正使用の重要性への理解を深めてもらうための取組を行いました。

エ. 10 代に対して、採血基準の改正により、男性に限り 400mL 全血採血が 17 歳から可能となることについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

ア. 20 歳代後半～30 歳代の女性を対象とした対策

この年代の女性については、出産、あるいは子育てに忙しいという理由により献血者が減少しているものと考えられることから、親子で献血に触れ合える機会を設けるため、地域の特性に応じて献血ルームにキッズスペースを整備する等の受入体制の充実を図りました。

イ. 40 歳～50 歳代を対象とした対策

企業や団体の中心的な存在であるこの年代に対して、「血液の使われ方」、「献血可能年齢」等について正確な情報を伝え、相互扶助の観点からの啓発を行い、社会貢献活動の一つとして、地域の実情に即した方法で企業・団体等における献血者の増加に努めました。

ウ. 60 歳以上を対象とした対策

この年代は、60 歳を超えたところでの献血者数の割合が急激に減少しており、その理由として定年退職することにより献血に関する情報に触れる機会が減ってしまうことや健康上の問題等が要因として考えられることから、定年退職後も引き続き積極的に献血に協力していただけるよう、情報伝達の方法を工夫するなどして献血者の増加に努めました。

70 歳以上の献血が出来なくなった方についても、個人ボランティアとして協力頂き、献血の推進に支援いただけるよう努めました。

また、血小板成分献血について、採血基準の改正により、男性に限り 69 歳まで可能となったことについて普及啓発活動を実施しました。

(2) 企業・団体における献血の推進対策

社会貢献活動の一環として、献血に協賛する企業や団体を募り、地域の実情に即した方法で献血の推進を図りました。

- ・新規協力企業及び団体の開拓
- ・献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの運営、ステッカー配布など）

<平成22年度実績>

ロゴマーク配布数1,483件 協賛企業・団体数2,150件

（協賛企業・団体数は事業開始の平成18年度からの累計は45,343件、ロゴマークの配付数は7,613件となっている）

<平成23年度上半期実績>

ロゴマーク配布数2,093回 協賛企業・団体数1,051件

(3) 複数回献血者確保対策

複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブの充実等、重点的な啓発、施策を行いました。

また、複数回献血クラブ会員の中でも、特にメールを利用した会員の増加に取り組みました。

- ・「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施

<平成23年度上半期実績>

複数回献血クラブ会員数50,450人



<平成18年度からの平成23年上半期までの実績>

複数回献血クラブ会員数361,829人（平成18年度末より266,836人増）

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

（平成21年4月1日～平成23年3月31日実績：31.0%

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

(献血受入体制への取組)

献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会を開催

(広報活動への取組)

- ・7月「愛の血液助け合い運動」
- ・7～12月「第6回のちと俳句コンテスト」
- ・12月「全国学生クリスマス献血キャンペーン」
- ・1～2月「はたちの献血」キャンペーン
- ・通年「LOVE in Action プロジェクト」

を全国で展開しました。この他、病気やケガのために輸血を受けた患者さんや、そのご家族の声を伝えるための映像を製作したことから、各血液センターにおいて、講演会や、施設見学時、学校等での上映会を実施し、効果的な広報を実施しました。

(血液センターにおける献血者確保への取組)

- ・複数回献血協力者を確保するため、複数回献血クラブ会員へ情報誌の発行や、AED講習会等を実施する他、電子メールを活用した献血依頼を実施。また、リーフレットを作成する等して、新規クラブ会員の確保を実施
- ・需要に応じた400mL献血を推進
- ・需給予測に基づき、固定施設における受付時間の延長や移動献血バスの増車による献血受入等の措置を実施
- ・新規献血協力企業・団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼
- ・学生献血推進ボランティアと連携して、若年層献血者確保対策として大学等における献血を実施
- ・地域の特性に応じてキッズスペースを整備し、親子が献血に触れ合う機会を設け、献血者確保を実施

5 平成24年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成22年度供給数の実績と平成23年度上半期の供給数を中心に、過去3年の供給動向（別紙3）等から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別（献血ルーム、献血バス、出張採血）の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

・献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組を計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組の積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組は、これまで過去に行ってきた取組の中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成23年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙4のとおりです。

平成24年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙5のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組の進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組を月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

平成23年4~12月各都道府県別献血者数一覧

各都道府県別血液確保量等一覧(平成23年4~12月)

単位:L

Table with columns: No., 都道府県名, 血液確保量 (受入計画量, 献血量, B-A, B/A), 血液使用量 (供給量, 原料血液送付量, 計, 血液利用率, C/B), 献血者使用量 (未使用量, 未使用率, D=B-C, D/B). Rows include 北海道, 青森県, 福島県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 神奈川県, 新潟県, 静岡県, 京都府, 奈良県, 山口県, 沖縄県, 宮城, 埼玉(長野), 東京(山梨, 千葉), 石川(富山, 福井), 愛知(岐阜, 三重), 兵庫(滋賀), 大阪(和歌山), 岡山(鳥取), 広島(島根), 香川(徳島, 高松, 愛媛), 福岡(佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島).

※受入計画量は、平成23年度受入計画を3/4したものを示す。

Table with columns: No., 都道府県名, 献血者数 (血小板献血, 血液献血, 400mL献血, 200mL献血, 合計), 年代別献血者数 (16-19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60-69, 合計). Rows include 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 長野県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県.

平成22年度各都道府県別献血者数一覧

単位:人

平成22年度各都道府県別血液確保量等一覧

都道府県単位

単位:L

Table with columns: No., 都道府県名, 受入計画量, 献血量, B-A, 計画達成率 B/A, 供給量(自センター+他センターへの払出), 原料血浆送付量, 計, 血液使用率 C/B, 献血量-使用量 D=B-C, 未使用率 D/B. Rows include 北海道, 青森県, 秋田県, 福島県, 茨城県, 栃木県, 群馬県, 神奈川県, 新潟県, 静岡県, 京都府, 奈良県, 山口県, 沖縄県, 宮城(岩手、山形), 埼玉(長野), 東京(山梨、千葉), 石川(富山、福井), 愛知(岐阜、三重), 兵庫(滋賀), 大阪(和歌山), 岡山(鳥取), 広島(島根), 香川(徳島、高知、愛媛), 福岡(佐賀、長崎、熊本、大分、西崎、鹿児島).

Table with columns: No., 都道府県名, 献血者数 (血小版献血, 血浆献血, 400mL献血, 200mL献血, 合計), 年代別献血者数 (16-19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60-69, 合計). Rows list all 47 prefectures and their subprefectures.

血液製剤別(照射済)				血液製剤別(照射済)				血液製剤別(照射済)						
血液製剤	適正在庫数	差	保有率	血液製剤	適正在庫数	差	保有率	血液製剤	適正在庫数	差	保有率			
北海道	1,370	2,658	516	15.8%	山形	450	636	201	14.6%	宮城	1,000	2,570	516	15.8%
東北	1,010	1,422	412	14.4%	福島	1,100	1,444	344	12.3%	茨城	1,150	2,290	1,140	17.0%
関東	5,500	8,933	4,333	17.9%	栃木	390	566	176	16.1%	群馬	2,200	2,920	720	12.9%
中部	4,900	6,803	2,303	15.1%	埼玉	1,200	1,840	640	10.9%	千葉	2,900	3,519	619	14.3%
近畿	1,570	2,022	932	15.9%	東京	800	1,113	313	13.9%	神奈川	2,900	3,519	619	14.3%
北陸	1,370	1,888	518	13.9%	新潟	1,100	1,545	445	17.7%	富山	1,300	1,722	422	14.2%
中国	1,010	1,432	422	14.2%	石川	1,100	1,545	445	17.7%	福井	1,300	1,722	422	14.2%
四国	550	983	433	17.9%	山梨	450	636	201	14.6%	長野	1,300	1,722	422	14.2%
九州	1,370	1,888	518	13.9%	山梨	450	636	201	14.6%	岐阜	1,300	1,722	422	14.2%
合計	43,000	63,023	23,023	15.1%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%
合計	43,000	63,023	23,023	15.1%	岐阜	1,300	1,722	422	14.2%	岐阜	1,300	1,722	422	14.2%
合計	43,000	63,023	23,023	15.1%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%
合計	43,000	63,023	23,023	15.1%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%	愛知	2,200	2,920	720	12.9%

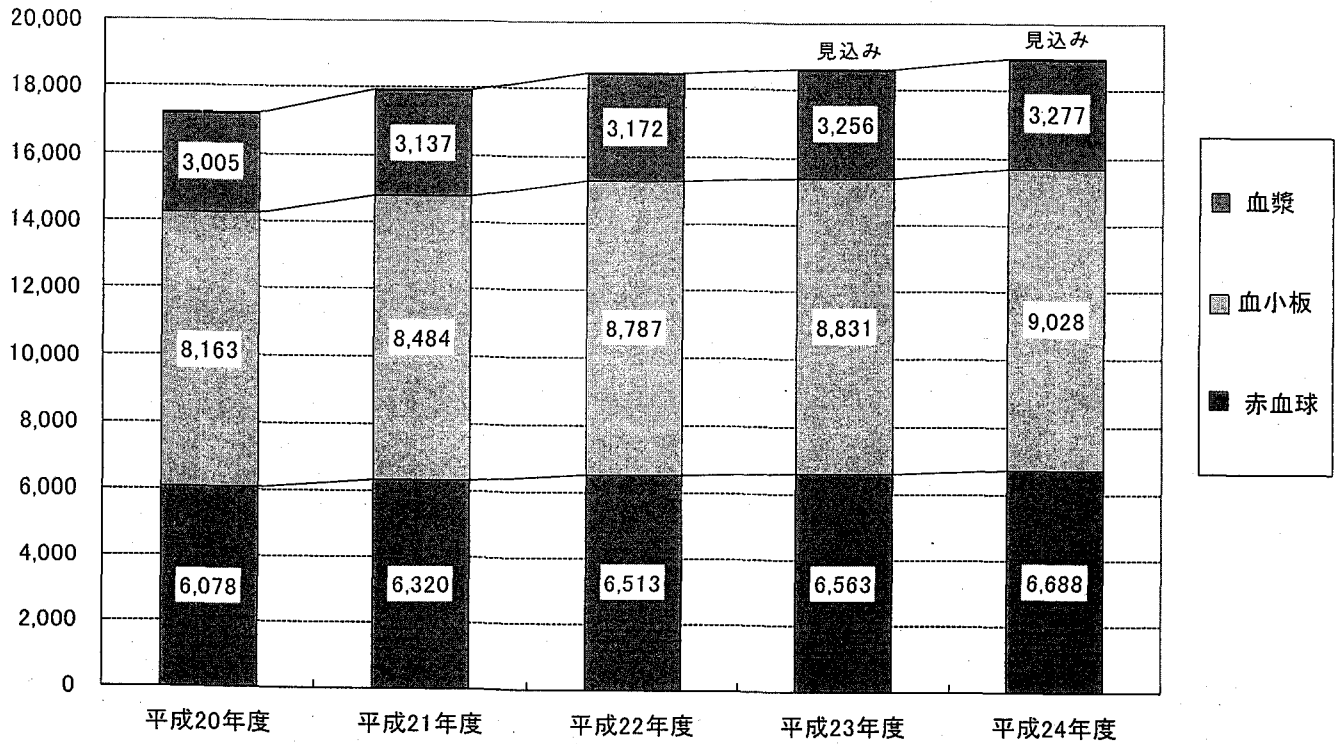
(別紙2-2)

全国の赤血球の在庫状況(平成23年度)

ブロック名	RCCLR+照射RCCLR (換算数)						上段: RCCLR1					上段: IR-RCCLR1				
	上段: 適正在庫						中段: RCCLR2					中段: IR-RCCLR2				
	A	O	B	AB	計	過不足率	A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500	151%	11	18	6	10	45	193	196	146	103	638
4,500	2,502	1,886	432	983	6,803	151%	213	173	89	68	543	936	663	551	367	2,517
宮城ブロック	1,790	1,621	1,073	486	4,970	166%	2	2	3	2	9	344	363	262	113	1,082
4,970	3,184	2,295	1,945	805	8,229	166%	20	28	11	10	69	1,399	937	829	335	3,500
東京ブロック	7,485	6,260	4,400	2,110	20,255	169%	218	213	169	89	689	651	639	503	233	2,026
20,255	12,681	9,702	8,444	3,416	34,143	169%	1,742	1,280	1,096	379	4,497	4,114	3,145	2,790	1,168	11,217
愛知ブロック	3,606	2,873	1,977	992	9,448	172%	26	25	19	21	91	315	227	274	122	938
9,448	6,633	4,012	3,729	1,917	16,291	172%	576	263	312	123	1,274	2,570	1,617	1,406	764	6,357
大阪ブロック	4,235	3,310	2,295	1,240	11,080	170%	36	18	33	7	94	251	164	132	70	617
11,080	7,459	5,348	4,033	1,977	18,817	170%	385	294	171	76	926	3,201	2,289	1,763	874	8,127
岡山ブロック	2,624	1,898	1,300	693	6,515	168%	4	5	1	3	13	117	80	107	40	344
6,515	4,133	2,875	2,714	1,243	10,965	168%	96	58	47	25	226	1,910	1,337	1,256	575	5,078
福岡ブロック	2,978	2,255	1,500	793	7,526	166%	4	3	5	3	15	25	35	40	34	134
7,526	5,035	3,462	2,717	1,301	12,515	166%	204	105	83	30	422	2,299	1,607	1,253	602	5,761
合計	24,288	19,587	13,555	6,864	64,294	168%	301	284	236	135	956	1,896	1,704	1,464	715	5,779
64,294	41,527	29,580	25,014	11,642	107,763	168%	3,236	2,201	1,809	711	7,957	16,429	11,595	9,848	4,685	42,557

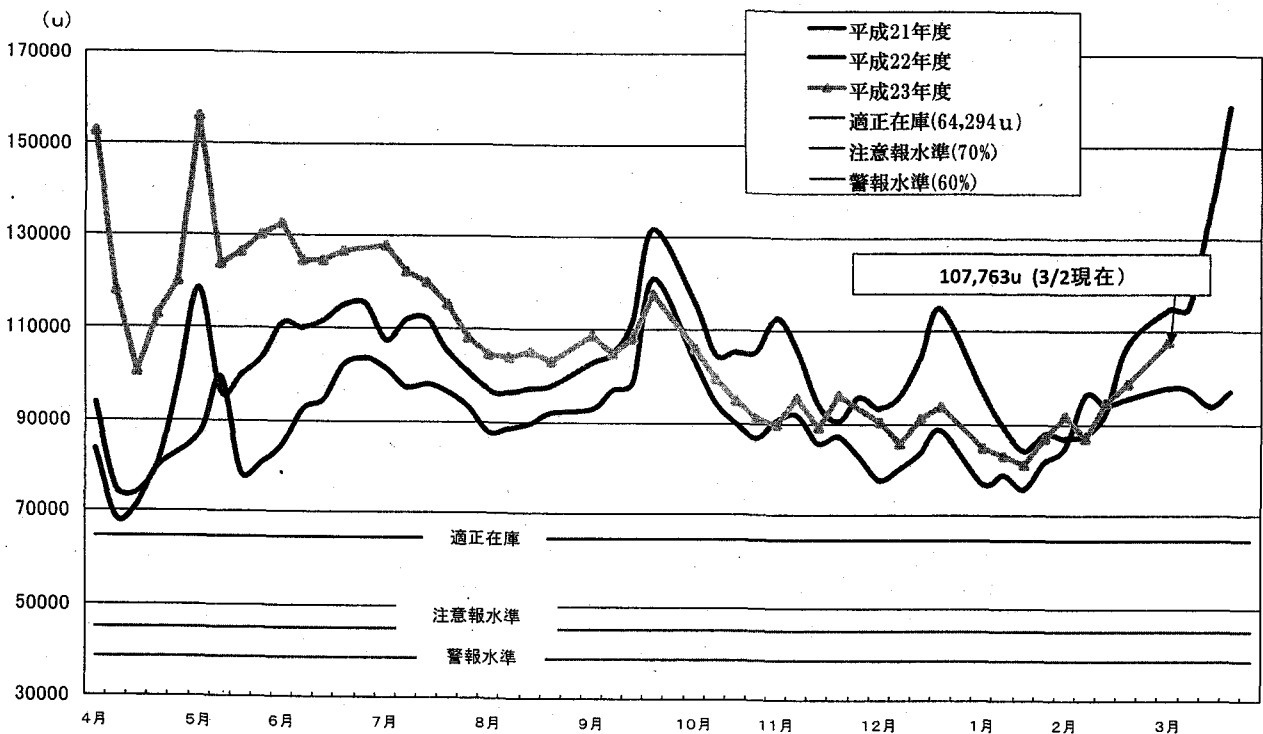
200mL換算  
(千単位)

### 供給動向と供給見込み



25

### 年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



26

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者 70名	学生献血推進協議会会議	継続	道内各センター管内の学生ボランティア代表	4月、8月、1月	3回	北海道赤十字血液センター	クリスマス献血キャンペーン及びサマー献血キャンペーンの報告会や反省会と併せて、血液事業の現状や血液製剤の知識などを養ってもらおう。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
期間中10代の献血者数 2,500名	ティーンズドナー献血キャンペーン	継続	16歳～19歳	11月から12月	1回	全道各献血施設	北海道との共同事業で、若年層に高聴取率を誇るラジオ番組とタイアップをして、番組内からのパーソナリティがリスナーへ献血に対する呼びかけなどを行う。
全道の献血者数 700名	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	7月	全道計5回	一番街商店街・MORUE中島・イオン旭川西SC・イオン釧路昭和SC・長崎屋MEGAFIN・ホト函館店	冬のクリスマス献血キャンペーンと同様に、札幌、室蘭、旭川、釧路、函館のスーパーなどの会場で、学生献血ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
全道の献血者数 850名	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	全道計5回	アリオ札幌・MORUE中島・イオン旭川西SC・イオン釧路昭和SC・長崎屋MEGAFIN・ホト函館店	札幌、室蘭、旭川、釧路、函館のスーパーなどの会場で、学生献血ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。
研修参加者 60名	血小板成分献血推進研修会	継続	血小板成分献血協力団体	2月、6月、11月	3回	血液センター・献血ルーム	日頃から血小板成分献血に団体でご協力いただいている大学生を対象に、更なる献血の理解を深めてもらうため、1時間程度の献血推進講演を行う。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
参加者 500名	献血推進講演会(献血セミナー)	継続	高校生、専門学校生、看護学生	4月、6月、10月	3回	山の手高校、武修館高校、北海道医療センター西看護学校	学校長を始め教員の理解のもと、1時間程度の献血推進講演を行う。内容はパワーポイントと映像素材を使用する。
来場者 200名	札幌合同大学祭	継続	札幌市民	10月	1回	大通公園	札幌市内近郊の大学10校以上が合同で実施する大学祭に献血学生ボランティアの展示ブースを出展し、パンフレットやチラシ、ゲームなどを市民にアピールする。
作品数 50点	献血推進ポスター展	継続	デザイン系の専門学校生等	6月～9月	1回	血液センター	幅広い献血の啓発を行うため、絵画技術を有する札幌近郊の学校へ献血広報用ポスターの作成に参加していただくよう依頼する。
協力者数 360名	グループ献血	継続	大学生	4月～5月、10月～11月	80回	移動採血車	大学での移動採血車による協力時、グループ(3人以上)で協力があった場合、特典を用意する。

27

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
来場者 300名	施設見学の受入	継続	小・中・高・短大・大学生	通年	30回	血液センター	血液センターを見学してもらい、血液事業の現状を説明することで、献血の必要性を理解してもらおう。広報用冊子と記念品を配付。
60歳代の献血者数25,000名	60歳代への献血推進	継続	60歳以上	通年	5回	各献血施設	60歳～64歳の献血者で60歳以降に献血をしていない方を対象として、献血要請はがきの送付やチラシの配付・回覧等を実施する。
55歳以降の男性血小板献血協力者数 3,500名	55以上の男性に血小板成分献血の推進	継続	55以上の男性成分献血者	通年	1回	血液センター	平成23年度から55歳以上(男性)の献血者も血小板成分献血の協力が可能になることについて、チラシやハガキにより周知するとともに、血小板成分献血を依頼する。
参加生徒 1,000名	小中学校のイベント参加	新規	小中学校の生徒	通年	3回	小中学校の校舎内等	学校が主催するイベントに献血推進のための展示ブースを出展する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
40件	新規および待機 献血事業所の開拓・確保	継続	新規献血事業所やその献血会場周辺企業	通年	15回	各事業所等	企業間のネットワークやライオンズクラブなどを通して、新規献血事業所を紹介してもらおう。また、会社の建設などの情報収集に努める。
12社	献血サポーター募集	継続	献血への理解があり、複数回の献血実施の実績がある企業	通年	12回	各事業所等	献血協力企業に対して、より献血への意識を高めてもらうために、移動採血車での実施の際に「献血サポーター」をPRする。
参加クラブ 50団体	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ会員	7月～11月	1回	ホテル講演会場	パワーポイントと映像素材を使用して、献血推進の講演を行う。
協力者数 100名	成分献血協力団体・企業の啓発	継続	事業所・団体等	通年	12回	各事業所等	ライオンズクラブや天理教などの献血推進団体を通じ、団体での協力依頼や登録者名簿の作成依頼を行う。

28

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
依頼の応募人数 10,000名	血小板成分献血者への再来の要請	継続	前回採血から期間が開いている献血者	通年	6回	前回採血から期間が開いている献血者に対して、複数回の協力を要請する。
新規登録者数 5,000名	複数回献血クラブの運営	継続	複数回献血者(メール会員)	通年	随時	チラシや非接触型携帯サイト接続ユニットを有効活用し、積極的に新規会員を募集する。
依頼の応募人数 25,000名	献血の案内を発送	継続	前回または前々回に協力があつた献血者	通年	随時	前回または前々回に協力があつた献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程前に発送する。
参加者 250名	献血フォーラム	継続	日赤表彰受賞団体、複数回献血者、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体	11月	1回	日赤表彰受賞団体、複数回献血者、献血メールクラブ会員、各ボランティア団体を対象として、ホテルまたは札幌市管轄の会場を使用して、日赤表彰や外部講師の講演などを行う。
複数回の血小板成分献血協力者(期間内3ヵ月間で3回以上)の割合を25%以上とする。	血小板成分献血推進キャンペーン	継続	血小板成分献血協力者	冬期間3ヵ月間	1回	ポイントカードを作成し、期間内に2回もしくは3回以上の協力者に対して、段階的に記念品の種類を変えて進捗する。また、プロスポーツ団体とのタイアップを検討する。
参加協力数 8,000名	「また来て献血」カード配布	継続	全血ルームにて独自の複数回献血者確保を目的に展開	通年	随時	全血献血の固定施設において、ポイントカードを作成し1年間で2回目の協力者に対して、記念品を進呈。
1年間における新規献血者の再来率を20%とする。	新規献血者に対する再来率の向上	継続	前回または前々回に協力があつた献血者	通年	随時	前回または前々回に協力があつた献血者に対して、献血実施日・場所等を記載したハガキを1週間程前に発送する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
	健康促進事業	継続	複数回献血者	9月～3月	10回	血液センター・献血ルームにおいて施術講師を招き、ハンドマッサージなど行い献血者の健康を促進する。
	クラブ情報誌の作成と配付	継続	複数回献血者	11月	1回	血液事業の現状や献血協力企業のコメントなどを掲載する。製本は、印刷会社に委託する。
	広告掲載	継続	読者	通年	10回	学内新聞及び大学祭パンフレット等へ献血推進用の広告を掲載する。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

青森県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加登録学生数 100人以上	若年層献血者確保対策	継続	県内の大学生	5・6・7・11・12・1月	6	青森県庁	平成23年12月未現在で青森県学生献血推進連絡会の参加校は5大学となっているので(平成24年3月中に4大学訪問予定)、平成24年度は2大学増やして、7大学による連絡会とする。年6回連絡会を開催し、献血の勉強会やキャンペーン等の企画を立案して若年層の献血確保につなげる。
20%以上の20歳代の協力	若年層献血者確保対策	継続	自衛隊員	1月	延べ3回	陸上自衛隊	陸上自衛隊の成人式(3会場)の開催時に献血バスを配車し、20歳代の献血者20%以上を確保する。
1,500人以上の協力	若年層献血者確保対策	継続	各大学・短期大学	4～3月	延べ40回	各大学・短期大学	青森県学生献血推進連絡会の学生ボランティアが中心となり、学校献血や学園祭献血(6校)において呼びかけを行う。学園祭パンフレットに広告(有料)を掲載して、推進に努める。
10・20代の献血率を27%以上にする	若年層献血者確保対策	継続	10・20代	5～6月	1回	各献血会場	上記事業と併せ、16～29歳の献血依頼対象者6,000人に封書依頼し、期間中引き換え券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。応募率12%以上で725人以上の献血者を見込み10・20歳代の献血者率を27%以上にする。(平成23年12月未現在25.8%) 平成24年度事業計画の献血者数57,000人で10・20歳代を27%確保すると15,390人となる。平成22年度の14,919人に対して329人増やす。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
70人以上の参加	献血セミナー	継続	小学校4～6年生と保護者	7月下旬	3回	血液センター	スライドを使用しての勉強会。献血バス等の乗車体験。
550人以上の応募者 (平成23年度実績10%増)	年齢層献血者確保対策	継続	30歳～49歳	1月中旬～3月初旬	1回	各献血会場	30～49歳の献血依頼対象者6,000人に複数回献血クラブ会員募集のパンフレット及び記念品引換券を同封し、封書依頼する。期間中に引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。上記パンフレットには、メールアドレス、QRコードを記載しており、24時間入会できるようになっている。(複数回献血クラブの会員増も図る) 平成23年度の実績よりも10%増やして550人を確保する。(平成23年度5,000人依頼予定、応募人数500人予定、応募率10%予定)
1,170人以上の応募者 (23年度実績10%増)	年齢層献血者確保対策	継続	50歳～69歳	10月～11月	1回	各献血会場	50～69歳の献血依頼対象者6,000人に複数回献血クラブ会員募集のパンフレット及び記念品引換券を同封し、封書依頼する。期間中に引換券を持参し献血した方に記念品を差し上げる。上記パンフレットには、メールアドレス、QRコードを記載しており、24時間入会できるようになっている。(複数回献血クラブの会員増も図る) 平成23年度の実績よりも10%増やして1,170人を確保する。(平成23年度5,438人依頼、応募人数1,065人、応募率19.6%)

31

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
25社以上の開拓	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施事業所	4～3月	随時	各事業所	各市町村担当者から未実施事業所を紹介してもらい、各担当者と一緒に事業所を訪問し、血液事業の現状や献血の必要性を説明して新規開拓に努める。
延べ480以上の訪問	献血協力団体増加対策	継続	献血実施事業所	4～3月	随時	各事業所	献血実施予定事業所及び周辺事業所等に各市町村担当者と訪問し、血液事業の最新の現状やキャンペーンの案内、血液在庫状況等を説明し献血者確保に努める。また、訪問した際は、従業員数を把握して、配車計画の参考にする。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
1,080人以上の入会 (平成23年度計画数より10%増)	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4～3月	随時	複数回献血クラブ会員の入会特典として、献血時にリフレソロジー、整体マッサージ(併せて150回実施)を受けられることを周知して、入会者を募る。封書で献血依頼する際には、複数回献血クラブ会員募集のパンフレットを同封する。また、未会員の献血者には、献血終了時にパンフレットを渡して、入会を募る。平成24年度は1,080人の入会で6,600人を計画している。	
2,400人以上の応募者	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回クラブ会員	4～3月	随時	随時、複数回献血クラブ会員の献血可能者に依頼メールを送信する。月1回、当センターのイベント等の情報を送信する。(年間60,000通送信。応募率4%以上を目標とする。)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	

32



1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
協力者数2,500人以上	高校生への普及啓発事業	継続	高校生(主に高校3年生)	通年	70	県内各高等学校内での献血実施及び献血ルーム	若年層への普及啓発事業の一環として、県内すべての高等学校79校に保健所・市町村・センター職員が訪問し、事業説明及び協力依頼を行い、献血バスを70校以上に配置する。被災地への高等学校についても復旧・復興に合わせ随時配置をする。また、献血実施後は献血ルームへの動員を目的に献血ルームのポスター掲示依頼を行う。高校生への献血セミナー(出前講座)を開催し、献血思想の普及啓発を図る。
協力者数4,900人以上	大学・短大・専門学校での献血実施普及啓発事業	継続	大学・短大・専門学校生	通年	45	県内各大学・短大・専門学校内での献血実施及び献血ルーム	大学・短大・専門学校生への普及啓発として献血実施(45回)及び献血ルームへの動員を行う。被災地についても復旧・復興に合わせ実施する。
若年層献血者(10代~20代)31.6%以上	献血セミナー	継続	大学・短大・専門学校・高校生	①献血トーク&コンサート ②献血セミナー5月 ③JRC高校生大会 献血セミナー7月	① 1 ② 1 ③ 1	①ショッピングセンター内イベントホール ②県の複合施設内 ③日赤支部	献血トーク&コンサートを開催し若年層に広く献血意識の向上を図る。また、献血セミナーを通じ学生ボランティアの育成に努め、JRC高校生大会等においてもセミナーを行い、若年層(10代~20代)を6年前のH19年度31.6%(H22年度29.7%)の実績まで引き上げる。
協力者数500人以上	大学・短大・専門学校での献血実施普及啓発事業	新規	大学・短大・専門学校生	4月~6月	10	大学・短大・専門学校	在学生・新たに入学した学生に対し献血体験キャンペーンを実施し献血の普及啓発を図る。
協力者数150人以上	サマー献血キャンペーン	継続	若年層を中心とした若者	7月	2	大型ショッピングセンター	学生ボランティアがイベントを企画しショッピングセンターで若年層に対し献血推進活動を行う。
協力者数150人以上	クリスマス献血キャンペーン	継続	若年層を中心とした若者	12月	2	大型ショッピングセンター	学生ボランティアがショッピングセンターでオリジナルのイベント・接遇等を行う。
協力者数150人以上	バレンタイン献血キャンペーン	継続	若年層を中心とした若者	2月	2	大型ショッピングセンター	学生ボランティアがショッピングセンターでオリジナルのイベント・接遇等を行う。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者350人以上	親と子の血液センター見学会	継続	小学生と保護者	小学校の夏休み期間	10	血液センター	小学生の夏休み期間(7月下旬~8月上旬)に併せ、親と子の血液センター見学会を実施する。1回あたり35名、延べ10回とし、スライドを用いた献血クイズ及び施設内・献血バス等の見学、DVDの視聴等献血の普及啓発を行う。
参加者500人以上	血小板成分献血強化	継続	年齢55歳~69歳男性	通年		献血ルーム	採血基準の改正に伴い、血漿成分献血協力者で新たに血小板成分献血が可能になった男性を対象に依頼ハガキを送付する。

3 企業における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30団体	新規献血協力企業団体確保	継続	企業・団体	通年		県内企業・団体	献血未実施企業・団体等に、市町村担当者・血液センター職員が訪問し、事業説明及び協力依頼を行う。また献血会場周辺企業等へも積極的に訪問し、ポスター・チラシ等を配布し献血への参加を呼びかける。
10団体	年2回以上の協力依頼	継続	企業・団体	通年		県内企業・団体	年1回実施の献血協力企業・団体へ、市町村担当者・血液センター職員で訪問し、協力企業の事業状況・繁忙期等の情報を収集し年2回(特に2回目は血液が不足する時期)の献血協力を依頼する。
参加45団体	ライオンズクラブ献血推進研究会	継続	ライオンズクラブ会員	10~11月	1	血液センター	血液事業の現状について理解いただき今後の献血推進について協議する。特にLCC会員事業所での献血実施又は近隣献血会場への動員を依頼する。
30団体	献血サポーターの募集	継続	企業・団体	通年		県内企業・団体	移動採血で献血実施の際、渉外時「献血サポーター」加入のPRをする。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾者(実協力者数)100人以上	メールによる献血要請	継続	複数回献血クラブ会員	不足時		緊急依頼メールを送信
応諾者(実協力者数)6,000人以上	ハガキによる献血要請	継続	同一会場における前回、前々回の献血者	献血の1週間前		ハガキで献血会場を案内し献血依頼
応諾者(実協力者数)1,500人以上	封書による献血要請	継続	複数回献血クラブ会員を除く登録者	7月、12月	2回	献血登録者で献血可能な方を抽出し、封書で夏季・冬季の献血者確保のため依頼文を送付
延べ 9,000人	メールによる情報配信	継続	複数回献血クラブ会員	随時		お知らせ・イベント案内、年賀メールなどを配信
400mL献血推進キャンペーン再来率を24%とする	400mL複数回の献血の推進	継続	既献血者の400mL献血可能者	10~3月	随時	上半期の既献血者の中、下半期400mL献血可能者に対し再度ハガキまたは封書による献血依頼をする。併せて来所者にチラシを配布し複数回献血クラブへの加入を促進する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
1,000人	新聞折込チラシ	継続	新聞購読者	通年	150	県内で一番購読数の多い岩手日報に献血会場・日時を印刷した案内チラシを折り込み県民に献血の普及と啓発をする。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率を6.4%、20代の献血率を8.4%まで増加させる	新規献血者紹介強化	継続	大学、専門学校生	4月から6月	延べ20回	各大学、専門学校	当県では、10代献血者率6.1%、20代献血者率8.2%(平成22年度実績)となっており、平成21年度実績を下回っている。これは、震災の影響で22年度については、3月12日から献血を休止していた影響も少なからず出ている。平成24年度については、献血推進に係る新たな中期目標(献血推進2014)の数値を目標とし対策として、再来献血者に新規献血者を紹介していただき、紹介者および新規献血者に対してポイント制度のボーナスポイントを付加等する。
	お礼状送付	継続	10代、20代の新規献血者	4月から3月			新規に献血協力した10代、20代の方にお礼状を送付し再来を促す
	大学・専門学校複数回記事	継続	大学、専門学校生	4月から1月	延べ35回以上	各大学、専門学校	献血実績の高い(受付が50名以上)大学、専門学校への複数回記事を平成23年度並みの35回以上実施する
参加者1,000名	献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生等	4月から2月	10回以上	各会場	固定施設への学生の来場および再来を促すため学生限定の記念品を進呈する。
新規献血協力学校を1校以上開拓する	新規協力学校開拓	継続	大学、専門学校生	4月から3月	1以上	大学、専門学校	新規に開拓する大学、専門学校や、まだ献血を実施していない学校(合計5校ほど)に対して献血受入れの依頼をする
17歳男性の400mL献血250人以上確保	17歳男性400mL推進	新規	17歳男性	4月から3月		高等学校献血会場等	学校内献血の場合は、養護教諭等に理解を求め17歳男性からの400mL献血を推進する。その他の会場では、17歳の男性が来場した際に積極的に400mL献血を推進する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者300名以上	献血キッズスクール	継続	県内小学生およびその保護者	8月	7回	ブロックセンター	県内の小学生対象にキッズスクールを開催し保護者同伴の元、検査・製造施設等の見学を東北ブロック血液センターで、供給部門および献血バス見学等を宮城センターで行い、親子で献血について学んでもらい将来の献血者確保ならびに保護者の方への献血を訴える。
60歳以上の献血者を3%増加させる	60代献血推進	継続	60歳以上の依頼対象者	4月から3月		各献血会場	60歳以上の依頼対象者や、複数回献血クラブ会員に対して献血依頼を年間通じて行い協力者を平成23年度より3%増加させる。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血団体20団体確保	新規団体強化	継続	献血協力団体	4月から3月		宮城県内献血団体	継続的に協力できる新規献血団体の確保を行う。また、新規協力団体については、献血協賛企業(献血サポーター)への登録を推進する。
協力団体20団体確保	ルーム協力団体確保	継続	献血協力団体	4月から3月		献血ルーム	献血ルームにて定期的に協力いただける団体を確保する

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員1,000人増	複数回献血者確保	継続	依頼対象者	4月から3月			依頼対象者に対して、複数回献血クラブ会員登録依頼を封書にて行う
	複数回献血者確保	継続	県内献血協力者	4月から3月			献血会場に複数回献血クラブ会員登録誘導装置(サイトスタンプ)を設置し登録手順を簡素化し登録しやすい環境を作る
年2回以上献血に協力する複数回献血協力者を20%にする	複数回献血者確保	継続	複数回献血クラブ会員 依頼対象献血者	4月から3月			・当県における年2回以上献血に協力している複数回献血協力者は、平成22年度献血者数のべ89,213人のうち18.2%の16,233人であった。これを20%まで増やすために、複数回献血クラブ会員に対してはメールで、それ以外の献血者(依頼対象者)については、はがきや電話での依頼を随時行う。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
再来献血者10名以上	健康相談事業	新規	ヘモグロビン濃度低値献血希望者	9月から11月			献血ルームにおいて期間中にヘモグロビン濃度低値献血希望者に対して健康相談事業を実施し再来を促し献血者増加を図る。

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	
1回の講演後に献血協力者を25人以上にする	献血セミナー事業	継続	短大生	10月・11月・12月	2	短大講義室	秋田県の献血者数の推移や献血の歴史、少子高齢化による献血者確保への影響、医療機関への供給までの流れをスライドを用いて説明し血液事業について理解を深めてもらう。
1回の講演後に献血協力者を10人以上にする	"	継続	医学生	1月	1	血液センター	
参加者数 70名以上で献血協力者50名以上	"	継続	警察学校	7月	1	警察学校内教室	

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	
訪問学校数3校以上	施設見学	継続	中学生	4月～3月	3	血液センター	血液センターの事業内容を説明し献血に対して興味を持ってもらう。
参加者数50名以上	体験学習	継続	小学生・中学生	7月	1	血液センター	献血疑似体験を通じ献血について楽しく理解していただく。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	
移動採血車一稼働あたりの献血者数を1.0人増加	献血協力依頼ハガキの郵送	継続	依頼応諾可能者	通年	随時	事業所献血	前回または前々回に事業所で協力いただいた献血者に対して、実施日の前にハガキを発送する。
新規献血事業所を30社確保	新規献血事業所の開拓と確保	継続	献血事業所	通年	随時	事業所献血	保健所および市町村と連携し新規事業所の開拓を行う。
献血サポーター企業を30社増加	献血サポーターの募集	継続	献血事業所	通年	随時	各事業所等	献血実施後のお礼状と一緒に献血サポーター加入依頼チラシを渡して周知する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	
献血協力者数5,000名以上	血小板成分献血者への要請	継続	献血登録者	通年	随時	依頼応諾を了承していただいている献血者に対して、電話で複数回の要請をする。	
会員を2,500名以上に増やす	複数回献血クラブ	継続	複数回献血者(メール会員)	通年	随時	チラシや複数回献血登録用サイトスタンプを活用し、積極的に新規会員を募集する。	
ハガキ協力者4,000名以上	献血協力依頼ハガキの郵送	継続	依頼応諾可能者	通年	随時	前回または前々回に事業所で協力いただいた献血者に対して、実施日の前にハガキを発送し献血協力依頼をする。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					内容(具体的かつ詳細に記載すること)
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	
15回実施	健康促進事業	継続	複数回献血者	4月～3月	随時	固定施設においてハンドマッサージを行い献血者の健康を促進する。	
情報紙作成(1回)	情報誌への掲載	継続	献血者	4月～3月	随時	固定施設や移動採血バスなど献血協力可能施設の紹介や血液事業の現状や献血協力企業のコメントなどを掲載する。	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
医療関係の専門学校1校にて実施する	講義	継続	医療関係専門学校	11月	1回	看護専門学校	スライドを活用しての説明90分授業での実施につき学術45分、採血45分として実施。また、推進用DVDも交えて献血の推進も行う。
大学等2校にて実施する	出前講座 (若年層献血セミナー)	継続	大学生等	学園祭時に併せる	2回	大学等	献血の必要性等についての普及啓発学園祭において推進用DVDを活用して実施する。
企業及び推進団体3社(団体)で実施	説明会	継続	ライオンズクラブ及び青年会議所等	6月～2月	3回	企業等	献血の必要性等についての普及啓発スライド及び推進用DVDを用いた説明。特にスライドについては、県内の状況を盛り込んだものとする。
高等学校5校で実施	若年層献血セミナー	継続	高等学校	下半期	5回	高等学校内 (視聴覚室及び体育館)	献血の必要性等についての普及啓発平成24年度より高等学校での出前講座等の実施強化にあたり、高校生向けのスライドを作成し実施する。
学内での高校献血50校の実施	高校献血	継続	高等学校	通年	50回	各高等学校	各高等学校を訪問し、献血の推進を図り、学内での400mL採血の推進も行い底上げを図る。

39

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
中学校15校で実施	出前講座	継続	中学生	6月以降	15回	各中学校	血液及び献血に関する正しい知識の普及啓発献血の歴史や現在の現状、使用方法についてまとめたスライドを活用する。また、必要に応じ推進用DVDを活用する。
小学校または中学校うち1校を対象とし実施	施設見学	新規	小学生又は中学生	長期休み期間	1回	東北ブロック血液センター	血液及び献血に関する正しい知識の普及啓発献血の歴史や現在の現状、使用方法についてまとめたスライドを活用する。また、必要に応じ推進用DVDを活用する。
高等学校1校を対象にする	施設見学	継続	高校生	下半期以降	1回	東北ブロック血液センター	血液及び献血に関する正しい知識の普及啓発献血の歴史や現在の現状、使用方法についてまとめたスライドを活用する。また、必要に応じ推進用DVDを活用する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポート団体24加盟	献血協力団体増加対策	継続	事業所並びに推進団体	4月～3月	24加盟	各事業所並びに推進団体	行政と連携を図り、共に企業訪問を行うなどして新規開拓を行う。
新規献血団体及び企業の開拓12団体	献血協力団体増加対策	継続	事業所並びに推進団体	4月～3月	12団体	各事業所並びに推進団体	行政と連携を図り、共に企業訪問を行うなどして新規開拓を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者の協力依頼(年間約400名増)	複数回献血者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		年1回協力の事業所での献血者を対象に、街頭献血会場への案内葉書・電子メールを配信する。 年1回の献血者に対し、約400名増加させる。	
複数回献血クラブ会員の増加(年間約500名増)	複数回献血者確保対策	新規	複数回献血クラブ未登録者	4月～3月		1 複数回献血クラブ登録のQRコード入りの献血カードケースを作成し配布する 2 サイトスタンプを活用した複数回献血クラブ登録でのキャンペーンの実施 3 500名の増加	

40

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
学生ボランティア研修会4回実施	研修会	継続	大学・専門学校生	4月・8月・9月・12月	4回	学内献血をはじめ、街頭献血でのボランティア活動を推進するため、研修会(山形県学生献血推進協議会)を実施し、1団体の新規結成を目標とする。	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

福島県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者200名	若年層献血セミナー	継続	高校、大学、専門学校生	4月、7月、8月、12月、1月	5回	血液センター及び学校	献血についてのセミナー及び施設見学を開催し、献血の意義や血液製剤の正しい知識の普及啓発を行う。 資料としては、「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。
参加者100名	献血出前講座	継続	小、中、高校生	7月～11月	5回	学校	若年層へ献血の意義や血液製剤についての正しい知識の普及啓発を行う。 それぞれの年代に合わせたスライド資料を作成し普及啓発に努める。
1稼働当たり赤血球75単位以上	大学献血への増車	継続	大学生	4月～12月	5回	大学構内	大学構内での献血バスの増車をし献血の普及啓発を行う。 平成23年4月～12月の実績は、1稼働当たり52.3単位であるため、24年度は、実施時期等の検討を加え、75単位以上を目標とした。
1稼働当たり赤血球80単位以上	学生ボランティアと連携した献血実施(サマー献血、クリスマス献血)	継続	高校、大学、専門学校生	7月～8月、12月	5回	街頭、大規模スーパー等	若年層の学生が献血を呼び掛けることにより同年代の献血意識向上を行う。 学生が企画等を行うため楽しく献血に参加できるとともにボランティア学生の友達等も献血していただけるため献血の輪が広がる。

4.1

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者100名	青少年献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生	5月、7月～8月、10月	3回以上	血液センター	夏休み等に親子施設見学会等を行い献血の意義や血液製剤の正しい知識の普及啓発を行う。 「愛のかたち献血」及び「献血と輸血用血液」スライド、ビデオ上映等を実施予定。 さらに施設見学実施後に献血クイズ等も実施予定。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10社以上	新規献血協力企業等の確保	継続	献血協力団体等	4月～3月		福島県内	県、市町村及び献血協力団体との連携を密にし、新規協力団体の開拓を行う。
5社以上	休眠献血団体等への動きかけ	継続	現在休眠中の献血団体等	4月～3月		福島県内	現在休眠中の献血団体等に対し、過去における実績等を検討し今後の献血協力を依頼する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾数1000名以上	メールによる協力要請	継続	複数回献血クラブ会員	4月～3月		メール配信	成分献血のできる方を中心にメールでの献血協力要請を行う。 平成23年12月末現在で、メール会員数2,886名(有効会員数)の登録があるが血小板の型別不足状況に応じての協力依頼を行うこととしている。
応諾数1000名以上	ハガキ・電話による要請	継続	前回400mL献血協力者	4月～3月		ハガキ・電話による要請	型別で不足が生じる恐れがあるときに献血協力要請をハガキ及び電話で行う。 特に土、日等に実施している大規模スーパー献血時に血液型別の不足状況に応じて協力依頼ハガキの発送を予定している。
複数回メール会員年間500名以上の増加	会員募集用リーフレット作成	継続	400mL献血、成分献血協力者	4月～3月		リーフレット配布	400mL献血及び成分献血協力者で複数回献血クラブ未加入の方へリーフレットを20,000枚以上配布し加入のお願いをする。 平成23年12月末現在の会員数は、2,886名の登録があるが、500名以上の増加を目標としている。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
固定施設で500名以上の協力	成分献血要請のダイレクトメール発送	継続	成分献血可能な方	4月～3月	12	翌月に誕生日を向かえる成分献血者へDMの発送を行う。	成分献血協力の方で翌誕生日の方へDM発送を行う。 誕生日に献血した方に粗品のプレゼントを予定している。
イベント参加者数1500名	冬季の献血者確保	継続	献血可能な方	10月、2月	2	イベントの実施	献血ルーム限定のイベント等を実施するとともに広報強化を行う。 現在検討している内容としては、期間限定特別記念品プレゼントを計画している。

4.2

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者数 600名	若年層献血セミナー	継続	大学生・高校生	5月～7月、11月	4回	学校	大学等での献血実施日に併せ、献血会場に献血ブースを設け、献血セミナーを実施する。
参加者数 600名	献血出前講座	継続	高校生	12月、1月	3回	高等学校	高等学校に出向き、いのちをつなぐ献血(献血セミナーDVD)を利用し、献血への理解を深めてもらい、献血意識の向上を図る。
協力者 100名	学生献血推進サマーキャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	8月	1回	献血会場	学生が夏休みに入るため、献血の啓発等を行うとともに献血者を確保する。
協力者 100名	バレンタイン献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	2月	1回	献血会場	学生ボランティアとけんけつちゃん着ぐるみによる献血の呼びかけを行い、幅広い年齢層に献血の必要性を訴える。
協力者 6,000名	移動採血限定400ml献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	6月～12月	1回	献血会場	400ml献血希望者にカードを配布し、次回の400ml献血の誘導を行い、次回にカードを提示いただき、かつ献血実施者に記念品を配布する。
協力者 100名	はたちの献血キャンペーンin茨城大学	継続	大学生	1月	1回	学校	新たに成人を迎える「はたち」の学生を中心に献血者を募る。
協力者 600名	クリスマス献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	12月	1回	献血会場、献血ルーム	県内の学生ボランティアが主になり、オリジナルのイベントを企画し、接遇等を行う。
協力者 1,000名	茨城県はたちの献血キャンペーン	継続	大学生・一般	1月～2月	1回	献血会場、献血ルーム	茨城県と共催で全国的に行われている「はたちの献血キャンペーン」にあわせ、成人を迎える「はたち」の若者を中心に献血を呼びかける。
協力者 1,000名	高校献血キャンペーン	継続	高校生	11月～3月	1回	高等学校、献血ルーム	茨城県と共催で実施し、高校生への献血の普及啓発を行い、献血実施後の高校生に献血に関するアンケートを実施する。
平日の献血者増月平均10名目標	誕生日献血キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	通年	1回	水戸献血ルーム	半年間以上来所のない献血者に協力依頼する。(誕生日2ヶ月前にカードを発送し、誕生日に協力をお願いし粗品を進呈する。)
平日の献血者増月平均20名目標	平日限定キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	12月～3月の平日	1回	水戸献血ルーム	血液の不足する12月～3月、平日限定にて先着20名にドーナツ等を進呈する。
平日1日 40名	平日(火・金)お楽しみ抽選会	継続	高校生・大学生・一般	9月～11月	1回	水戸献血ルーム	平日特に献血者の少ない(火・金)の献血者の確保。
協力者 200名	献血者紹介キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	4月～6月	1回	つくば献血ルーム	つくば献血ルームへの初めての方及び献血初めての方を紹介した方、された方双方に記念品をプレゼントする。
協力者 500名	400ml・成分献血推進キャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	5月、6月、11月～12月、1月	5回	日立献血ルーム	年間を通して過不足なく確保するため、企業・団体からの応援キャンペーン等既存のキャンペーン期間を避けて実施する。

43

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者 100名	サッカー教室	継続	小学生・一般	8月	1回	サッカーグラウンド	プロのサッカー選手を招き、サッカー教室を行う中、献血の必要性等を含め普及、啓発を図る。
協力者 150名	サッカーファンの集い	継続	小学生・一般	3月	1回	献血ルーム	サッカー選手によるファン感謝デーを開催し、合わせて献血者を募る。
参加者 450名	体験学習	継続	小学生・一般	9月	1回	学校	小学校において、ブースを設置し、ビデオ等を利用して献血に関するセミナーを実施し、献血への理解を深める。併せて献血を実施する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30事業所(又は団体)	新規献血事業所の開拓	継続	新規の事業所及び団体	通年		各事業所等	各市町村・団体等を介し、新規事業所の紹介及び開拓。
20事業所(又は団体)	休眠献血事業の開拓	継続	過去に献血実施し、現在休眠している事業所	通年		各事業所等	休眠事業所の開拓。

44

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾率 20%	献血案内の発送	継続	前回又は前々回に協力があつた献血者	通年			前回又は前々回に協力いただいた献血者に対し、献血日・場所等を記載したハガキを1週間前に発送する。
目標 10事業所(又は団体)	事業所・団体等の年間協力回数増	継続	年間協力1回・2回の事業所及び団体	通年			年間協力1回・2回に実施事業所・団体に対し、複数回献血を依頼する。
新規会員 2,000名	複数回献血クラブの運営	継続	複数回献血クラブ会員	通年			チラシ、サイト接続ユニットを使用し、登録会を催し、新規会員を募集する。
協力者 41,000名	献血ポイントキャンペーン	継続	高校生・大学生・一般	通年			水戸・つくば・日立の各献血ルーム共通にて実施し、献血の種類や時間帯に応じてポイントを付与し、ポイントに応じた記念品と交換する。(複数回献血者の増)
目標 111,000名	クラブ情報誌等の作成と配布	継続	複数回献血者等とクラブ会員	11月			血液事業の現状等を会員向けに印刷配布する。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者数前年度比500名増	タウン誌の発行	新規	読者	4月・6月・8月・10月・12月 2月	6回	隔月発行されるタウン誌(合計1,500,000冊)に広告・広報記事を掲載し、イベント(キャンペーン)等の告知など広報活動を強化し、献血者確保につなげる。
参加者 40名	健康増進事業	継続	複数回献血者等とクラブ会員	12月～2月	3回	献血ルームにおいて、施術講師を招き、指圧等を行い献血者の健康増進を図る。
次回献血の予約を推進する。 予約者:目標を2,500名	次回予約推進	継続	献血ルームにおける献血実施者	通年		各献血ルームにおいて、献血者全員に「予約のお願い」のチラシを配布、又は予約推進ポスターを所内に掲示し、献血終了後予約をお願いする。
電話及びハガキによる依頼を実施する。 応答者2,000名を確保する。	電話・ハガキ依頼	継続	献血ルームにおける献血実施者	通年		各献血ルームにおいて、6ヶ月以上献血していない献血者にハガキ・電話依頼を実施する。100名以上を目標に毎月実施する。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

栃木県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
200人以上	若年者献血セミナー事業	継続	10～20代の若者	通年	10回	血液センター 各大学・短大	栃木県学生献血推進型「かけはし」など学生ボランティア(8校)に対し通年で定例、施設見学、血液事業の現状説明、「八月の二重奏」上映など映像資料を用い研修会を実施。
6,000人以上	大学・短大・専門学校等献血	継続	20代を中心とした若者	通年	50回	各大学・短大・専門学校	学生課などを通して学校の承諾を得て構内に採血車を乗り入れ希望者を対象に実施している。学生献血用記念品を用意する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
320人以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	小、中、高校生(保護者含む)の若年者	通年	10回	血液センター ベルモール(ショッピングセンター)	親子参加型のAED講習と施設見学、献血クイズなどを併せて実施
7,000人以上	高校献血実施	継続	高校生	通年	80回	各高等学校等	高等学校の生徒を対象に希望者を募り献血を実施。養護教諭を通して学校に協力を得ている。平日授業時間を削いで献血を実施している。ほぼ学校行事の一つとして認識してもらっている。

3 企業等における献血の推進対策

※平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20社	新規団体開拓	継続	新規事業所・団体	通年	20回以上	各事業所等	行政や既献血協力団体などと連携し新規事業所の開拓。「愛のかたち」パンフレットやDVD等資料を用い献血協力要請する。
20社	休眠団体再開拓	継続	過去実施事業所・団体	通年	20回以上	各事業所等	休眠団体へ再度献血実施の要請をする。「愛のかたち」パンフレットやDVD等資料を用い献血協力要請する。
50社	献血サポーター募集	継続	年間複数回実施事業所・団体	通年	50回以上	各事業所等	献血日程等打ち合わせや依頼時にPRする

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間新規登録会員数 1,000名以上	複数回献血クラブの運営	継続	非複数回献血クラブ会員	通年	随時	非複数回献血クラブ会員に対し、積極的に新規会員を募集するチラシ等広報媒体を活用し、積極的に新規会員を募集する
協力者数 1,200名以上	献血者へ再来要請	継続	前回採血から期間が開いている献血者	通年	12回	ハガキ・封書・電話要請 前回採血から期間が開いている献血者に対して、複数回の協力を要請する
成分献血者数 延べ25,000名以上	成分献血ポイント キャンペーン	継続	固定施設の成分献血協力者	通年	随時	ポイントカード、ちらし、ポスター、その他広報 ポイントカードを作成し、固定施設においての成分献血協力者にポイント付与。
100名以上	健康促進事業	継続	複数回献血者	通年	12回	健康講座の開催 複数回献血者を対象に講師を招き、献血者の健康を促進する
配布人数 1,000名以上	複数回献血クラブの 推進	継続	非複数回献血	通年	随時	非複数回献血クラブ会員に対し、募集用広報物の作成 新規会員推進のための広報物を作成する
100名以上	健康相談事業	継続	クラブ会員	通年	随時	健康相談の開催 複数回献血者を対象に講師を招き、献血者の健康相談等を実施

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
上記④複数回献血者確保対策 を含む	はがき・メールによる 献血依頼	継続	400ml献血可能者	通年	10回	各献血会場での400ml献血実施要請。 400ml献血のみ受け入れ会場の設定。
全血400ml献血比率90%以上	400ml献血推進 キャンペーン	継続	400ml献血可能者	通年	10回	400ml献血のみ受け入れ街頭献血会場の設定。 特典として献血者にオリジナル記念品を進呈。
高等学校献血時の400ml献血率今年度比3%増	高等学校献血における400ml献血推進	継続	400ml献血可能者	通年	80回	学校及び担当教諭へ学校献血依頼時などに、採血基準改正に伴う400ml献血推進、400ml献血者にカントリーメイト2個進呈。
キャンペーン期間(月間)の献血者500人増	プロスポーツ団体協	継続	献血可能者	8月・11月・2月	3回	選手を起用したイベント開催、ポスター・ちらし制作。 公式試合会場での献血推進PR。 キャンペーン期間中献血者に記念品用オリジナルグッズ制作。
ラジオ広報による献血動機づけを図る。アンケート15%から20%増	献血のラジオ広報	継続	県民全般	通年	600回	県内AM、FMラジオ放送局と献血場所周知放送契約。 基本的に平日1回午前中に放送。 また、各キャンペーン時に学生ボランティアなど出演し周知放送する。
新聞・雑誌による献血動機づけを図る。アンケート3%から10%増	新聞・雑誌による 広報掲載	継続	県民全般	通年	60回	下野新聞(地元紙)、もんみや(タウン誌)への献血会場周知。 各献血キャンペーン等広告掲載。
一会場当たり120単位以上	パンチ風船による 広報	継続	小学生以下子供	通年	10回	「けんけつ(文字)」と赤十字ロゴ入りパンチ風船を制作。 大型ショッピングモールなどでの街頭献血呼び込み時に子供に配布することで店内の他のお客への献血実施中を周知する。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

群馬県 赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60名以上の参加	ひのきしん献血セミナー	継続	若年層会員	8月	1回	天理教群馬教務支庁 天理教の若年層会員に対して血液や献血についての説明を行ない献血を身近に感じてもらう。また献血の必要性を理解してもらい、献血への参加及び啓発活動への動機づけを図る。映像素材として本社作成のDVDやパワーポイントを使用
500以上の参加	献血感謝デー	継続	若年層から高齢者まで	11月	1回	大型商業施設 若年層が特に集まる大型商業施設を借用し、幅広い世代の方に献血思想普及を図ることを目的に開催。若年層多回者や長年献血にご協力いただき献血年齢を引退された方々をご招待して撮影する。また、来場者を対象に学生ボランティアによる献血の説明や、複数回メールクラブ会員の登録会、健康相談コーナー、若年層向けのアトラクション等を実施する。
200名以上参加	献血説明会	継続	若年層	通年	複数回	高等学校・大学・専門学校等 (約10校程度) 各学校単位で説明会の実施。高等学校では放課後に視聴覚室等を借用し各クラスの保健委員を中心に血液と献血について説明会や、学園祭で献血ブースを設けて学生及び来場者に対し説明会を実施し献血思想普及と献血参加を図る。映像素材として本社作成のDVDやパワーポイントを使用
300名以上の参加	献血セミナー	継続	若年層	2月	1回	公的施設 若い層が集まる催事(吹奏楽演奏会)と連携し、献血についてのセミナーを開催し、献血への理解を深めてもらう。映像素材として本社作成のDVD上映や若くみ(けんけつちゃん)参加で献血を身近に感じてもらう。



2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、**国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)**も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
100名以上の参加	春の献血ふれあいイベント	継続	幼児から小学生までの保護者	4月	1回	県立ぐんまの森	移動献血会場で、青少年向けのイベントを実施し、献血思想普及と保護者への献血参加を呼び掛ける。報道機関へのニュースリリースの発信及び複数回献血メールクラブ会員への参加呼び掛けの情報提供を図る。 (23年4月 同イベントの実績 献血受付83名)
300名以上の参加	春の献血ふれあいイベント	継続	幼児から小学生までの保護者	5月	3回	県立群馬こどもの国	移動献血会場で、青少年向けのイベントを実施し、献血思想普及と保護者への献血参加を呼び掛ける。報道機関へのニュースリリースの発信及び複数回献血メールクラブ会員への参加呼び掛けの情報提供を図る。 (23年5月 同イベントの実績 献血受付283名)
60名の参加	夏休み親子献血教室	継続	小学生と保護者	7月or8月	3回	血液センター	血液センターの施設見学や献血疑似体験をしてみたい、献血を身近に感じてもらう。そして献血の必要性を親子で理解してもらい、子供が献血可能年齢になった時に献血参加の動機づけを図る。説明用資料として本社作成のDVDやパワーポイントを使用。 (23年8月の同イベント60名参加)
3,000名以上の参加	サッカーJ2 ザスバ草津献血応援イベント	継続	若年層と保護者	10月or11月	1回	献血会場(献血バス/献血ルーム)	若者に人気の地元プロサッカーチームと連携し、選手の献血啓発ポスター作成配布。試合会場への献血バスの配車や、当日入場者全員へ配布のプログラム内に献血啓発内容の掲載や、選手によるホケットテッポウ配布等の献血啓発活動の実施。献血ルームでの事前告知イベントを開催し、献血処遇品としてコラボのオリジナルグッズを贈呈。 (23年11月の同チーム公式戦試合会場での献血受付者数66名)
2,000名以上の参加	ラグビートップリーグ ワイルドナイツ献血応援イベント	継続	県民及びラグビー77の若年層	夏期及び冬期	1回	献血会場(献血バス/献血ルーム)	地元実業団ラグビートップリーグ「ワイルドナイツ」と連携、献血献血啓発ポスターの作成や、献血ルーム及び移動採血会場での来場者に対し献血啓発活動を実施。 (24年1月の同チーム公式戦試合会場での献血受付者数87名)

49

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、**国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)**も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20社(団体)目標	献血団体及び協力団体の新規献血確保策(休眠を含む)	継続	未実施の企業及び団体	通年	随時	各団体会場等	個別説明会や広報資料を活用し献血啓発活動を実施し、新規推進団体及び事業所等の開拓を行う。(休眠団体や事業所等への再度協力依頼を含む) 広報資料:本社作成の愛のかたち献血・年報(あゆみ)・献血実施チラシ/ポスター等、また 説明会には本社作成DVD等の活用)

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、**国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)**も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
応諾者数(実協力者数) 16,000名以上 (目標応諾率7%以上)	複数回献血協力者確保対策	継続	前回献血から一定の期間経過し献血協力無しの方	通年	約60回	DMハガキにより、年間を通し安定した血液確保が困難な街頭献血会場を中心に、1回に約500通のハガキを発送し複数回の献血協力を図る。	
応諾者数(実協力者数) 12,000名以上 (目標応諾率28%以上)	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回メール会員で、前回献血から一定の期間経過し献血協力無しの方	通年	約48回	複数回メールクラブ会員に対し、年間を通し安定した血液確保が困難な街頭献血会場を中心に、1回に約1,000通の電子メールを発送し複数回の献血協力を図る。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
移動採血車による、街頭400mL献血限定会場 6,500人確保	チャレンジ400mLキャンペーン	継続	複数回献血者	通年	約100回	週末の街頭献血会場(集客率の高い大型ショッピングセンター)を400mL限定会場としてでり、外ターを対象にDMを発送し献血協力をお願い。協力者にはオリジナル記念品を贈呈し、赤血球の安定確保と400mL率の向上を図る。 (平成23年度4月～12月 400mL献血 75会場 5,500名参加)	
複数回献血者280名以上の参加 (応募者:500名以上)	献血感謝の集い	継続	複数回献血者	2月	1回	固定施設での複数回献血者を対象に、講演会と映画鑑賞会を実施し、血液事業への更なる理解と継続した献血協力を募る。	
ポイント達成者 年間6,500名	ポイントキャンペーン	継続	複数回献血者	通年	常時	固定施設での複数回献血者確保を目的とし、協力献血種類別にポイントを付与し、ポイント達成で粗品を贈呈し、継続した献血参加を促す。(特に400mLと血小板献血の推進を図る)	
月間中の400mL献血参加者5,000名	400mL強化月間	継続	複数回献血者	夏季・冬期・の血液不足月	4回	固定施設で、特に400mL献血の確保が困難な月を限定し、複数回400mL献血者を対象に参加カードを渡し、限定月での400mL献血者に粗品をプレゼントし、赤血球確保に努める。	
血小板成分 予約献血者数 6,200名確保	PC献血予約制	継続	複数回献血者	通年	常時	平日の午前中での血小板成分献血者を計画的に確保するため、電話及び次回献血予約で複数回の血小板成分献血者の献血予約を募り、粗品(焼き立てパン)をプレゼントし日々安定した血小板成分献血者確保を図る。	
新規及び10代 20代の献血率を全体の30%確保	献血啓発活動	継続	一般市民	7月 1月	2回	若者が集うJR高崎駅周辺を及び中心市街地をボランティア約50名が広報資料(うちわ/ホケットテッポウ)を配布しパレードを行い、広く市民への献血啓発活動と献血参加を呼び掛ける。	

50

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者3,500人を目標として 献血出前講座を実施	若年層献血セミナー	継続	小、中、高校、専門 学校生等	年間	未定	実施学校訪問	当センター顧問が相手先を訪問し、血液の知識から 献血の重要性まで講演を行う。
参加者500人を見込んだクリ スマス献血イベントを実施	クリスマス献血 キャンペーン	継続	若年層	12月23日	1	各献血ルームとイベント 実施会場	キャンペーン内容を周知するため県内全域に届くFM 放送の活用と学生献血推進連盟との連携を強化し若 年層への献血参加を呼び掛ける。イベントでは埼玉 西武ライオンズ選手とのトークショーや献血クイズな どを開催
17歳の400mL献血を推進 し、年間高校生献血14,200 人を目標に高校生献血を啓 発する	17歳の400mL献 血推進	継続	高校生	4月～10月	20～40	高等学校	献血未実施校について、県・市町村・血液センター3 者による高校訪問を実施し、校内献血及び献血ルー ムにおける献血啓発を行う。
新高校1年生の献血啓発(参 加者200人を目標とした献 血ルーム見学会を実施)	新高校1年生献 血ルーム見学会	継続	高校1年生	4月～6月	期間中毎日	各献血ルーム	全公立高校の1年生全員の献血ルーム見学会カ ードの配布とポスターの掲示依頼。
参加者700人を目標とした卒 業献血キャンペーンを実施	卒業献血キ ャンペーン	継続	高校3年生	2月～4月	随時	各献血ルーム	公立高校及び私立高校の3年生全員にチラシの配布 とポスターの掲示依頼。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60歳以上の献血者 18,000人確保する	高齢層の献 血者確保	継続	60歳～64歳	8月～9月 1月～2月	2	献血ルーム	60歳から64歳までに献血歴の無い方に、献血依頼 及び69歳まで献血を継続いただけることを葉書(年賀 状、暑中見舞)にて周知を図る。
子供の参加1,500人を目標と して献血キャンペーンを実施	親子ふれあい献 血キャンペーン	継続	幼稚園児・小学 生とその父母	未定	1	各献血ルームとイベント 実施会場	キャンペーン内容を周知するため県内全域に届くFM 放送の活用と各市町村広報誌へ掲載。子供に人気 の記念品の検討。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血団体30団体を確保 する	献血協賛企業活 動推進事業	継続	団体・企業	年間を通して			献血未実施企業及び団体に対して県・市町村・血液 センターの3者により新規開拓を行う。また、献血協賛 企業からの新規協力団体を紹介いただく。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
7月から9月 3300人 1月から3月 3200人 (通常の2割増の会員確保)	メールクラブ新規 会員募集キ ャンペーン	新規	携帯メールク ラブ未加入献 血者	7月から9月 1月から3月	2回	強化期間に登録していただいた献血者には特典(粗品等)を設け集中的に会 員を確保する。	
献血協賛企業の95団体の 登録を目標とする	献血協賛企業活 動推進事業	継続	団体・企業	年間を通して		既献血協力団体あてに将来の献血者の安定確保に向け、情報提供(血液事 業の現状)を行うとともに献血協賛企業登録の説明訪問を行う。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
イベント参加人数の内、AED、 心臓蘇生法の参加人数を100 人とする	赤十字ふれあい広 場	継続	一般	5月	1回	献血の実態及びAED&心臓蘇生法の体験や救護物資の展示等を行い、赤十字活 動への参加を促す。	
10代20代の新規献血者の増加 を図る	浦和レッズ献血協 力ポスター作成	継続	若年層	5月	1回	浦和レッズの協力をいただき、献血推進用ポスターを作成し、県内の全高校、大 学を中心に約1,000か所に掲示する。	
10代20代の新規献血者の増加 を図る	埼玉西武ライオン ズ献血協力用ビ デオ作成及び通年用 ポスター作成	継続	若年層	4月	1回	埼玉西武ライオンズの協力をいただき、通年用ポスターの作成と西武ドーム・献血 ルーム・血液センターホームページで放映する献血協力用ビデオの作成。ポスター は、各市町村をはじめ、高校・大学等約1,000か所に掲示する。	
高校生を含む学生の献血者数 を平成22年度実績の34,190人 から、約8%アップの37,000人 を目標とする。	埼玉県若年層献 血啓発キ ャンペーン	継続	高校生を含む学 生	3月	1回	埼玉県在住又は通学の高校生を含む学生による参加型のイベントを開催し、若者が 助け合い協力し合って何かをやろうという視点から、より効果的な献血の啓発活動を行 う。	
献血者確保計画に基づくキ ャンペーン期間中及びイベント実 施日において約10%アップの 献血者確保を目標に県内全 域に周知を行い、イベント集客 数の増強と献血者の確保を行う。	FM NACKS5による 献血PR放送	継続	若年層	キャンペーン期間中		地FM局NACKS5に於いてキャンペーンの周知CMや血液不足時の献血案内スポット 放送を行う。	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の新規献血者5%増員	若年層献血セミナー	継続	高校生	9~1月	3	県内高等学校他	スライドを使用した血液・献血についての講義と映像(DVD)による献血や赤十字の活動紹介
県内応募者を10%増やす	献血啓発ポスター募集事業	継続	中・高等学校	5~10月(募集~発表)	1	県下全域対象	中・高校生を対象として献血啓発ポスターを募集。入賞作品を広報誌などに掲載するほかグッズなどを作成して献血啓発に繋げる。
10代の新規献血者5%増員	広報紙作成	継続	高校生・大学生他	通年(定期に年4回発行)	4	県下全域対象	紙面に学生ボランティアの活動や献血実施校を紹介するほか、献血イベントなどを積極的に取り上げ、若年層への献血啓発に繋げる。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
50人以上の参加	小学生献血学習会	継続	小学生とその保護者および家族	7~8月	1	未定	夏休みを利用して、献血や輸血に関わる施設の見学やセミナーを行い、献血への理解を深める。
5校以上の参加	血液センター体験	継続	主に中学生	7~12月	5	血液センター 献血ルーム	中学生を対象に、スライド・映像による献血セミナーの他実際に献血呼びかけやドナーの接遇を体験していただき血液事業への理解を深める。
2箇所以上の実施	献血ちゃんキャラバン	新規	未就学児小学生	未定	2	未定	幼稚園・小学校に、けん付けちゃんと訪問し、紙芝居や献血啓発グッズを配付して、献血啓発をはかる。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
臨時献血要請可能な企業の確保10団体	臨時献血要請企業	継続	事業所員・大学生等	年間		事業所・大学等	血液不足時の増進等の臨時献血実施可能な事業所・大学の確保をする。
渉外員一人あたり5~20件の新規団体で献血協力団体の確保(65団体)	新規協力団体の確保	継続		年間		新規協力団体	知人・友人・献血推進団体に協力を得て、新規団体を紹介いただく。
1班平均55人以上で年1回の実施団体を50会場増回する	大口協力団体の増回取組	新規		下半期			平成24年度は大口確保のモーニング献血(22種動分)がないため、それに伴う血液量を大口企業の新規と増回をする。また各市町村と調整し、産業祭等で確保する。その種別増を22種動と考えている。
献血サポーター協賛企業10団体	献血啓発ポスター製作	継続	献血協賛企業	9月頃~掲出			献血協賛企業のスポーツチームを献血啓発ポスターに採用し、献血協力の促進を図るとともに、献血協賛企業を紹介することで、各協力団体の献血協賛への参加を促す。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者を35%まで増加させる。	複数回協力者確保事業	継続	年1回の献血者	4月~3月			1. 年1回の献血者に対し、要請ハガキやメールにより、複数回の献血を依頼する。また、既に複数回ご協力いただいている献血者にも、定期的なご協力を依頼する。 2. 献血ルームに設置したサイロスタンプを増設し、また、移動採血会場でも導入し、複数回献血クラブ会員を募る。新規登録キャンペーンとして、献血会場でも登録していただいた方に粗品進呈。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
冬期・年末年始・年度末の献血者を5%増やす	冬期・年末年始・年度末確保	継続	期間内実施協力者	12月~3月			記念品を用意し、期間内の実施協力団体に事前PRを行い、前年同時期の献血者を6%増加させる。
冬期における献血者数を3%増やす	番組提供による献血情報放送(FM放送)	継続	県内在住者	11月~4月	24回		(株)パイエフエムの番組(毎週金曜日17:18頃~5分間の番組を提供し血液センターのクレジットとともに、毎回40秒の生CMを放送する(CM現行は毎週更新し、現状に即した献血情報や血型別の呼びかけを実施))
冬期における献血者数を3%増やす	コミュニティ放送による献血呼びかけCM	継続	県内在住者(君津地区・京葉地区)	12月~4月	1日/2回 期間中		地元のミニFM局(かずさFM・いちかわFM)より、1日2回、血液型別の献血呼びかけCMを放送する。(型別の呼びかけは、12/1ターンを用意し、血液在庫状況により毎週変更)
冬期における献血者数を3%増やす	地元テレビ局による献血CM放送	継続	県内在住者	12月頃~3ヶ月程度	150本		地元千葉テレビより、月50本程度献血啓発CMを放送(素材は、本社製作によるもの、または、千葉センター独自制作のCMを使用)

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
短大・大学生約700人対象に複数回依頼	若年層確保対策	継続	短大・大学生	3月	1	明治神宮	全日本ラクロス協会協力のもと、加盟大学の参加者及び協力者(関東ブロック対象者約3,000人)、新規400ml献血者を確保し複数回へ繋げる。参加者全員にパンフレット資料の配布と説明を行う。
高校・大学・専門学校献血の新規・増回(10班)	若年層確保対策	継続	高校・短大・大学生	4~7月	常時	学校敷地内	献血への理解を深めてもらうため、中断団体への訪問を含めた献血セミナーを開催し、献血を10校程度実施。新規400ml献血者を確保し複数回へ繋げる。
学域を中心とした、献血推進(献血セミナーの実施:20会場)	若年層確保対策	継続	10代~20代	通年	常時	献血会場他	献血への理解を深めてもらうため、既存や中断・未実施の学校などへ訪問し、献血セミナーなどを20会場実施。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
子育て中の方が協力してもらえるような環境整備(お子様保育など年間利用140名)	年齢層に応じた献血者確保対策	継続	20代~30代	通年	常時	献血ルーム	献血者への「おもてなし」を考え、献血ルームの多目的スペースにて、子育て中の方でも献血しやすい環境整備を継続し行う。
啓発活動の一環として小学生や家族を対象にセンター見学を実施しながら、献血について学んでもらう(小学生300名以上の参加)	なるほど献血セミナー	継続	小学生	7月~8月	10	血液センター	応募により小学生の親子に対してセンター見学を実施し、親子で楽しめるクイズ等を実施しながら血液の大切さを学んでもらう

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・掘起しを60箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	通年	常時	各企業・事業所等	既存団体からの紹介や、特にCSR活動を推進している企業代表メールへの献血協力依頼や、パンフレットなどを活用した訪問(依頼)により確保する。
増回実施50箇所	協力団体増加対策	継続	企業及び団体	通年	常時	各企業・事業所等	増回の提案時に、献血の現状や需要状況などの資料を用いて説明を行うとともに、映像素材も活用し協力の理解を求める。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400ml献血者の8%を携帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保事業(携帯メールクラブ推進)	継続	400ml献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。	
O型献血者総数の15%を携帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保事業(携帯メールクラブ推進)	新規	O型献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。	
AB型献血者総数の15%を携帯メールクラブに加入推進する。	複数回献血者確保事業(携帯メールクラブ推進)	継続	AB型献血者	通年	常時	サイト誘導装置及び募集用チラシ等を活用し複数回献血を推進し、必要時の依頼献血を継続していく。	
複数回献血クラブの新規登録者8万名確保を目標とする	新規登録キャンペーン	継続	複数回献血クラブ未加入の献血者	通年	常時	平成22年度における東京都内の複数回献血クラブ会員の複数回献血の割合は59.3%であった。このため、継続して会員数増加に重点を置いた対策を推進していくこととする。	
献血者一人当たりの年間平均献血回数2回以上を目標とする	複数回献血クラブポイント制	継続	複数回献血クラブ登録者	通年	常時	複数回献血クラブシステムの機能により献血するごとにポイントを付加することにより、複数回献血の推進を図る。平成22年度における東京都内の一人当たり平均献血回数は1.9回であり、複数回献血クラブ会員の献血回数増加を図ることによって、全体の底上げを図ることとした。	
依頼に対する応諾率25%以上を目標とする	献血依頼Eメール配信	継続	複数回献血クラブ登録者	毎月	12	採血種類別・血液型別に、会員に対して献血依頼Eメールを配信する。メール配信者数の増加を図っていくことにより、安全な血液の安定的確保に資することを目的とする。	
依頼に対する応諾率10%以上を目標とする	献血ルーム案内はがき(ダイレクトメール)の発送	継続	各献血ルームにおける一定期間未献血者(複数回献血クラブ会員以外)	毎月	12	Eメール送信対象外の献血者に対してダイレクトメールを送付することで、複数回献血に繋げていくこととする。	
依頼に対する応諾率30%以上を目標とする	移動採血会場案内はがき(ダイレクトメール)の発送	継続	前回、同献血会場に来所した献血者	随時		特に、地域・街頭等の移動採血場所を中心に、定期的な献血への協力を依頼する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ルームの環境整備(VVR発生率8%以下など)	環境整備	継続	全年齢対象	通年	常時	充足感・満足感のある環境や、清潔感・安心感のある空間作りを推進するために、献血ルームを中心に見直しを図る。	
成分献血の35%以上を事前予約により確保する	成分献血予約	継続	成分献血可能者(特に、血小板成分献血可能者)	通年		特に、複数回献血クラブの予約機能による予約受付を強化することで、安定的な予約献血者確保に繋げる。	
(1)平成23年度履修者数28名以上を目標とする。 (2)展示イベントの来訪者500名以上	産学共同事業	継続	全年齢対象	通年	1	血液事業ならびに献血の意義について広く社会に啓発するデザイン・アートを考えることをテーマとして美術大学において産学共同授業を実施。授業は平成24年度上半期にて実施。血液センター職員も定期的に授業へ参加する。授業を通じて学生が制作した作品は、イベント等において展示するとともに、有用なアイデア・作品については平成24年度中に試行的に実施する。	

1 若年層献血者確保対策  
※平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

Table with 7 columns: 平成24年度の数値目標, 事業名, 新規・継続, 対象者, 実施時期, 回数, 予定場所, 内容(具体的かつ詳細に記載すること). Rows include activities like '献血者増進100人', '参加校18大学', '移動献血車', '公式戦ホームゲーム', 'かわさきフロン献血ルーム', '献血者増進大会', and '放送回数52回'.

57

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策  
※平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

Table with 7 columns: 平成24年度の数値目標, 事業名, 新規・継続, 対象者, 実施時期, 回数, 予定場所, 内容(具体的かつ詳細に記載すること). Rows include '参加者数 児童生徒300人, 保護者200人' and '年間10校程度実施'.

3 企業等における献血の推進対策  
※平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

Table with 7 columns: 平成24年度の数値目標, 事業名, 新規・継続, 対象者, 実施時期, 回数, 予定場所, 内容(具体的かつ詳細に記載すること). Rows include '新規紹介20社(団体)', '新規協力(協賛)法人50社', '献血推進団体の会合への出席20団体程度', and '行政の献血担当者への献血協賛企業(団体)の継続的実施と新規(賛同)企業団体の増加30社程度を目指す'.

58

4 複数回献血協力者の確保対策  
※平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

Table with 7 columns: 平成24年度の数値目標, 事業名, 新規・継続, 対象者, 実施時期, 回数, 予定場所, 内容(具体的かつ詳細に記載すること). Rows include '依頼者の9%を会員として確保', '依頼者の40%を会員として確保', '年間応募予定 3,000人以上', '50,000人の依頼に対し年間応募予定 5,000人以上', '40,000人の依頼に対し年間応募予定 18,000人以上', '20,000人の依頼に対し年間応募予定 2,000人以上', and 'カード発行数 45,000'.

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規会員6,000人の確保	複数回献血クラブ 新規会員確保	継続	献血登録者	通年	常時	非接触型サイト誘導装置を献血会場に整備し、さらなる会員確保を図る。
28,000人の登録 4,000人の確保	年末年始対策 「郵便はがき」による献血要請	継続	献血登録者	12月・1月	1回	年末年始期間中の赤血球・血小板確保対策として献血登録者への献血要請を実施。成分献血要請者には、献血予約制を活用し、効率的な血小板確保を図る。
15,000人の登録 1,200人の確保	ゴールデンウィーク対策「郵便はがき」による献血要請	継続	献血登録者	4月・5月	1回	ゴールデンウィーク期間中の赤血球・血小板確保対策として献血登録者への献血要請を実施。ゴールデンウィーク前後に各1回、合計2回の依頼を行う。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

新潟県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年層(16~29歳)の献血者構成比を30%以上にする。	若年層献血セミナー	継続	高校生・大学生・専門学校生	通年	8回	学校行事の一環として感染症、血液、献血について、DVD、スライド等を使用した分かりやすい講演を実施する。行政と連携し、県が実施したアンケートにより実施の可能性のある学校に訪問し、理解を求め、H23年度実績は、全高校生対象の学校は満額を3年に1度ローテーションするケースが多いため、その分、新規実施の学校を開拓し、昨年度並みの回数を実施する。
同上	本社キャンペーンと運動したイベント等	継続	新潟県民(特に若年層がターゲット)	7月、1月	2回	集客の見込めるショッピングセンターもしくはイベント会場
同上	献血バス配車	継続	大学生・専門学校生・高校生	通年	68回	大学・専門学校・高等学校等
同上	献血推進活動(主に呼びかけ)への参加	継続	大学生・専門学校生・高校生	通年	8回	イベント会場、学校、街頭
同上	雑誌等を活用した広報	継続	大学生・専門学校生・高校生・20代	通年	6回	新潟県内全域

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所 内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間合計で250名の参加	青少年等献血ふれあい事業	継続	中学生・高校生・大学生	5月・7月・10月・12月	4回	母体・献血ルーム・イベント会場
50歳以上の献血者を3%増加させる	テレビ・ラジオを活用した広報	継続	50歳以上の県民	通年	52回	新潟県全域

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体5社	効率的採血の確保	継続	県内の事業所及び団体	通年		各事業所	行政の献血担当部署と連携し、一定数(20名以上)の協力が見込めそうな事業所等に献血受入の依頼をする。
新規5社	献血協賛企業活動推進事業	継続	県内の事業所及び団体	5月から2月までの間に随時	5回	各事業所	未加入の団体に対して献血実施の依頼訪問時に加入の依頼をする。推進協賛団体等が必要に応じて書面で依頼を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の割合35%	複数回献血者確保対策	継続	年1回の献血者	通年			複数回献血クラブ会員の精密なデータ管理による効果的な情報発信、一般献血者へのハガキによるDM発送により、長期間、献血から意識が離れたことを防ぐ。可能な限り年1回以上は何かの情報を到達させる。
複数回献血クラブ10,000人(現在約7,000人)	複数回献血者確保対策	継続	未登録者	通年			年間3,000人の新規登録者を獲得する。献血受入会場での献血者への登録推進及びDM発送による登録推進。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ニュースリリース配信による取材3社以上・イベント実施後1週間の献血5%増	県内「献血者500万人達成」イベント	新規	全新潟県民	平成25年2月頃(500万人達成見込み時期)	1回		県内のいずれかの献血ルームで記念イベントを開催する。その際、各メディアの取材やラジオ中継などでも広く県民に周知できるようにする。 ※当日は献血者に記念品の提供を行う。
キャンペーン期間中の200名以上の反応	テレビ・ラジオを活用した広報	継続	全新潟県民	4月～5月、10月～12月	2回		〇県庁ラジオ局(FM)による広報 10代～40代の聴取シェアNo.1であるFM-NIGATA(FM)を活用し、血液が不足し続けている県民の不安を軽減し、献血を呼びかける献血応援キャンペーンを実施するとともに、血液不足やキャンペーン等のタイムリーな献血情報について放送する。 〇献血応援キャンペーンの一環として、新潟の話題の著名人を用い、番組コーナーを設けて献血に興味がない方や普段ラジオを聞かない方も幅広く巻き込める企画を実施する。番組への「献血してきた!」メッセージ数及び採血会場での「番組を聞いてくれた!」声かけ等で効果を検証する。
新潟県の献血可能人口約140万人のうち、半数(70万人)以上に献血イメージを到達させ、また献血可能年齢の子供(5～14才)(約21万人)のうち、半数(10万5千人)以上に献血というワードに触れる機会を作る。 *人数は平成22年国勢調査より	テレビ・ラジオを活用した広報	継続	全新潟県民	7月、12月、3月	3回		〇テレビCM H23年度に制作したCMを、幼少期の子どもを擁護し県民への献血の意識付けとなるよう放送する。(特に献血者確保が困難と予測される時期に実施。年間300本) 各放送局に視聴率を目標値(表示率)を確保する。テレビCMの計画法から58%の人口(献血可能人口85万人)(幼少期の子ども12万人)が対象となることとなる。思想普及を目的として、インジキのみが対象である2回の機会では目的を達成出来ないことから、繰り返す必要がある。CMは1分未満の15秒版を制作して1クール(1か月)で献血可能人口及び幼少期の子ども12万人の99%以上を到達させ、更に、忘れて頃に再度思い出してもらうために2クールに分けて実施する。
放送月録献血数の予定数3%以上増加及び自給	テレビ・ラジオを活用した広報	継続	全新潟県民	7月、12月、3月	3回		〇テレビによる広報 録音から録音可能な時間帯に、県内放送各局の中で、効果的と思われる高視聴率の番組内において献血メッセージを放送する。(年3回、1回3分間程度)。内容は献血ルーム紹介、献血協力及び献血の現状等。
H23年度学生(高校生・大学生・その他学生)の受付数(現在未定)以上	JRデジタルサイネージを活用した広報	新規	県内主要11駅の利用者	6月、11月、2月(学生の長期休みの前の月)	3回		〇「献血メディア」(ADビジョン)を利用して、県内11駅を対象に計10箇所のデジタルサイネージによる動画及び静止画(1CM30秒1〜4シーンまで)を放映する。基本は10分間隔で1日90回、月間(30日)2,700回のCMを放映。素材は、テレビCMで制作した15秒動画の他、各地域に合わせた献血バス会場や献血ルームの紹介静止画を活用。
メルマガ登録会員数4,000名以上	携帯・電子メールサイトによる広報	継続	月刊誌「Komachi」購読者	通年	12回		〇月間発行部数約1,000万部以上、メルマガ登録約12万人の県内最大の情報サイト「たね」に「たね」を活用し、サイトへの情報提供やプレゼント企画による会員獲得、対象者へのキャンペーン情報の発信等を行う。読者会員がサイト内で血圧センターに登録すると各自に情報発信が可能となる。
献血ルーム受付数の対前年比の増	雑誌等を活用した広報	継続	全新潟県民	4月、6月、12月	11回		県内毎月刊誌(2誌):エリア限定のポスティング週刊誌(折)「折り込みチラシ」(2冊)を活用し、主に献血ルーム周知及び誘導を図る。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

山 梨 県 赤 十 字 血 液 セ ン タ ー

① 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
県下高校・大学生500人対象に献血セミナーの実施	若年層献血セミナー	継続	高校生及び大学生	5・6・7・8・11・12月	12回	血液センター及び各献血会場	献血に関する説明を「愛のかたち献血」と「WE CAN献血」で献血への理解と協力を促す。23年度実施された高校出前講座も単発では終わらないようにする。
10代、20代の全体に占める献血率は30%にする。 高校生献血者数 H22年度実績 2,484人 H24年度目標 2,600人	高校献血全校実施	継続	高校生	5・7・9・10・11・12月		県内41校	将来の献血者確保を図るために全高等学校での献血を実施する。本年度から1校減となるが、10月(4校)・11月(7校)のうち3校を12月に移行し17歳の献血者を募る。
高校生献血者数 H22年度実績 2,484人中 400ml献血 670人 H24年度目標 2,600人中 400ml献血 1,000人	高校集団献血時に、400ml献血推進	継続	高校生、養護教諭	5・7・9・10・11・12月		県内41校	各高等学校の献血渉外時、保健室及び養護教諭に対して400ml献血の必要性を再度説明し、理解と協力を頂くこととする。
大学生献血者数 H22年度実績 2,020人 H24年度目標 2,200人	大学献血の実施	継続	大学生	4・5・6・9・10・11・1月		県下7大学	大学内献血では、各大学の学生献血推進連絡会による(各大学とも学生部主催が多いので部・サークル等の会員を中心に)献血呼び込みと成分献血推進のために献血ルームの場所の案内と特色が入った案内チラシを配付する。
H22年度実績 129人 H24年度目標 300人	学生献血推進連絡会主催献血	継続	大学生	8・11・12月	3回	ショッピングモール	学生献血推進連絡会による年3回の街頭献血実施。

② 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
県下小・中・高校生300人対象にふれあい事業の実施	青少年等献血ふれあい事業	継続	小・中・高校生	7・8・10・11月	6回	血液センター及び献血ルーム	献血に関する説明を「愛のかたち献血」と「WE CAN献血」で献血への理解と協力を促す。23年度実施された高校出前講座も単発では終わらないようにする。俳句コンテストを通じて小学校にもつながりを持っていく。
20代の献血者を増加させる。 H22年度実績 6,508人(献血率18.3%) 各種学校実施407人 H24年度目標 6,758人(献血率19.3%) 各種学校目標500人	各種学校主催献血	継続	各種学校(警察、消防、各専門学校等)	4・5・6・7・1月	10回	各献血会場	(半日での実施が多い中)従来通り、各学校の職員スケジュールへ献血協力を入れて頂くように依頼する。
20代の献血者を増加させる。 H22年度実績 6,508人 全体に占める献血率18.3% H24年度目標 6,652人 全体に占める献血率19.3% 30代の献血者を増加させる。 H22年度実績 6,480人 全体に占める献血率23.8% H24年度目標 6,753人 全体に占める献血率25% H22年度青年会議所実績 1,929人 H24年度青年会議所目標 1,000人	青年会議所主催献血	継続	各青年会議所メンバー	7・8・11・12月・1・3月	7回	各献血会場	各青年会議所の定期総会で献血委員長及び理事長からメンバーへ献血の周知を行い、献血者数のアップと献血知識の啓蒙を図る。年間7回の継続していくが、1回新規主催者を増やす努力とする。

③ 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業・団体を(過去に行っていた団体を含む)5社増加させる。	新規献血団体	継続	企業及び団体	4月～3月	5社	各事業所等	保健所・市町村等に紹介を頂き新規事業所の開拓を行う。5社増加で150人の増目標
年1回の献血実施団体を年2回依頼する。(5団体)	団体の複数回献血	継続	企業及び団体	4月～3月	5団体	各事業所等	50人以上献血者の10団体に年2回の献血依頼をする。5団体が倍増し250人増
企業献血でDM・携帯メールの応答率を30%にする。	企業献血の推進	継続	企業及び団体	4月～3月	約30社	各事業所等	事業所の献血者3,000人へDM・携帯メールによる献血協力依頼。900人の献血者目標
県内約50社の小規模事業所へ献血依頼を行い移動献血車を配車する。	小規模団体の 掘り起し	継続	企業及び団体	4月～3月	24社	各事業所等	小規模事業所へ直接移動献血車を配車し、一日1台で3ヶ所の移動献血を行う。1社当たり10～15人献血者で300人予定
献血サポーター団体を20団体増やす (12月末現在50団体)	献血サポーター の増加	継続	企業及び団体	4月～3月	20団体	各事業所等	(40団体以上にコンタクトを取り)サポーターになった団体には、献血依頼はもとより献血しない時でも献血情報等を届ける

④ 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	方法	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血協力者を28%まで増加させる。	複数回献血協力者 確保事業	継続	地域・街頭での献血者	4月～3月	DM約70回 携帯メール 約360回	DM・携帯メールによる 献血協力依頼	12,000人以上に対し、DM・携帯メール依頼し献血者には処遇品等を出し、応答率30%以上(H22年度は20%弱)を目指す。
複数回献血協力者を28%まで増加させる。	携帯メール登録者 確保事業	継続	全献血者	4月～3月 献血時に確保	毎回	複数回献血クラブ会員の 募集のため、献血記念品 を配付する。	H23年12月31日現在携帯メール登録者数2,615人 H24年度携帯メール登録者目標人数 1,000人 (年間通しての)キャンペーンの実施(記念品の進呈)

⑤ その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	方法	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ルームの献血者を15,000人にする。	献血ルーム献血者 確保対策	継続	大学生等	4月～3月		献血ルームのチラシを 配付	移動献血車での献血者及び大学での献血者に対し献血ルームのチラシ10,000を配付する。特に近隣の4大学では、移動献血時献血ルームへの献血を合わせて呼びかけ約100人の献血者を誘導する。
献血ルームの献血者を15,000人にする。	献血ルーム献血者 確保対策	継続	各事業所・団体等	4月～3月	20団体に 依頼	各事業所・団体等へ献血 ルームへの献血依頼	移動献血バスで実施していた団体を5団体以上を(一人あたりの献血回数を増やしたり移動献血バスの効率性のため)献血ルームに移行する。
400mlの献血率80%を維持する。	高校生の400ml 献血推進	継続	高校献血	5・7・9・10・11 ・12・1・2月	41校	各高校を訪問し依頼する	県内41校を訪問し、400ml献血を推進する。(3校の年間2回献血依頼 3年生対象) 高校集団献血時実績 H22年度 400ml 670人 高校集団献血時目標 H24年度 400ml 1,000人 400ml献血者には、(400ml献血が目立つように)献血前に啓発物品(マフラータオル)を渡すことにより、その場で400ml献血に変更する人が増える。
献血ルームの400率90%・10代の献血者全体に占める割合10%・新規献血者並びにリピータ300人確保	サッカーJ1(ヴァンフォーレ甲府)とタイアップした献血推進	新規	全献血者	4月～11月	イベント参加 各1回、ポスター1回、固定看板1枚	献血ルーム・移動献血車のイベントへの参加、ポスター等の作成、競技場への固定看板(垂れ幕)の定期的掲載	チームサポーター(約9,500人)を対象にした献血啓発活動、とくに新献血ルームの周知を目的に献血者を増やす。



1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
学生ボランティアによる街頭啓発活動を4会場を実施し10・20代構成比を35%以上確保する。	学生献血キャンペーン	継続	若年層を狙った街頭献血の実施	7月、12月	4	長野駅前 アピタ飯田店	・学生ボランティア(20~30名)により行う。また啓発用資材を作成し、献血者には学生が選択した記念品のプレゼントを行い、同世代の献血者を勧誘する。 ・献血後にアンケート調査を行い、今後の献血活動の参考とする。
学生を150名個定施設に送迎	高校生・短大生・専門学校・大学	継続	高校生、短大生、専門学校生、大学生	4月~3月	25	長野県短期大学 長野工業高等専門学校 長野日大高等学校	・定期的(月1回)に送迎を実施し定例送迎として定着を図る。(1回4名、年間23回実施) ・送迎当日は昼休みに送迎実施を記載したティッシュを配布し、授業終了時に送迎車により献血者を迎えに行く。 ・校内献血以外に年1回送迎を行い、固定施設の場所を覚えていただき今後の献血につなげる。(1回20名、年2回実施)
個定施設の学生献血率を5%にする。	学校に啓発物の配布	継続	高校生、短大生、専門学校生、大学生	4月~3月	30	個定施設近隣の学校	・校内献血を実施していない大学や専門学校、校内で固定施設の地図の入ったティッシュを配布し固定施設へ献血に来所いただく。(1回500名、年20回配布) ・校内献血を実施している学校では、キャンペーン時、血液不足時、校内献血実施時に、キャンペーン内容、不足血液型、献血受付時間の案内ティッシュを配布する。(1回500名、年10回配布)
10・20代の献血率を25%にする。	献血セミナー	継続	学生(小・中・高・短大・大学・専門学校)	4月~3月	20	各校 血液センター	・献血を理解していただくため、学校の行事(文化祭・授業)に献血のビデオ上映、献血についての説明会を開催する。(10回) ・看護学生の血液センター見学に併せて献血事業の説明、献血に協力いただく。(10回)
若年層献血協力者の献血率25%以上とし、血液の安定確保を図る	献血体験イベント	新規	若年層を狙った街頭献血の実施	10月~3月	4	県内4地区で実施	・献血協力者が減少する時期に多くの人達が集まる場所(ショッピングセンター)でイベントを行う(県・市町村・ライオンズ協賛) 献血者にお菓子、記念品を配布する ・献血者の家族にも風船・チラシ等を配布し献血の啓発をする

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
街頭献血を実施できる新規会場を10カ所以上開拓する	幅広い年代の受入	新規	企業内献血をしていない方	4月~3月	10	大型スーパー 催し物会場	・買い物客が多い大型スーパー、来場者の多い催し物会場で街頭献血を実施し、小規模企業、大学、短大等献血率が巡回していない人を対象とし献血をお願する。 ・血液在庫の増減に合わせ配車計画を調整することが出来る。
各市町村で献血講座を20回以上実施する	出前献血教室	継続	小中学生	随時	20	県内小中学校	・血液についての知識や献血について理解を深めるためスライド・動画等で講話を実施する。
青少年を対象とした血液センター等での各種体験学習を20回以上行う	青少年等献血ふれあい事業	新規	小中学生	4月~3月	20	血液センター・ルーム	・血液センター献血ルーム及び移動採血車等の施設見学を実施し各種体験学習を行う

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規企業10社実施	新規協力企業の確保	継続	100名規模の企業	4月~3月	10	各事業所等	・従業員100名以上の企業が約900社程度あるが献血されていない企業約100社のうち20名以上献血に協力いただける企業の献血を実施する。(年間5社) ・従業員100名未満の企業で15名程度献血いただける企業の献血を実施する。(年間5社)
献血協賛企業の20団体の登録を目指す	献血協賛企業活動推進事業	新規	団体・企業	年間を通して	20		・献血協力団体あてに献血者の安定確保に向け、情報提供を行うとともに献血協賛企業登録の説明訪問を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
メールによる献血協力者1,000名、(応募率20%)	複数回献血クラブ会員	継続	複数回クラブ会員	4月~3月	40		・23年度複数回クラブ会員数を8,000名に増加させる。 ・具体的には、街頭献血をはじめ受け入れ可能な献血会場へ向かいサイトスタンプを使った新規会員の確保と合わせて、エラー等による退会者への再入会を促進を行う。 ・月2回の定期、血液不足時にメール配信をし、5,000名に依頼、1,000名の献血者を確保する。
はがきによる献血依頼2,000名、(応募率10%)	過去の献血者から一定期間未献血者	継続	過去の献血者、献血登録者	4月~3月	24		・1年以上献血していない方を中心に献血を依頼する。 ・年間20,000名の方に献血の依頼を行い、このうち10%、2,000名の献血者を確保する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
午前指図の95%確保	午前の血小板確保	継続	血小板献血協力者	毎日	56		・午前中の血小板確保のためキャンペーンを年4回実施し、血小板確保する。 ・依頼時(ハガキ・メール)は午前中の協力依頼を強調し、月2回程度依頼を行い午前中の血小板確保を行う。 ・午前の血小板確保の必要性を提示し午前中の来所者を増やす。 ・市町村職員を午前中に送迎し血小板献血をしていただく。(年30回、100名を確保する。)
固定施設の計画数確保するため50回以上の送迎を行う	固定施設献血者確保	継続	企業・短大・専門学校	4月~3月	50		・血小板確保、全血確保を目的に定期送迎を年40回行う。 ・血液型別の不足時に送迎できる企業を10団体まで増やし不足時に送迎を行う。
400ml献血率を85%以上に上げる	400ml採血車の向上	新規	全会場	年間			・移動採血、固定施設の400ml採血率を85%以上に上げる。 ・移動採血の会場で400ml採血を限定した会場を増やす。(40会場) ・PPP採血希望の献血者を400ml採血へ移行して頂るように積極的に依頼する。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代～20代の献血率を27%にする	献血セミナー	継続	短大・大学・看護学校生	4月～6月	5回	各学校	短大等5校で新入生(予定300名)を対象に、献血セミナーを実施し献血の必要性及び重要性を説明し、400mL献血、血小板献血への理解を深めてもらい、献血意識の向上を図るとともに、献血の協力をお願いする。オリジナル小冊子・パワーポイント等を使用する。
10代～20代の献血率を27%にする (献血者数300名を目標とする)	ボランティアと連携するイベント	継続	特に若年層	8月、12月	2回	ショッピングセンター	学生ボランティアと連携し、中部統一・全国統一の献血キャンペーンを実施し、同世代の若者に献血の理解と協力を呼びかけ、夏場・冬場の血液不足を補うとともに若年層の献血者を増やす。ラジオCM(1局)、告知ポスターを電車に掲出(1社)、はがき依頼(400名)等で周知を回り実施する。
10代～20代の献血率を27%にする (120組、献血者360名を目標とする)	いっしょに献血キャンペーン	継続	短大・大学・看護学校生	4月～11月	10回	各学校	大学等7校での学内献血実施時に、3人でいっしょに献血キャンペーン(先着15組、45名にカップラーメン等提供)を実施する。構内に告知用ポスターの掲示、学生ボランティア・当日献血協力者より友達にメール配信を依頼し周知を図る。また、ボランティアによる同世代からの呼びかけを実施する。
10代～20代の献血率を27%にする (献血者350名を目標とする)	高校生400mL献血キャンペーン	新規	高校生	10月～2月	12回	各学校	400mL献血に協力いただいた学生に、通常の粗品に加え記念品を提供する。学校の了解を得て、周知用チラシを献血告知用ポスターに貼付け事前PRをし、献血当日の受付会場においてもPRチラシを掲示する。

67

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
親子で40組の参加	親子見学会	継続	小学生・保護者	7月～8月	2回	血液センター	本社作製DVD素材(おしえてけんけつちゃん!)を用いて献血の流れを説明し、献血クイズ及び血液に関する知識を高める。施設見学(供給課、パネル展示室)、献血バス・血液運搬車の体験乗車をしてもらい、見学会に感想文を書いてもらう。各小学校への参加依頼とともにホームページへの掲載や商業施設等で告知チラシ掲示を依頼する。
JRCTトレセン参加の小学生・中学生・高校生で90名	献血啓発	継続	小学生・中学生・高校生	8月	1回	青少年自然の家	JRCTトレセンで献血啓発を行う。オリジナル冊子・パワーポイントを使用し実施する。学生が集う場所に「献血の流れ等」パネルを展示する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力事業所10社・休眠事業所10社の増加	献血協賛企業推進	継続	事業所・団体	4月～3月		各事業所等	富山県主要工場名簿を活用するとともに、ライオンズクラブへ協力事業所紹介を依頼し、新規事業所の開拓、休眠事業所の掘り起こし、事業所担当者に妻のかたち献血等活用して献血の必要性を理解していただけるよう働きかける。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血率を27%までに増加させる	複数回献血協力者確保対策	継続	年1回の献血者	4月～3月		はがき及び電子メールを活用し、年1回の献血者2万人に対して、複数回の献血協力を依頼する。	
複数回献血率を27%までに増加させる (献血者1,500名を目標とする)	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	4月～3月		4月～9月に400mL献血協力者にキャンペーンカードを配布し、7月～3月に再度400mL献血者に粗品を進呈する。受付場所や献血バス内でキャンペーン周知チラシを掲示し、ホームページでキャンペーン案内を掲載するとともに、複数回献血クラブ会員へメール配信し協力依頼する。	
複数回献血クラブ会員を2,000名にする	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	4月～3月		①会員募集用のチラシ・リーフレット(各15,000枚)、ポスター(1,000枚)を作成する。 ②各献血会場で献血者全員にチラシ・リーフレットを配布するとともに、献血協力事業所等へポスター掲示を依頼し会員募集を図る。 ③ショッピングセンターで会員募集イベントを2回実施する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
献血ルームでの一日の平均血小板献血者を22名確保する	血小板献血者確保対策	継続	血小板献血可能者	4月～3月		①平日での献血協力を県内市町村及び事業所等の担当者に依頼する。 ②登録者への電話依頼、誕生日の献血者へのはがきでの依頼、複数回クラブ会員へのメールでの依頼をする。 ③七夕、バレンタインデー、ホワイトデー等キャンペーンを実施する。	

68

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血セミナーの受講学校数を10校、受講者100人を目標とする。	若年層献血セミナー	継続	大学・短大・高等専門学校生	平成24年5月～平成25年2月	4	血液センター 金沢市内ホテル	石川県学生献血推進委員会を通じて、献血の重要性を理解し、献血ボランティアに積極的に参加してもらう。
学生献血ボランティア数を年度内に50名に増やす。	学生献血ボランティアの活動推進	継続	大学・短大・高等専門学校生	平成24年4月～平成24年6月			学生献血ボランティアを募集するパンフレットを県内各大学等に配布し、学生に興味をもって参加してもらう。
大学構内での献血実施を年度内で20回にする。	大学献血の推進	継続	大学生	平成24年4月～平成24年7月	20	県内大学等	学生献血ボランティアが献血を呼びかける等、活動の場を提供すると同時に、学生らに献血を体験、慣れ親しんでもらう。
石川県学生献血推進連絡会への参加・出席者12校24名を増やす。	学生献血ボランティアの活動推進	継続	大学等教職員	平成24年6月	1	血液センター	平成22年11月に設立した石川県学生献血推進連絡会の参加・出席者を増やし、特に、大学教職員の献血への理解と学生ボランティアへの協力を推進する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
夏休みセンター見学会参加者を240名に増やす。	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生・保護者	平成24年7月～8月	6	血液センター	小学生・保護者を対象に血液、献血、輸血について講義を行い、その後血液センターを見学する。
55歳以上60歳以下の男性PC献血者を年度内400名を目標とする。	シニア成分献血	新規	55歳以上60歳以下の男性	平成24年4月～平成25年3月			1. 過去に成分献血登録していただいた方に献血基準の変更案内と成分献血を依頼する封書を郵送する。 2. 固定施設で成分献血した方に献血基準の変更案内と成分献血をお願いする封書を郵送する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規協力企業・団体を10団体を確保する。	新規協力企業・団体の確保	継続	新規企業・団体	平成24年4月～平成25年3月			県内の企業・団体を訪問し、主に移動採血車での全血献血の協力を依頼する。特に献血サポーター登録団体を中心に依頼する。
血液不足時の協力企業を10団体を確保する。	新規協力企業・団体の確保	継続	新規企業・団体	平成24年4月～平成25年3月			固定施設周辺で、急に全血・成分献血が必要な時に、献血を依頼し、応じていただける企業・団体を確保すべく訪問、依頼する。特に献血サポーター登録団体に依頼する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員を新規に500人募集する。	複数回献血協力者確保事業	継続	複数回献血者	平成24年4月～平成25年3月		血液センター各種広報物に複数回献血クラブの内容、簡便な登録方法等を記載する。
クラブ会員にメールで献血依頼し、250名以上の応募を得る。	複数回献血協力者確保	継続	複数回献血クラブ会員	平成24年4月～平成25年3月		急に血小板献血が必要な時に、複数回献血クラブ会員へ、血液型に絞った献血依頼をメールで行い、近日常での献血協力を得る。
平成23年度初回献血者の献血協力を35%以上とする。	複数回献血協力者確保	新規	平成23年度初回献血者	平成24年4月～平成25年3月		平成23年度初回献血者に継続的に献血していただくよう、居住地(市町)ごとに献血要請書を送付する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
高等学校における献血出前講座の開催(年10校)	血液・献血出前講座	継続	高校生・教員	6月～7月、9月～3月	10	各高等学校	血液・献血に関する正確な情報提供を行い、献血への理解を深めてもらう。講座では、動画素材(献血セミナー、ありがたうって言わせて)、献血ウォーカーの配布、パワーポイントによる説明を行う。(新規本社製作素材が配布後使用予定) 県より各校長あて依頼文書発送(県教育委員会了承)
中学校における献血出前講座の開催(年10校)	血液・献血出前講座	新規	中学生・教員	6月～7月、9月～3月	10	各中学校	血液・献血に関する正確な情報提供を行い、献血への理解を深めてもらう。講座では、動画素材(献血セミナー、ありがたうって言わせて)、献血ウォーカーの配布、パワーポイントによる説明を行う。(新規本社製作素材が配布後使用予定) 県より各市長あて依頼文書発送(県教育委員会了承)
県内全ての短大・大学での学内献血実施(学内献血 年15回)	大学内献血強化対策	継続	短大・大学生	4月、5月、6月、7月、10月、11月、12月、1月	15	各学校	特に4年制大学4校に対し、学校祭以外に学内献血を実施する(各大学・年間2回～4回実施) ライオンズクラブとの調整、全学校へ年間複数回実施の協力依頼を渉外に行う。
中学生対象の社会体験学習受入(年5回)	中学生社会体験学習	継続	中学生	9月、10月、11月 各受入期間(3日から5日)	5	血液センター	中学2年生を対象とした社会体験学習受入施設に登録し、各課の実務等を体験しながら血液センターへの理解を深めてもらう。(研修は1回あたり3日間から5日間)
支部主催のJRCリーダー研修会への出席(2回)	JRCリーダー研修会	継続	小学生・中学生・高校生・教員	8月2日、3日	2	各研修会場	支部主催のJRCリーダー研修会に参加し、学生及び教員に献血に関する研修を行う。研修では、動画素材(献血セミナー、ありがたうって言わせて)、献血ウォーカーの配布、パワーポイントによる説明を行う。(新規本社製作素材が配布後使用予定) 支部担当者に年度計画に組み込んでもらうよう依頼をする。

71

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
50歳・60歳代の血小板成分献血者数 年間1,500人(H23年:1391人)	血小板成分献血者安定確保対策	継続	55歳～64歳	4月、5月	2	血液センター	55歳以上の血小板成分献血可能な方に周知し、年間複数回と継続的な協力をお願いするため、55歳～60歳の成分献血者に対し採血基準改正のお知らせ及び献血依頼をハガキで行う。
小学生対象の親子献血教室開催(年4回)	親子献血教室(ふれあい事業)	継続	小学生・父兄	7月24日、25日、26日、27日	10	血液センター	日赤支部と合同で開催し、正確な情報提供を行い、赤十字への理解を深めてもらう。講座では、動画素材(献血セミナー)DVDありがたうって言わせて、パワーポイントを使用する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血推進団体担当者献血セミナーの開催(年5回)	献血者安定確保対策	継続	献血受入団体担当者	6月、7月、9月、10月、11月	5	血液センター及び各事業所	渉外活動の中で各献血受入団体担当者に対し、セミナー開催の依頼を行う。実施内容は、献血事業の現状や正確な情報提供を行い、理解を深めてもらう。(業務課長及び渉外係長対応)
県内ライオンズクラブ研修会の開催(年3回)	献血者安定確保対策	継続	ライオンズクラブ	6月	3	血液センター	次年度役員の方(各LC2名～3名)に献血研修会(本社配布の動画DVD及び献血の現状等のスライド資料使用)を実施し、継続的な協力をお願いをする。また、県担当者から行政としての役割を説明することで血液事業の理解を求める。
新規及び復活献血協力団体の増加(年5件)	新規・復活団体増加対策	継続	県内企業及び団体	5月、6月、7月、9月、10月		各団体	渉外活動の中でライオンズクラブやロータリークラブ及び市町村担当者等から情報を収集し、新規・復活事業所団体の開拓を行う。また、献血実施表から休職中の事業所に対し推進を行う。その他の資料として県内事業所名鑑を利用する。

72

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回率を現行の28%から30%に増加させる	複数回献血者確保	継続	年1回献血者 初回・新規献血者	奇数月	6	新規・初回献血者に対し、6ヶ月以内の協力をハガキにて依頼する 企業献血計画においても依頼はがきで協力を依頼する	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
移動採血車1台 受付100人、献血者80人	学生献血推進連盟とライオンズクラブ合同「ハートウェーブアクション2012」	継続	一般	9月	1		【学生献血推進連盟活性化プロジェクト】 学生献血推進連盟・福井県学生交流フェスタ実行委員会(県大学私学振興課)ライオンズクラブの協同開催。学生主導の企画でJR福井駅前広場を会場にして、映画上映会等を行い広く県民に献血の必要性を訴える。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
高等学校における献血セミナー(出前講座)の開催(年間5回)	献血セミナー	継続	高校生	7・9・10・11・12月	5回	各高等学校	継続理由(5~6月の高校訪問で文書をもって献血セミナーの依頼をする)本社配布の映画素材、パワーポイントを使用して、血液・献血に関する正確な情報提供を行い、献血への理解を深めてもらう。
400mL献血実施可能な高等学校を平成23年度の2校から5校に増加させる。	高等学校400mL献血推進	新規	高校生	5月~6月		各高等学校	県内保健所職員と同行する高等学校推進時に400mL献血の推進を強化する。
短大・大学・専門学校の内献血の実績を対前年比110%を目標にする。	いっしょに献血キャンペーン	新規	短大・大学・専門学校生	4・5・6・7・10・11・12・1・2月	30回	短大・大学・専門学校	2人以上で献血受付をした学生にカップヌードルやスナックセットを配布するキャンペーンを行い、献血に興味を持たせる。

73

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
中学生対象の職場体験学習の受入れ(年1回)	職場体験学習	新規	中学生	10月	1回	血液センター	中学生を対象とした職場体験学習を受入れ、各課の実務を体験したり、献血や血液について学習をし血液センターへの理解を深めてもらう。
小学生対象の親子血液センター見学会の開催(年間2回)	血液センター見学会(模擬献血体験)	新規	小学生・保護者	7月~8月	2回	血液センター	小学生高学年を対象とし、親子で血液センター見学会を行い、本社配布の映画素材やパワーポイントを使い献血について学習し、模擬献血体験に参加することで、献血の仕組みやその重要性についての理解を深めてもらう。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体を20社(団体)を目標とする	新規協力企業・団体確保対策	継続	企業・団体	4月~3月			ライオンズクラブに協力依頼し、新規事業所確保に努める。また、県内の工業団地について、今まで献血協力のない事業所や団体をインターネットで調べ、従業員数100人以上を目安にリストアップし協力依頼を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
全血献血における複数回献血協力者を平成22年度の24.6%から30%まで増加させる。	複数回献血協力者確保対策	新規	全血献血者	4月~3月		平成24年4月~11月の間に協力いただいた献血者に記念品引き換えカードを配布し、平成25年4月までにカード持参のうえ協力いただく記念品を配布するキャンペーンを行う。	

74

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
400mL献血率を84%にする	400mL献血推進強化対策	継続		4月~3月		400mL献血推進のリーフレットを新たに作成し、献血受付時に200mL献血に固執している献血者に対し、400mL献血の推進を強化する。	
移動採血車における1稼働当りの確保単位を81単位にする	移動採血強化対策	継続		4月~3月		1. 行政主導の採血計画の一部を血液センターで担うことで献血会場の見直しを図る。 2. 新規献血会場を確保する。	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代～20代の献血者25%に増加	献血セミナー	継続	大学生等・高校生・会社員	4月～3月	25	大学・高校・会社・血液センター	献血セミナー(出前講座含む)を開催。本社配布のDVDを活用し献血への知識を深め積極的に献血活動に参加してもらう。
10代～20代の献血者25%に増加	新成人への献血PRチラシ配布	継続	新成人	1月～3月	10	成人式会場等	市町の主催する成人式等で新成人へ献血PR用チラシ10,000部を配布し献血への参加意識を高める。
3回	高等学校献血担当教諭との打合せ会	継続	県内高等学校献血担当教諭	6月	3	血液センター等	県教委等と共催で高等学校献血担当教諭との打合せ会を開催。血液の需要動向等を説明し意見交換を行う。
85校	校内献血における400mL献血実施	継続	高校生	4月～3月	90	各高等学校	校内献血において17歳男子の400mL献血を実施いただくよう各高等学校訪問時に説明を行う。
学生献血ボランティア10名を新規募集・育成	学生ボランティア育成	新規	大学生等	5月～2月			web上に学生献血ボランティア募集サイトを設置し、TwitterやラジオCM等で情報の展開を図る。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
100名	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生・中学生・高校生	4月～3月	4	血液センター等	血液センター等で青少年等を対象に献血クイズやパネル展示により献血に触れ合う機会を作り献血に関する知識を広げる。
60歳以上の献血者を100名増加	献血卒業防止対策	継続	60歳以上の献血者	4月～3月	12		平成23年度に献血実績の有る60歳を超えた方延べ2,000人を対象に献血依頼をするとともに、継続的な協力も要請する。
50歳以上60歳未満の献血者を100名増加	献血卒業防止対策	継続	50歳以上60歳未満の献血者	4月～3月	12		平成23年度に献血実績の有る50代の方延べ2,000人を対象に献血依頼をするとともに、継続的な協力も要請する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協賛企業20団体増加	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所	企業や団体への訪問時に、献血の現状と献血サポーター事業を説明し、理解を深め積極的に献血に協力してもらう。
新規・休止献血協力団体30団体確保	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	4月～3月		各事業所	新規・休止献血協力団体を積極的に訪問し、献血協力団体の実数を増加させる。市町からの情報も頂いていますが、渉外活動等に目付いた会社ホームページ等を調べて訪問します。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブの新規登録者2,500人	複数回献血者確保対策	継続	年1回の献血者	1. 4月～3月 2. 6月・9月	20		1. 大学等の献血実施に合せて複数回献血クラブの新規会員登録会を実施。情報誌配布等の広報活動を行う。2. 県内会場でのJリーグ開催に合わせて、ロータリークラブ等の協力により情報誌等を配布し、複数回献血クラブの会員募集強化を図る。
メール・ハガキによる献血要請応答率20.0%	複数回献血者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員及び登録者	4月～3月			メール15,000通、ハガキ100,000通により献血依頼要請を行う

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年層(10代・20代)の献血率を30%にする。	若年層献血者確保対策	継続	高校生・専門学校生・大学生	4月～7月、9月～3月	100	各学校	①学生献血連盟によるキャンペーンの実施(年3回) ②大学においては、学生献血連盟に所属する大学を主体とし学内献血の実施と学生への献血啓発活動を実施。 ③専門学校・高校においては、献血セミナーを積極的に開催し、献血協力校40校を目指す。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者300名	親子血液セミナー	継続	小学生・保護者	8月・3月	8	血液センター・役場	献血啓発ビデオ(中部ブロック作成けん血ってなあに)上映や学生ボランティアによる、献血クイズなど実施し、分かりやすく、楽しみながら献血の必要性を啓発する。また、血液型判定や施設見学を実施する。
参加者500名	出前セミナー	継続	小学生～大学生	4月～7月、9月～3月	10	各学校	各学校へ出向き、献血啓発ビデオ(中部ブロック作成けん血ってなあに・本社配布WE CAN 献血)上映や、献血セミナーを実施し献血の必要性を訴える。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠団体・複数回献血実施50社	献血協力団体増加対策	継続	献血未実施企業・団体 休眠企業・団体 年1回協力企業・団体	4月～3月		各事業所	①今までに献血を実施したことのない企業・団体について、HP等閲覧し、社会貢献活動積極的に行っている団体を抽出し、その企業・団体に対して積極的に献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ②献血実施企業・団体等にお祝い、関係企業・団体を新たに紹介していただき、献血の必要性を伝え献血協力をお願いをする。 ③5年以上献血協力がいない企業(休眠団体)について、再度献血をお願いをする。 ④年1回のみ実施の企業・団体(1稼働100単位以上)等に対して、年複数回の実施をお願いをする。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者を35%まで増加させる	複数回献血協力者確保事業	継続	初回、及び年1回の献血者 複数回献血クラブ未登録献血者	4月～9月、10月～3月	2	1. 複数回献血クラブ登録キャンペーンを実施し、各献血会場において会員登録を強化する 複数回献血クラブ会員登録数を12,000名増加させる。特に、大学・専門学校などの若年層中心の献血会場、イベント会場等複数回献血クラブ広報誌やサイトスタンプ等を活用して、会員登録の強化を図る。 2. 初回献血者に対して、依頼ハガキを活用して献血依頼要請併せて複数回献血クラブ登録を促す。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
移動採血における1稼働あたりの確保単位数 97単位	移動採血安定確保対策	継続	移動採血車全献血者	4月～3月		・年間計画作成時において、80単位以下の献血会場は、計画に組み入れない。 ・80単位以下の企業・団体については、過去の実績等を検証するとともに協力体制の見直しを図り効率を上げる。	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的にかつ詳細に記載すること)
10代・20代の献血者数を昨年度比1,000人増にする。	献血セミナー	継続	高校生・大学生 専門学校生	7月・8月・9月・10月	5回で150人	ショッピングセンター 血液センター	病院現場での講話やクイズ形式で楽しめる内容としたイベントの実施。
"	学生献血	継続	大学生・専門学校生・教職員	ほぼ月一回以上	20回で800人	学内	授業時間内や学祭での献血実施。大学7・専門学校3・高校1実施予定。
"	全国統一キャンペーン	継続	高校生・大学生・専門学校生	7月・8月・12月・1月・2月	15回で800人	ショッピングセンター	月間・クリスマス・はたち等の献血当日の啓発活動。三重大学応援団による演奏。
"	ペア献血キャンペーン	継続	大学生・専門学校生	ほぼ月一回以上	20回で100人	学内	2人以上の若者が対象で献血協力頂いた場合粗品を進呈し若者の献血増を図る。
"	学生バスデー献血	新規	学生献血で献血した学生	毎月	12回	献血会場	誕生日に依頼葉書を出し協力頂いた方に粗品を進呈し今後の献血事業への興味を加味させる。
学生ボランティアを350名確保する	学生ボランティア(ミドナサポーター)育成	継続	高校生・大学生・専門学校生	4月~7月	約80校	学内	県行政(保健所)と連携して学校訪問しサポーターの加入を推進するとともに17歳献血(400ml)呼び掛ける。

79

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的にかつ詳細に記載すること)
20組40名	東海北陸ブロック血液センター見学ツアー	新規	小学生・保護者	平成24年7月8月	2回	東海北陸ブロックセンター	夏休みの時期の自由研究のテーマの一つとして血液の知識を得てもらい、親子の参加により絆を深め血液(献血)に対し興味を持ってもらう。(ブロック統一事業)平成24年1月18日付献血第4号による「学校における献血に触れ合う機会の受け入れについて」の依頼と同時に案内する。
20代~30代の子育て中の女性献血者を月30人増加させる	キッズと共に献血	新規	20代~30代の女性献血者	平成24年4月~5月	1回	伊勢献血ルーム	多目的スペースを備えた伊勢献血ルームで、協力者が薄かった層に子供と一緒にゆったりとした空間で献血への参加を促す。PR方法としては市の広報、献血者の家族への勧誘を勧める。
3校100名	出前授業	継続	小学生・中学生	小・中学校と調整	3	小・中学校内	「アンパンマンのエキス」などDVDでの視聴覚を使用し、まず献血ってなにを理解してもらう。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的にかつ詳細に記載すること)
成分献血協力団体を新規10団体増やす	献血協力団体増加対策	継続	献血協力団体	4月~6月		固定施設3か所	四日市・母体で各3団体、伊勢で5団体を確保する。週単位での予定を策定し送迎による協力を願う。
新規献血協力団体10団体増やす	企業における献血の推進対策	継続	新規事業所	9月~12月			新規事業所の開拓・献血実施事業所担当者に系列企業・グループ会社等を紹介して頂く

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的にかつ詳細に記載すること)
献血者数の内会員数を10%(6,000人)	複数回献血者数の増強	新規	全献血者	平成24年7月~			サイトスタンパー・SMS送信システムによる複数回献血クラブへ誘導(ブロック統一事業)
はがきによる献血依頼で応募率10%とする	複数回献血協力者の確保対策	継続	全献血者	5月・7月・8月・12月・1月・2月・3月	7回		実施月において既献血場所の献血対象者に対してハガキで依頼する。
年1回実施企業を年2回実施 5企業	"	継続	企業	年間を通じて			複数回献血キャンペーンを軸に企業担当者に再度の献血団体協力の必要性を説く。
年2回実施企業を年3回実施 5企業	"	継続	企業	年間を通じて			複数回献血キャンペーンを軸に企業担当者に再度の献血団体協力の必要性を説く。
3年以上休眠状態の献血協力団体10団体の復活	"	継続	企業	年間を通じて			3年以上休眠企業・団体に対して協力依頼する、企業担当者だけでなく幹部・トップに面会させて頂く

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的にかつ詳細に記載すること)
期間中の赤血球製剤在庫150%確保する	ブロック統一血液確保キャンペーン	新規	ブロック内全県	平成24年12月 平成25年1月	2回		年末年始における血液確保のためブロック単位での統一キャンペーンを行う
成分献血登録者を100人/月を目標に募集する	新規成分登録者募集	継続	成分献血未登録者	年間を通じて			一般献血会場において献血者の休憩時間や血色色素量不足の方などにオリジナル資料を使用し成分献血の必要性を説いて登録へのお願いをする。

80



平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

滋賀県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者360名 10~20代比率30%	若年者街頭献血 キャンペーン	継続	10代~20代	7月・12月	2	学生サマー献血 学生クリスマス献血	学生ボランティアの呼びかけにより 同年代の献血者の取り込み
学内献血 1500人	学内献血と セミナー開催	継続	10代~20代	4月~1月	30	県内の大学・短大 専門学校	学内において献血とセミナーの実施
学内献血 7校 350人	若年献血者 増強キャンペーン	継続	10代~20代	12月・1月	7	高校・大学	学内献血において若年層増強のために グリコお菓子セットプレゼント

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
小学生~中学生を400名募集 引率保護者を200名募集	青少年ふれあい体験学習	継続	小・中学生・保護者	7月	1	長浜市内献血会場付近	献血会場付近からすいすい号に乗船し船内で献血について、勉強会を開催する。(琵琶湖上)
血液センター近隣小学校 1校	青少年ふれあい体験学習	新規	小学生・保護者	10月頃	1	草津市内	学区まつりが小学校校庭を中心に行われ献血バスの見学や O×クイズを実施し献血を身近に感じられるセミナーを開催

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規登録 10社	新規献血団体増強	継続	県内企業	4月~3月	20	滋賀県内	新規献血団体10社
新規献血サポーター登録 10社	新規献血サポーター増強	新規	県内企業	4月~3月	随時	滋賀県内	新規献血サポーター10社

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
10団体 200名の増加	献血団体の年間実施 回数の増加依頼	継続	企業・団体等の献血団体	4月~3月	随時	毎月の配車計画と連携して随時に依頼する (年間1回の実施先に対して2回の実施を依頼し、10団体平均20名の増加目標)	
新規登録者200名以上	郵送等による メール会員募集	新規	固定施設等の既協力者	4月~3月	毎月随時	DM等により新規登録者を募集する (固定施設への献血依頼に併せてメール会員、登録者募集200名以上)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
応募者数(実協力者)3,000名	メール・はがきによる 献血依頼	継続	街頭会場等の既協力者	4月~3月	毎月随時	メール・はがきにより献血依頼・要請をする(協力者目標3,000名以上)	
血液確保(赤血球)一稼動あたり 100単位以上	献血減少期における 赤血球確保事業	新規	街頭献血会場周辺 居住者	年間を通じて	25会場	献血減少期(ゴールデンウィーク・8月~10月)献血者の少ない市町・年末年始等に 新聞折込みを実施する。	
血液確保(赤血球)一稼動あたり 100単位以上	献血減少期における 赤血球確保事業	新規	街頭献血会場での 献血協力者	12月~1月	17会場	冬季献血者減少期に街頭会場で記念品(グリコお菓子セット)をプレゼント	
血液確保(血小板) 母体...一日25本以上 長浜ルーム...一日10本以上	献血減少期における 血小板確保事業	新規	固定施設での 献血協力者	12月17日~25日	9日間	クリスマス献血イベントとして、全国学生献血推進協議会で決定した、統一記念品を 追加購入しプレゼント	
血液確保(血小板) 母体...一日25本以上 長浜ルーム...一日10本以上	献血減少期における 血小板確保事業	新規	固定施設での 献血協力者	12月26日~1月6日	11日間	年末年始の血小板確保のため、予約者に感謝の気持ちをこめてボックスティッシュを プレゼント	
血液確保(赤血球・血小板) 母体...一日40本以上 長浜ルーム...一日25本以上	献血感謝事業	新規	固定施設での 献血協力者	年間を通じて	8~12回	年間を通じて毎月1回は献血感謝デー及び感謝週間を実施しイベント時期に沿う 記念品をプレゼント	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年者(16~29歳)の献血者構成比を31%まで上昇させる	献血セミナー	継続	高校生	9月~10月	1回以上	高等学校	学園祭で「けんけつちゃんと一緒に献血検定」実施。参加者目標300人以上。
"	献血セミナー	継続	京都第一赤十字看護専門学校新入生	4月~3月	1	日本赤十字社京都府支部	血液事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。参加者目標40人。
"	献血セミナー	継続	新成人	1月	1	京都市勤業館	はたちの献血キャンペーンの一環として献血のPR。「けんけつちゃんと一緒に献血検定」を実施し写真撮影を行う。献血推進用DVDの放映も実施。来場者は4,000人以上。
"	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字高校生メンバー協議会	5月と2月	2	血液センター 献血ルーム	血液事業に関する講演を実施し、献血への理解を深めてもらい、献血推進に協力をいただく。参加者目標40人以上。
大学・専門学校献血の1検動あたり400mL献血者50人以上	献血でSOYJOYキャンペーン	継続	学生・専門学校生	4月~3月	約86検動の移動献血	大学・専門学校	大学献血・専門学校献血の実施前、及び、実施日に、本キャンペーンチラシを学内で配布。「献血でSOYJOY進呈」をお知らせし、学内献血の協力を依頼する。
献血者割合6%	きずなキャンペーン	継続	若年層献血者	4月~3月	通年実施	京都府内各献血ルーム	目的:人との絆(きずな)を活かし若年層の献血者確保と初回献血者の増加を図る。方法:①10代~20代の献血者を中心に「きずなキャンペーン」カードを配布。②キャンペーンカードを持された方に記念品を進呈。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
300人以上の献血協力	献血セミナー「高校生だよ!! 献血キャンペーン」	継続	京都府内の高校2・3年生	1~3月	1	献血ルーム 移動献血車	府内の高校2・3年生を対象に献血啓発を図るため、教育委員会を通じてリーフレットを配布。
親子で200人以上の参加	献血セミナー「子どもレドクロス隊」	継続	小学校高学年とその親子	7~8月	5	日本赤十字社京都府支部	献血模擬体験学習(保護者含む)などを通じて献血を推進する。献血の必要性及び重要性を学ぶ機会を提供し、将来の献血者を育成する。
100人以上の参加	献血セミナー	継続	京都府青少年赤十字トレーニングセンター参加者(小・中学生)	8月	1	アクトパル宇治	献血の意義等の勉強会や献血のワークライズを実施する。他、献血模擬体験を実施し、将来の献血者を育成する。
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	行政主催のふれあいまつり参加者の親子	4~11月	6	ふれあい実行委員会実施会場	行政・支部コラボレーションした献血推進と「けんけつちゃんと一緒に献血検定」実施。
1開催あたり100人以上に検定	献血セミナー	継続	行政以外の団体主催イベント(ゆるキャラが登場する子供が参加可能なイベント)参加者の親子	4月~3月	5	各実行委員会実施会場	実行委員会とコラボレーションした献血推進と「けんけつちゃんと一緒に献血検定」実施。
児童、保護者あわせて50名参加	Kids献血使団	継続	小学4~6年生	7月末頃	1	献血ルーム京都駅前	献血に関するセミナーとルーム見学会を開催し、献血への理解を深めてもらう。また、参加された保護者には献血協力をいただく。献血説明用パネル等を使用する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血協力企業・団体等を増加させる(目標5団体)	献血協力企業の確保	継続	企業及び団体等	4月~3月	通年実施	各事業所、団体等	新規協力企業、団体の開拓を行う。
企業団体等における年間複数回の協力(目標3団体)	複数回献血協力企業の確保	継続	企業及び団体等	4月~3月	通年実施	各事業所、団体等	既協力企業、団体及び新規協力企業、団体に対して依頼する。
献血協賛企業活動推進事業のロゴマーク配布(目標40団体)	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体等	4月~3月	通年実施	各事業所、団体等	献血協力の各種団体や、その構成企業等に対して、ロゴマーク配布を推進する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。月1回の定期メール献血要請で応答率18%を目指す。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月~3月	12	【献血要請メール送信】	毎月1回、およそ300名の会員に、順次、協力要請メールを送信する。
複数回献血者の割合を献血者全体の35%まで上昇させる。	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	4月~3月	12	【情報提供メールの送信】	毎月1回程度、会員(原則全会員)にメールで献血関連の情報を提供し、献血への関心の持続をはかる。
"	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	10月~12月	8	【健康相談事業の実施(自方教室)】	会員の健康増進を図り、献血への意欲をさらに高めることを目的として、専門家による健康相談を実施する。1回あたり20人の参加を目標とする。
"	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血クラブ会員	12月	1	【講演会の実施】	複数回献血と健康管理に対する意識をさらに向上させることを目的として実施する。35人の参加を目標とする。
新規登録目標数年間1,800人	複数回献血協力者確保対策	継続	全献血者	4月~3月	1	【献血Friends会員募集用リーフレットの作成、情報誌等の作成】	複数回献血クラブの会員増加をはかるため、とくに大学・事業所での募集活動を強化する。また、募集する側である職員の見解を高め、業務にメリハリをつけるため、年に1回の登録強化週間を規定する。
応答率18%	複数回献血協力者確保対策	継続	6カ月前、10カ月前の献血者	4月~3月	12	6カ月前、10カ月前の献血ルームの400mL献血者に対し	献血依頼「ハガキ」により献血の要請を行い、複数回献血を推進する。
応答率18%	複数回献血協力者確保対策	継続	誕生日月の献血者	4月~3月	12	誕生日月を迎えた献血ルームの献血者に対し	ハガキを送付し、献血を依頼する。
応答率15%	複数回献血協力者確保対策	継続	献血ルームでの400mL献血者(一部の街頭献血者)	4月~H25年4月	男性3 女性2	献血ルーム(一部の街頭献血を含む)での400mL献血者に	キャンペーンカードを配布し、キャンペーン期間内に、再度、献血ルームで400mL献血に協力いただくよう依頼する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応答率10%	久しぶり献血キャンペーン	継続	献血間隔の空いた献血者	11月~3月	5	長期間献血協力のない献血者にハガキによる要請を行う。23年度は5年前まで遡ったことが要因で応答率が低かったことから、24年度は2年前までを対象として実施する。	
初回献血率が6%	献血ルーム四条移転1周年記念キャンペーン	新規	FM放送リスナー	11月~12月	1 (CM放送回数は20秒30本)	地元FM局とタイアップし、CM作成(20秒30本)、献血ルーム四条移転1周年イベントを実施し、新規献血者及び若年層献血者確保を行う。	
初回献血率が6%	フリーペーパーによる広報推進事業	新規	フリーペーパー読者	12-2月	2	フリーペーパーに広告を掲載し、献血ルーム所在地の周知及び男性献血者の未所を促すキャンペーンイベント(記念写真の撮影・記念品の贈呈)を実施する。PRチラシを作成し、大学・専門学校等で配付、新規献血者及び若年層献血者確保を行う。	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

大阪府赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10代の献血率を4.2%まで増加させる 20代の献血率を7.9%まで増加させる	献血サマースクール	継続	高校生	8月	1回	血液センター	午前中に献血セミナーを開催し、午後から献血会場において呼びかけのボランティアを体験していただく
10代の献血率を4.2%まで増加させる 20代の献血率を7.9%まで増加させる	献血セミナーの開催	継続	高校生、学生	4月～3月	10回	血液センター、学校	各種学校において献血セミナーを開催し理解を深めていただく。また、献血実施校に対しては、セミナーを実施する機会を設けていただき、参加協力者数を高める
献血参加者700人	日本ラクソ協会献血	継続	大学生	3月	1回	まいどなんば献血ルーム ナンバ周辺会場	近畿圏内の大学ラクソ部の部員による献血呼びかけボランティアと献血協力
前年度を上回る献血参加者	学生400mL献血	継続	大学生	9月～1月	65校	大学、専門学校内	校内献血において記念品を進呈し、献血にチャレンジしようという意識を高める

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者 1,000人	献血おもしろゼミナール	継続	小学生	7月～9月	16回	血液センター	献血年齢に満たない小学生に対して献血意識の普及と推進を図るため、夏休み期間中に血液センター見学会を開催する。
献血ボランティア参加校 2校以上	献血ルームボランティア	新規	高校生	4月～3月	2回	献血ルーム	献血ルームにおいて、特技を生かした献血者へのサービス実施と呼びかけボランティア(例:模擬輸送サービス等)をしていただき献血にふれていただく。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
前年度を上回る献血参加者	オフィスDE献血ありがとう	継続	事業所	12月～3月	100社	各事業所	400mL献血の確保が厳しい冬期において、チラシや依頼はがき等でPRし、協力者に記念品を進呈する

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(複数回献血協力者確保事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
再来者25%以上	400mL献血プラスワン	継続	400mL献血者	9月～3月	1回	9月～11月まで固定施設における400mL献血協力者にプラスワンカードを配布し、3月までの再来者に記念品を進呈する
新規会員 15,000人	けんけつE倶楽部新規募集強化	継続	献血者	4月～3月	1回	雑誌広告や動画チラシを作成し、新規登録者向けの記念品を進呈することによって、Eメール会員の新規登録強化を図る
既存会員数の維持	けんけつE倶楽部会員ポイント制	新規	メール会員	4月～3月		既会員へのサービスの充実を図り、会員向けポイント制を導入し記念品を作成する
依頼はがきによる応諾12.4%	依頼応諾者推進	継続	400mL献血者	12月～1月	3～4回	400mL献血者の確保が厳しい冬期において、依頼はがきを発送し献血者の確保を図る。協力者に応諾記念品を進呈することにより応諾率のアップを図る。
Eメールによる応諾全血18%、血小板30%	依頼応諾者推進	継続	メール会員	12月～1月	3～4回	献血者の確保が厳しい冬期において、Eメールを発信し献血者の確保を図る。協力者に応諾記念品を進呈することにより応諾率のアップを図る。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ルームを2カ所を整備し、それぞれ月に30人の献血者増を目指す	ルームの整備	新規	全献血者	3月他	2ルーム	狭い献血ルームを拡張することで献血者の受入能力を上げる。開設に合わせて周辺商業施設に集まる若年層をターゲットに広報展開を行い、開設キャンペーン等を実施することで献血協力者の増加を図る。

85

86

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
30回	若年層献血セミナー	継続	小中高生他	通年実施	30回	各学校及び血液センター	行政と連携のうえ、血液の知識、献血の重要性、新採血基準等について献血セミナーを実施し、高校生をはじめ若年層に対する献血思想の普及啓発に積極的に取り組むことにより将来の安定的な献血者確保の基盤の形成に努める。
100校	高校・学生キャンペーン	新規	高校、大学生他	通年実施	100回	県内高校、大学校他	上記献血セミナーの実施と併せて、献血に親しみを持ってもらえるよう独自の記念品等を作成し、高校生の実施拡大と大学生等における献血参加者の増を図る。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
2回以上(100人以上)	こども見学会	継続	小学生	7月～8月	2回以上	血液センター	親子でプレゼンテーション型式によりクイズ等を交えながら血液と献血について学習してもらい、献血に触れる機会を増やす。
200人以上	献血ふれあい及び献血協力組織育成事業	継続	大学生他	通年実施	多数回	血液センター	大学生他、医療に携わる看護学生及び中学生等の血液センター見学や研修会を積極的に受け入れ、献血や血液製剤に関する理解や献血体験の促進を図る。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
100団体	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業、団体	通年実施	150回	企業、団体	献血サポーターマーク(ロゴマーク)を協賛団体、企業に対して配付することにより、より一層献血に対する理解を深めてもらい継続的な協力のもとより不足時等における積極的な協力が得られるよう努める。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
総献血者数に対する年2回以上の献血者数の割合を27%を目指す	複数回献血協力者確保対策	継続	年1～2回の献血者	通年実施	多数回	年1～2回の献血者に対し、はがきや封書による複数回の献血協力依頼をする。	
複数回献血クラブ会員数年間4,000人の新規登録者数を目指す	複数回献血協力者確保対策	新規	未登録者	通年実施	多数回	大学や献血ルームにおいて推進担当者が積極的に勧誘する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
16歳から29歳の献血構成比26%	フェイスル神戸とのコラボレーション	新規	若年層	7月、1～2月、その他日程調整中	数回	若年層に人気のあるサッカークラブ(選手)の協力を得て、若年層への積極的な献血参加の促進と将来の献血者となる児童等に献血を身近に感じてもらうことを目的にスタジアム内外での啓発や献血キャンペーン等を実施する。	
16歳から29歳の献血構成比26%と400mL献血146,927人(H24年度事業計画)の達成	もっと知って！赤十字と献血	新規	不特定	5月2日、その他日程調整中	数回	県内赤十字施設と連携のうえ、献血の重要性を赤十字活動とともに広く県民に周知し、若年層を中心に幅広い年代層の献血と赤十字事業への理解者を増やす。	
16歳から29歳の献血構成比26%と高校大学献血100校及び献血セミナー実施回数30回	若年層への献血啓発	新規	若年層	通年実施	多数回	上記1若年層献血者確保対策の高校・学生キャンペーンのとおり啓発資料及び記念品を作成し、若年層の献血受入を積極的に行うとともに大型ビジョンの活用により効果的な映像による広報等を行う。	
採血計画(12月、1月)の実行	冬季の血液確保対策	新規	不特定	12月～1月	1回以上	最も献血者確保が難しい時期の対策として、あらかじめ新聞等の広報の実施と次回献血可能日を知らせ、春先の協力(複数回献血)を推進する。	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年2回開催、参加50人	セミナー開催	継続	高校生、専門学生 短大生、大学生	4月～3月	2	血液センター	奈良県学生推進協議会のメンバーに献血の現状、医療の現状等の講演を行い、献血の重要性を図る。 ・奈良県学生推進協議会のメンバーに近畿ブロック血液センター見学を行い、献血推進の意識を図る。
年12回開催	セミナー開催	新規	中学生、高校生	4月～3月	12	各学校	・県要務課と協力し県教育委員会に献血の重要性を理解していただき、中学生・高校生への献血知識向上のため、パワーポイントを中心に実施する。
年5校献血実施	高校内献血	継続	高校生	4月～3月	5	各学校	・上記と同様にセミナーを開催し、高校生への普及啓発として献血実施を依頼する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
400人以上参加	献血まるわかりゼミ	継続	小学生・保護者	7月～8月	8	血液センター	・小学生及び保護者対象に献血知識向上のため、各市町村の教育委員会の協力を得て各小学校にチラシを配布する。 ・パワーポイントを中心にを行い、献血クイズを実施する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
24社登録	新規開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	24	各事業所等	・新規献血協力企業・団体の確保 ・事業所担当者に広報資料(愛のかたち、献血だより)を見ていただき献血の必要性を理解していただく。
12社登録	休眠開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	12	各事業所等	・休眠事業所・団体の再開働きかけ ・事業所担当者に広報資料(愛のかたち、献血だより)を見ていただき献血の必要性を理解していただく。
6社登録	複数回献血開拓	継続	企業及び団体	4月～3月	6	各事業所等	・献血協力企業・団体の年間献血回数増加 ・事業所担当者に広報資料(愛のかたち、献血だより)を見ていただき献血の必要性を理解していただく。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血クラブ会員5,000人	会員増強	継続	全献血者	4月～3月	6	・全献血者に複数回献血クラブ会員募集チラシを配布し、増強イベントとして新規会員に記念品を進呈する。(ご当地けんづけちゃんボールペン等)	
メールによる献血依頼要請を行い、応諾率10%以上確保。	依頼要請	継続	メール会員	4月～3月	24	・上記内容を実施し、会員数を増強して、400mL献血・血小板献血毎に依頼し、応諾率10%以上確保する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している 実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
年4回実施し、献血者各50名確保。	固定施設の献血者増加	継続	献血希望者	4月～3月	4	・季節毎にウィークデイイベントを実施し、先着50名に記念品を進呈する。(食パン、フランスパン等)	
年2回実施し、各20名参加。	健康相談	新規	献血希望者	4月～3月	2	・健康相談事業として、県調理師会・県栄養士会・日赤奉仕団の協力を得て、健康な食事等の料理教室を開催する。	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
キャンペーン中の16～29歳の若年層献血率を30%にする	学生献血推進協議会主催キャンペーン	継続	16歳～29歳の若年層	5月～3月	12回	県下全域	学生献血推進協議会メンバーにより企画、広報、接遇を行う。
高校生の献血者数を1,000人にする	高校生献血推進事業	継続	高校生	通年	未定	県下全域	高校生献血セミナー、学内献血等により高校生献血を増やす。
若年者献血セミナー 4回実施	若年者献血セミナー	継続	大学・専門学校生	通年	4回	県下全域	大学・専門学校生を対象にセミナーを実施し、献血への関心と知識を提供する。今まではセミナー受講者数をテーマとしたが、セミナーの内容にテーマを変更した。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
血液管理センターまたはブロックセンター見学小学生40人以上の参加	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生	7月～8月	2回	血液管理センター ブロックセンター	小学生に献血に興味を持ってもらい、将来の献血に繋げる。また、同伴の保護者の方にも改めて献血について認識していただき積極的な献血参加をお願いする。
献血セミナー参加者300人達成	青少年等献血ふれあい事業	継続	中学生以下の子供	9月～11月	2回	小学校 催事会場	献血の説明と献血車の内部見学を実施し、献血に関心を持ってもらう。(血液管理センター、ブロックセンター見学を除く)
中高年向け献血セミナーの実施5回	50歳以上への献血普及啓発事業	新規	50歳以上	通年	5回	県下全域	献血可能年齢等、献血知識の普及啓発により、献血の継続と周りの方へ献血を勧めていただく。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規企業・団体 15社獲得	新規献血協力企業の開拓	継続	企業・団体	通年		県下全域	新規事業所・団体の開拓を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血クラブ新規加入者 1,000人	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年		接遇時、クラブの案内チラシを渡し入会を勧める。	
複数回献血者率 28%	複数回献血協力者確保対策	新規	既献血者	通年		平成22年度の複数回献血者率は26.4%であった。複数回献血メール会員(平成23年12月末現在 約2,670人)へのメール依頼、及び前回献血から一定期間未献血者に依頼ハガキで献血を促すことにより複数回献血者率28%を目指す。	
健康相談等 6回実施	健康相談	継続	献血者 献血不適格者	通年	6回	献血者・献血不適格者に健康相談を行うことにより、健康に関心を持ってもらい、次回献血に繋げる。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
50歳代の献血率 6.5%	50歳以上への献血普及啓発事業	新規	50歳代	通年		中高年向け献血セミナーを実施することにより、同年代の献血を増やす。(平成22年度 6.2%)	
60歳代の献血率 2.7%	50歳以上への献血普及啓発事業	新規	60歳代	通年		中高年向け献血セミナーを実施することにより、同年代の献血を増やす。(平成22年度 2.4%)	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

鳥取県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
県下高等学校32校の1/3(10校)を目標に献血の推進を図る。	出前講座	新規	高校生	5月～10月	10回	公立・私立高等学校	地方公共団体との連携の下、高校3年生を対象に資料を配布し、血液の必要性を説明し推進を図る。(参加者:1校200名を予定、10校延べ2,000名を予定)
県下高等学校32校の1/3(10校)に参加いただくことを目標とする。	若年者セミナー	継続	高校生	7月～8月	3回	県内のショッピングセンター	地方公共団体との連携の下、高校生を対象にスライドを活用した学習を行い、献血への理解を深めるとともに献血呼びかけ体験を通じて献血意識の向上を図る。(参加者:1回3～5校30名を予定、3回延べ90名を予定)

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血推進団体主催の協力実績が前年の回数を上回るよう推進を図る。(15回以上)	献血協力団体育成	継続	大学生 ライオンズクラブ	4月～2月	16回	大学 ライオンズクラブ事務局	資料を配布し、血液の現状や必要性を説明し、夏季・冬期の献血者不足時に効果的な推進を図る。(対象者:1回15名を予定、16回延べ240名を予定)
250人の参加が得られることを目標とする。	献血セミナー	継続	小学生	7月～8月	10回	血液センター 県内会議室	県内小学校高学年を対象にスライドを活用した学習をはじめ、血液センターの見学や移動採血車の見学を取り入れ実施する。(土日を含め5日間、延べ10回開催:対象者250人)
480名以上の複数回献血協力者を得ることを目標とする。	複数回献血協力者確保	継続	複数回献血クラブに登録されていない献血協力者	4月～3月	24回	血液センター 献血ルーム	複数回献血クラブに登録されていない方2,400名に、ダイレクトメールで要請を行ない、応諾率20%以上(480名以上)の協力を得る。1回200名を対象に年24回ダイレクトメール要請を行う。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図るため、65社を目標にロゴマークを配布する。	献血協賛企業活動推進	継続	企業・団体	4月～3月	500回	県内の企業・団体	献血広報資料に献血サポーター事業所名や後援している内容を掲載し、県内500事業所に広報資料を配布し、65社(33%)の登録を目標に推進する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
献血者全体(H24目標26,223人)のうち、2.2%(全体を1,300人とし、新規獲得者を600人とする)の複数回献血クラブ会員の登録者を確保する。	複数回献血協力者確保	新規・継続	献血協力者	4月～3月	773回	全献血会場(773稼働)で紹介用リーフレットを活用して職員が説明するとともに、固定施設や移動採血車に即時登録ができるサイトスタンプも配置し推進を図る。(対象者3,500人)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
各種キャンペーンを実施し、1,700人の献血協力者を確保する。	献血者確保対策(各種キャンペーン)	継続	献血協力者	6月～2月	8回	広く県民への献血の普及啓発を図るため、報道機関を活用し各種キャンペーンを実施する。 ・世界献血者デーキャンペーン ・夏の血液助け合い運動月間キャンペーン ・はたちの献血キャンペーン ・サマー献血キャンペーン ・年末年始キャンペーン ・クリスマス献血キャンペーン ・バレンタインキャンペーン ・健康キャンペーン (1,700人を対象)	
午前中の血小板成分献血者4,650人を確保する。	献血者確保対策(固定施設イベント)	継続	献血協力者	4月～3月	471回	母体開所252、ルーム開所219(計471)日で午前中の血小板成分献血者を確保し、意識の向上を図るため、午前中の協力者に記念品を贈呈する。(4,650人を対象)	
献血ルームの3周年記念来場者180人の献血協力者を確保する。	献血者確保対策(固定施設イベント)	継続	献血協力者	9月末	1回	献血ルームの3周年を記念し、さらに報道機関を活用して献血ルームの所在を周知を図るとともに、イベント実施期間中に来所いただいた方に記念品を贈呈する。(180人を対象)	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
セミナー参加者200名以上	島根大学「凧風祭」献血セミナー	継続	島根大学学生及び一般	10月	1	島根大学凧風祭会場	凧風祭を後援し祭り会場で献血セミナーを実施し大学生をはじめとする来場者、関係者に献血思想の普及啓発を行うと共に、献血バスを配車して当日の献血受入を行う。
〃	松江高専「高専祭」献血セミナー	継続	松江高専生徒及び一般	10月	1	松江高専祭会場	松江高専祭を後援し吹奏楽部演奏会に合わせて献血セミナーを実施し、高専生をはじめ来場者、関係者に献血思想の普及を行うと共に献血バスを配車して当日の献血受入を行う。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加人数150名(親子)以上	夏休み小学生親子血液センター見学体験教室	継続	小学5・6年生及び保護者	8月	8回	血液センター	将来の献血者として輸血医療を支えていただける小学生5・6年生を対象に、献血や血液についての親子で知識や興味を持っていただき、親しんでいただく。
実施高校5校以上	高校出前講座	継続	高校生	通年	5回以上	応諾高校	10代の献血車の柱であり将来の若年層献血者を担っていただける高校生を対象に、血液や献血についての学習を通じて献血思想の普及啓発や助け合いの精神の醸成を図り、新規高校献血実施に繋げる。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーター企業(団体)を3社以上増加する	献血協賛企業活動推進事業	継続	献血協賛企業(団体)	通年	3回以上	各企業(団体)	献血協賛企業に献血サポーターとして登録いただき、一層の献血推進活動の促進を図る。献血サポーター制度について職員の見学を高め、企業にとっての魅力やPRにゆき、登録に結びつける。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
新規入会者500名	複数回献血クラブ登録強化	新規	未入会の献血協力者	通年	随時	複数回献血クラブ入会募集パンフレットを作成し、固定施設(母体299稼働、ふれあい151稼働)や移動採血(大学・高専で9稼働)で随時案内を行い入会促進を図る。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	



平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
学生献血推進ボランティア組織加盟校を1校増加させる	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	継続	大学生、短大生、専門学校生	4月～3月		学内献血会場および学生献血推進ボランティア組織主催のキャンペーン会場	学内献血および学生献血推進ボランティア組織主催のキャンペーン会場等において、ティッシュ、パンフレット等を用いてボランティア組織への勧誘を行う。
学生献血推進ボランティア組織の研修会を1回開催し、40名の参加を募る	学生献血推進ボランティア組織の研修会開催	継続	大学生、短大生、専門学校生	10月	1回	未定	献血に関する知識の習得、キャンペーン会場での呼びかけ時における対応等のロールプレイの実施等を内容とした研修会を年1回実施する。また、参加人数を40名とする。
夏休み小学生親子体験教室を14回開催し、700名参加、校数125校を募る	夏休み小学生親子血液センター体験教室	継続	小学5、6年生および保護者	7月～8月	14回	血液センター	①市教育委員会管轄(約370校)については、各市教育委員会にある各学校あて備え付けポストを利用し、各小学校あてに募集チラシを配布する。 ②町村管轄(46校)及び市立校(4校)については、郵送で募集チラシを配布する。 ③ホームページ掲載により、参加募集を図る。 ④報道機関を活用し、参加募集を図る。
赤十字出前講座を30校で実施する	赤十字出前講座	継続	高校生	4月～3月	30回	県内各高校	県教育委員会の後援をいただいた後、県内各小学校に参加依頼文・チラシを郵送し参加者の募集を行う。併せて、HPによる参加者募集の呼び掛けも行う。
学生を中心に献血ルームでの400mL献血者を400人確保する	固定施設における全血献血の確保	新規	大学生、短大生、専門学校生	4月～3月		県内各大学、短大、専門学校	学生献血推進ボランティアおよび学生会等と密な連携を図り、通常時にも安定的な全血献血を確保する。また、併せてポイント制のキャンペーンも実施し確保に努める。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年層(20代)の献血者数を3%増加させる	若年層献血者の確保	継続	20代の県民	4月～3月		固定施設を中心として全献血会場	献血者にアンケートを実施し、若者にも好まれる「献血処遇品」を選定する。また、年間を通して岡山県の特産品を用いたキャンペーンを実施し献血者の確保を図る。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
未実施協力団体に対し、30社新規登録を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	未実施協力団体	4月～3月		県内各未実施協力団体	現在、献血未実施である協力団体を訪問し、献血への理解を頂くとともに、実施を依頼し協力企業数の底上げを図る。
休眠協力団体に対し、20社に献血実施の依頼を行う。	献血協賛企業確保対策	継続	休眠協力団体	4月～3月		県内各休眠協力団体	現在、休眠状態である協力団体を訪問、掘り起こしを図り協力企業数の底上げする。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回クラブ会員へのメールによる要請で応募者数1,000人以上および会員数1,600人増加	複数回献血者確保事業	継続	複数回クラブ会員	4月～3月	12回	全年度に引き続き、血液不足時の献血要請だけでなく通常時に複数回協力頂けるよう定期的な依頼を行う。また、サイトスタンプを用いて会員数を1,600人増加させる。	
同一献血会場での過去献血者へのハガキによる献血要請で応募者12,500人以上	複数回献血者確保事業	継続	同一献血会場での過去献血者	4月～3月	4,200回(要請回数)	同一献血会場での過去献血者(過去3回分について検察)へハガキによる要請を年間4,200回行う。それにより事前周知を図るとともに、献血の重要性を認識していただく。	
年1回協力の(企業・団体)に対し、20社に複数回実施への移行を行う。	複数回献血者確保事業	継続	年1回協力の(企業・団体)	4月～3月		事業所等へ献血実施の依頼等で渉外活動を行う際、血液事業の現状を説明し年複数回協力いただけるよう要請する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
血小板成分献血の実献血者を4,800人確保する。	固定施設における成分献血の確保	継続	血小板成分献血協力者	4月～3月	20回	岡山市内の大学・専門学校等に「血小板成分献血の協力をお願い」ポスターの掲示、およびチラシの配布を行い、固定施設での成分献血の参加を呼び掛ける。キャンペーン期間中に学生証を提示して下さった方に記念品を贈呈する。	
献血ルームでの400mL献血者を3,000人増加させる。	固定施設における全血献血の確保	新規	移動施設での400mL献血協力者	4月～3月		移動施設での献血時に、移動施設でチラシを配布し、持参された方に記念品を贈呈する献血キャンペーンを実施し安定的な全血献血の確保に努める。	

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
親子含めた参加者数 250名以上	なるほど献血教室	継続	小学4年～6年生とその保護者	平成24年7月～8月	10回程度	広島県赤十字血液センター 及び日本赤十字社広島県支部	小学4～6年生とその保護者を対象に、血液センター見学会を開催1日2回(計6回)。将来の献血基盤の拡充を図るとともに保護者への献血協力を促す。 募集方法は広島市内及びその周辺の小学校高学年生を対象にチラシを配布、また広島市発行の広報誌とセンターWEBサイトで募集を行う。見学会には映像教材やスライドショーによる医学講義と各部門の見学を行う。
訪問校数8校	献血教室	継続	高校献血実施校及び大学・短大・専門学校生	平成24年4月～平成25年3月	随時	各学校	献血実施校の生徒を対象とし、献血の必要性を講義。その後の校内献血への参加と400mL献血の推進を促す。
受入校数5校	職場体験学習	継続	県内中学生	平成24年4月～平成25年3月	5校	広島県赤十字血液センター	血液センターの役割について学習する。 ・献血と輸血について(座学研修) ・製剤及び検査部門の見学 ・献血推進、供給部門の体験学習
訪問校数15校	献血セミナー	新規	県内中高生	平成24年4月～平成25年3月	随時	県内の各学校	中高生を対象にスライドや展示パネル等を利用し、命の大切さと献血の必要性を訴える。
10代献血率4.2%	高校卒業予定者 献血広報資料配布	継続	高校生 (卒業予定者)	平成25年1月	随時	各学校	行政とタイアップし、卒業予定の高校生及び若年層が集う会場などで献血に関する広報資料を配布する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20代以下の献血率24%	学生 ボランティア セミナー	継続	大学生 (短大生含む)	平成24年4月～平成25年3月	2回	広島県赤十字血液センター	大学生を対象に、献血に関するセミナーを開催。献血への理解を深め、献血思想普及の重要性について学習する。学習をもとに学生主催の献血を実施することで、就学時の献身体験と将来的な献血者数確保の足がかりとする。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規サポーター10団体確保	献血協賛団体 確保対策	継続	献血未協賛企業	平成24年4月～平成25年3月	随時	各事業所等	商業施設等を中心に募集する。 サポーター登録により、一層の協力を促すとともに、社会貢献活動を行っている施設であることをアピールでき、相乗効果を出す。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血者確保目標人数 5,000人	複数回献血クラブ 会員募集	継続	複数回献血クラブ 未登録者	平成24年4月～平成25年3月	随時	全献血者を対象にリーフレットを配布し、登録を促す。特に、登録者の少ない移動献血会場での呼びかけを強化する。	
応諾率27%(月平均)	ハガキによる 献血要請	継続	血小板献血 協力者	平成24年4月～平成25年3月	月1回	誕生日を迎える血小板献血者に向けて当該月に献血依頼ハガキを送付。対象者が献血参加した場合、記念品を贈呈する。	
ハガキ要請応諾率40%	ハガキによる 献血要請	継続	県内400mL献血 協力者	平成24年4月～平成25年3月	随時	移動献血会場での協力者に同会場で献血を依頼するハガキを送付し献血協力を促す。特に初回(新規)献血者は20歳代が多いことから、再来への対策を強化する。	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
	もっとクロス計画 ～地域に密着した キャンペーンの実施	継続	県民	平成24年4月～12月	年3回	プロ団体・ライオンズクラブとの献血推進共催イベントの実施 【対象】・広島東洋カープ/サンフレッチェ広島 ・ホームグラウンドでのゲーム日に合わせた献血実施 ・スタジアム内やグラウンド上でのPR (マスコットキャラクターと「けんけつちゃん」共演) ・複数回献血クラブ新規登録促進 ・プレスを活用した幅広い広報	
来館者数200名	情報プラザ【仮称】 周知 ～ようこそ！ 血液情報プラザへ～	新規	県民	平成24年11月～平成25年3月	随時	新社屋内に新設する「血液事業の総合展示館」として、広く県民に周知するとともに幼年期を含めた若年層から血液事業全般の理解を促す施設の広報を展開する。 ・情報プラザ案内のリーフレット作成 ・対象年代への来館案内チラシ配布 ・WEBサイトを利用した来館案内	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

山口県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10~20代の献血率を20%	セミナー	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・専門学校・大学生)	5月・11月	2回	血液センター会議室	年2回講師を依頼し、献血についての知識、理解の普及、他団体との交流を図る。今年度は、若年層の割合20%を達成するには、どうすれば良いか重点を置く。
10~20代の献血率を20%	学生推進協議会役員会	継続	山口県学生献血推進協議会(短大・専門学校・大学生)	通年	15回/年	血液センター会議室	山口県学生推進協議会の企画、運営、また加盟団体との情報交換。
10~20代の献血率を20%	高校献血	継続	高校生2年~3年	通年	15校	各高校	23年度2~3校の緩やかな目標で4校実施したが、24年度は4月からJRC加盟校を始め、県立79校を県献血担当者と訪問し積極的な推進を行う。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者合計200名	小学生親子血液センター見学体験教室	継続	小学校高学年とその保護者	夏休み	3回	血液センター	体験教室で、初めて文部と合同で行う。【センター】血液・献血についてスライドで説明、啓蒙DVDの上映、施設及び採血車、血液運搬車の見学、【文部】炊き出し、救急法等実施。
小・中・高校を対象に合計30校	献血出前講座	継続	小・中・高校生	通年	30回	各学校	「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」に献血に関する内容が盛り込まれたことから今年度は、高校への出前講座を積極的に行う。
応募ポスター150点・作文100点	献血推進ポスター・作文募集	継続	小・中・高校生	5月~10月	1回		県下全校に募集をかけ、選考委員により表彰を選考し、県にて表彰式を行う。
16,720部	献血読本の配布	継続	中・高校生	6月	1回	各学校	高校1年生全員及び中・高校各学年に1冊配布する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
27社	新規・休眠献血事業所の開拓・確保	継続	献血未実施団体	通年	随時	移動採血車・固定施設	新規・休眠事業所等の開拓を行う。
20社	献血サポーター募集	継続	献血への理解があり、複数回の献血実施の実績がある企業	通年	随時	移動採血車・固定施設	新規事業所の開拓を行う。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
2回以上/年	複数回献血者確保	新規	年間協力回数1回の献血者	通年	随時		一人当りの400mL献血協力回数2回以上になるよう、DM等で再来を呼びかける。
2回以上/年	ライオンズクラブ協力率アップ	新規	県内全ライオンズクラブ	通年	随時		未実施及び年1回協力のライオンズクラブに対して協力回数の増を依頼する。結果、県内全ライオンズクラブの平均が年2回以上。
年度新規会員1,500人以上	複数回献血クラブ会員増員	新規	献血者	通年	随時		チラシの配布(40,000枚)や非接触型採血サイト接続ユニットを設置し、新規会員を増やす。平成23年度未で会員数2,500人(身込み)なので、平成24年度は累計4,000人を目指し、平成26年度までに献血者の1割を複数回献血クラブ会員とする。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血者率 10%	新規協力者確保対策	新規	献血未経験者	通年	随時		新規献血者の開拓を行う。(400mL献血17歳以上男性高校生・初回者献血キャンペーン)
3回以上/年	商工会青年部献血実施	新規	商工会青年部	通年	随時		個人の協力はあるが、組織としての協力がないたため、研修会等へ積極的に出席し、献血の重要性(必要性)を説明し、組織としての協力を仰ぐ。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
実施回数4回	国庫補助 (若年層献血セミナー)	継続	高校生・大学生	4月、8月、12月、2月	4回	各学校内	学生総会において血液事業の研修・意見交換会を行うとともに、総機強化のため毎月定期会を実施し若年層献血者の確保に向けて学内献血ならびに各種イベントを実施する。 現在休止している学内献血未実施高校(400ml献血受入可能な学校を対象)に対し、献血参加の啓発、説明会を行う。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者数360名。	国庫補助 (青少年等献血ふれあい事業)	継続	小学生高学年と保護者	夏休み期間中 7~8月	9回	血液センター	-3市3町の教育委員会の承認後、小学校75校に専用チラシ約15,000枚を送付し、親子を対象に募集を行い、血液についての学習会、血液センター見学、献血機体験授業等を実施する。 -マスコミ各社にニュースリリースを配信する。 -参加者(小学生)に記念品を進呈することで参加意欲向上を図る

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠協力企業・団体を15社増加する。	献血協賛企業・団体増加対策	継続	企業及び団体	4~3月		各事業所	新規事業所の開拓ならびに休眠企業の起死を保護所と連携して行う。血液センターで幅広い各地域の企業状況(実績等)を保護所と連携検討し今後の献血協力を推進する。
研修会・意見交換会の開催	献血協賛企業活動推進対策	継続	ライオンクラブ担当者 献血企業担当者	7月、8月	2回	未定	県下ライオンクラブ担当者ならびに献血協賛企業担当者に対して血液事業の現状説明・意見交換会を実施することで更なる協力を得ることを図る。
協賛企業訪問回数100社	国庫補助 (献血協賛企業活動推進事業)	継続	献血協賛企業	通年	100社		献血に協力いただいている企業・団体を訪問し、献血サポーターへの参加を依頼する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規モバイル登録者数375名 (対前年度比120%)	複数回献血者確保事業	継続	未登録献血者	通年			クラブ会員募集リーフレットを作成する。 -学内献血実施時に学生ボランティアを動員することで学生会員の増加を図る。 -献血会場でサイトスタッフならびに会員募集チラシによる会員確保を図る。 -2月にクラブ会員との連携を図る意見交換会を開催することで複数回の献血を依頼する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
対象キャンペーン(7月、12月、1月)での総献血者数の前年実績比110%	広報事業	継続	県民	7月「愛の月間」 12月「おはなすキャンペーン」 1月「はたちの献血」	3回		広報媒体により各キャンペーンを周知することにより、県民への働きかけをより充実させ、期間中の献血協力者の増加を図る。 -新聞掲載:県内での購買率が高い地方紙に「愛の月間」及び「はたちの献血」の献血啓蒙広告を掲載し周知を図る。 -TV、ラジオ広報:事業本部作成の広報資料を使用する。 -情報誌:血液センターのイベント・キャンペーン等を周知する。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

香川県 赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者数(親子)160名	夏休み親子見学教室	継続	小学校高学年とその保護者	8月	3回	血液センター	血液・献血関連のスライド説明、啓蒙DVDの上映、採血車・血液運搬車・製剤課・供給課の見学、キッズ献血カードの配布。
参加者数100名	高校生街頭献血キャンペーン(国庫補助事業も含む)	継続	高校生	7月・1月	3回	街頭献血及び献血ルーム	献血関連の講義を受講して、献血の必要性を認知したうえで、ショッピングモール及び献血ルームにて呼びかけを行う。
参加校8校(500名)	献血出前講座	継続	小学生	9月～3月	8回	小学校	児童には、分かりやすいクイズ等を含めたスライド学習により、「献血」を知ってもらい将来の献血世代の拡充を図る。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10校1,000名参加	献血セミナー(青少年等献血ふれあい事業も含む)	継続	高校生・専門学校生・短大生・大学生	4月～3月	10回	学内及び献血ルーム	献血未・体験実施校を中心とし、献血の必要性を講義して校内献血への実施及び再開と献血者増へと導く。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血事業所(団体)20社の確保	献血協賛企業活動推進事業	継続	未実施協力事業所(団体)	4月～3月	随時	各事業所等	血液センターのHPにある「献血協賛団体のご紹介」を周知して、地域社会への貢献度を県民に認知、献血実施に繋げる。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員の1,000人増	複数回献血協力者確保事業	継続	年1回の協力者	4月～3月	随時	学域献血時にイベントを実施し、募集を強化(平成23年12月末現在:2,965名)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

105

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

愛媛県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
学内献血における協力者5%増	献血セミナー	継続	大学生	4月～7月	4回	各大学	新入学生対象のガイダンス時に献血広報を実施するとともに後日学内献血を実施し協力者の確保に努める。パワーポイントを使用して若年層献血者の減少や、県内供給量の状況説明ならびに広報用DVDの利用
学内献血回数(55会場/年)の増	若年層確保対策	継続	高校生 専門学校生 短大生・大学生	4月～3月	55	学内	4月の入学シーズンから学園祭前後を重点として、大学生の確保に努める。既に生徒の協力を得ている高校については継続、教職員のみを対象にしていた高校においては生徒の献血、また新規に協力いただける高等学校の開拓を、県教育委員会の理解、協力を得ながら推進する。
出前教室の開催70校・10,000人	出前教室	継続	中・高校生	4月～3月	70	各中学校・高等学校	中学生を中心に献血に関する広報、教育を実施し、将来の献血者確保に努める。パワーポイントを使用し、所長が医師としての体験談を踏まえながら献血の重要性を説明

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
高校生サミット(仮名称)(1回/年)	若年層に対する献血理解促進事業	新規	高校生	未定	1	未定	県と共同し若年層への献血思想の普及を図ることを目的として実施する。献血可能年齢となる高校生を募集推進会議を開催し、講演、体験発表及び意見交換等を行い献血への理解を深めることにより、県下35校以上の献血を目標とする。
小学生親子体験教室(25組)	献血セミナー	継続	小学生親子	8月	5回	血液センター 献血ルーム 松山赤十字病院	小学生親子を対象に、ビデオ等を使用する会議室での座学や、ルームでの献血見学ならびに病院での輸血見学や看護業務体験等。

106

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規・休眠献血協力企業の増加(10社/年)	献血協力団体増加対策	継続	企業および団体	4月~3月		各事業所	ライオンズクラブ等の紹介により獲得に努める

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブ加入者の新規登録者確保(1100名/年)	複数回献血協力者確保対策	継続	献血協力者	平成24年4/1~平成25年3/31	勧誘人数60名/1台×50台/月×12カ月=36,000名		献血者全員に「複数回献血リーフレット」を配布すると共に、主に業務課接遇職員が複数回献血クラブ未加入者に対して業務に支障の無い範囲内に於いて、複数回献血クラブの必要性を説明し一層勧誘で1名の加入を目標に推進に努める。又、街頭献血に於いては一名以上の加入を目標とする。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者数180名(初回献血者15%・参加ボランティア50名)	夏の献血キャンペーン	継続	若年層ならびに初回献血者	7月初旬	1回	大型商業施設内でのイベント開催	学生ボランティアを募り、献血への協力ならびに現場での呼び掛けを実施。SRC・JRCをメインに高校生を主体としたヤングボランティアへの協力依頼、ならびにイベント会社による一般大学生のボランティア募集
献血者数150名(初回献血者15%・参加ボランティア30名)	冬の献血キャンペーン	継続	若年層ならびに初回献血者	1月初旬	1回	大型商業施設内でのイベント開催	学生ボランティアを募り、献血への協力ならびに現場での呼び掛けを実施。SRC・JRCをメインに高校生を主体としたヤングボランティアへの協力依頼、ならびにイベント会社による一般大学生のボランティア募集

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

高知県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年層献血者構成比率を30%にする	若年層献血者確保事業(献血セミナー)	継続	大学生・専門学校生及び社会人	平成24年12月 平成25年2月	2回	高知市・イオンモール高知	地元ミーティングによる献血推進イベントを実施し、献血の重要性と協力を呼びかける。さらに、音楽ライブを実施し若年層の献血参加を促す。(当日の若年層献血者構成比目標を30%にする)

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
若年層献血者構成比率を30%にする	若年層献血者確保事業(献血セミナー)	継続	10~20代	4月~3月	5回	大学・短期大学・各種専門学校	大学や短期大学・各種専門学校等で5回実施。学生の興味をひくような献血啓発グッズを活用し、若年層献血者を確保。事前にチラシを作成し、各学校の掲示板へ掲示依頼するとともに各学校にてセミナー実施時に参加者に配布。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規協力団体5団体増加	献血者確保推進事業	継続	企業及び団体	4月~3月		各事業所等	新規開拓や既存献血を行っていない企業の掘り起し、地元新聞の広告記事(企業・団体の紹介等)をもとに、事業所にアプローチし従業員数や献血状況について調査し献血協力に結びつける。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規メールクラブ会員を250名増加	複数回献血協力者確保事業	継続	400ml献血・成分献血協力者	4月~3月			学生ボランティアと連携して、複数回メールクラブ加入促進イベントを実施し、接遇時に登録用QRコード付のボックスティッシュを作成し、処遇品として提供する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

福岡県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者 40名以上	学生献血推進協議会会議	継続	県内の学生ボランティア	月1回	12回	血液センター	サマー献血キャンペーン及びクリスマス献血キャンペーンの準備・報告・反省と併せて、血液事業の現状や血液製剤の知識などを養ってもら。(23年度実績:平均35名)
参加者 80名以上	学生献血推進協議会会議	継続	県内の学生ボランティア	5月	1回	(未定)	血液事業の現状や血液製剤の知識などを養ってもら。(23年度実績:64名)
協力者数 200名以上	サマー献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	8月	2回	(未定)	冬のクリスマス献血キャンペーンと同様に、献血会場で学生ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。(23年度実績:287名)
協力者数 200名以上	クリスマス献血キャンペーン	継続	20代を中心とした若者	12月	2回	(未定)	全国統一のクリスマス献血キャンペーン実施の際、献血会場で学生ボランティアがイベントなどの催しを企画し、若年層に対する献血推進活動を行う。(23年度実績:319名)
協力者数 1,500名以上	高校学内献血	継続	高校生	通年	30回	各高校内	既実施校については、参加者の増加を働きかける。また、未実施校については、実施できるよう働きかける。(23年度実績:1,348名・16回(1月末現在))
協力者数 10,000名以上	大学学内献血	継続	大学生	通年	140回	各大学内	既実施校については、参加者の増加を働きかける。また、未実施校については、実施できるよう働きかける。(23年度実績:9,240名・132回(1月末現在))
参加者 10,000人以上	若年層献血セミナー	継続	中学・高校生	通年	30回	各中学・高校内	高校では、高校献血実施前に説明会と称し、献血セミナーを実施する予定。中学校では、市町村やJRCを通じて、実施するよう啓発していく。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者 900名以上	青少年献血ふれあい事業	継続	小・中学校ならびに保護者など	通年	15回	各学校内	教育委員会・各市町村等を通じ、小・中学校に働きかけ、実施校の増加および参加者を増加させ、命の貴さならびに献血の大切さを学んでもらう。(23年度実績:902名・13回)
参加者 300名以上	施設見学の受入	継続	学生ならびに献血協力団体等	通年	20回	血液センター	血液センターを見学してもらい、血液事業の現状を説明することで、献血の必要性を理解してもらい、広報用冊子を配布。(23年度実績:632名・26回)
60歳以上の献血者を2%増加させる	60歳代献血推進	継続	60歳になられる方	1月~3月	1回	各献血施設	60歳になられる方で、近年献血していただいていない方を対象として、献血依頼の資料を作成し、郵送する。(23年度実績:未実施)

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10社	新規献血事業所の開拓・確保	継続	新規献血事業所	通年	20回	各事業所等	会社の設立などの情報収集に努め、献血への理解を得るよう説明し、献血の実施につなげる。(23年度実績:35社(震災の影響あり))
参加 100団体	ライオンズクラブ研修会	継続	ライオンズクラブ研修会	7月~11月	2回	ホテル等講演会場	パワーポイントや映像素材等を使用して、献血推進の講演を行う。(23年度実績:99団体)
10社	献血協賛企業活動推進事業	継続	新規献血事業所	通年	10回	各事業所等	「国庫補助事業」新規事業所の開拓を推進するにあたり、献血実施にあっては、併せて協賛企業として登録いただく。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
500名確保	複数回献血クラブ登録推進	新規	献血初回者	通年	12	月初に先月の献血初回者で登録可能者を抽出し登録依頼封書を発送する。	
1,000名確保	複数回献血クラブ登録推進	継続	未登録者(400)	9月・3月	2	上半期・下半期に未登録者を抽出し登録依頼封書を発送する。(23年度実績:2,640名)	
700名確保	大学生献血400mL登録推進	新規	大学生未登録者	学内献血日	通年	献血会場で複数回献血クラブの勧誘(チラシなど)配布、専員に人員を配置)を行う。	
800名確保	複数回献血クラブ登録推進	継続	ルーム未登録者(PC)	12月~2月	1	献血終了後、対象者に複数回献血クラブの勧誘をおこなう。登録者へ登録記念品として粗品を進呈する。(23年度実績:973名・登録係主催でトートバック)	
3,000名確保	再来推進	新規	ルーム既登録者(400・PC)	12月~2月	1	依頼応諾者へ粗品を進呈する。(23年度は、ルーム主催で絆割書)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
移動献血及びセミナーの実施校4校、各々年2回以上の実施、1,000人以上の参加者	若年層確保対策	継続	大学・短大・専門学校生	4月・12月	8	学内	学生ボランティアと協力しながらチラシ等の配布を行う。また、けんけつちゃんの着ぐるみで呼びこみ等を行い、大学生が献血しやすい雰囲気を作る。
献血事業への参加高校の5校増加	若年層確保対策	新規	高校生	通年	5	学校及び各献血会場	現在配車している移動献血会場への参加及び献血教室の実施を促すため、県や教育委員会・ライオンズクラブなどと協力し、説明会等を行う。
献血初回者5名増	若年層確保対策	新規	来場者	7月・1月	2	ショッピングセンター	献血ふれあいフェスタ並びにはたちの献血にてゲストに献血について説明も交え話をしていた。
10代～20代の献血者率25%以上	若年層確保対策	継続	10代～20代の献血者	通年	6	学内・団体及び献血プラザさが	各大学・短大・専門学校等にチラシを配布する。また、10代～20代を対象に期間を決めてキャンペーン等を年6回実施するよう企画する。内容については今後検討していく。参加目標人数300人(キャンペーン期間計)
新メンバー5名以上	若年層献血セミナー	新規	学生ボランティア	5月	1	血液センター	新メンバーに対し献血に関するセミナーを開催し、献血への必要性・重要性の理解を深めてもらい、若年者の献血意識の向上を図る。セミナーはDVD・スライド等の説明用資料を活用する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60歳以上の献血者率5%以上増加		継続	60歳以上の方	通年	-	各献血会場	60歳～64歳までの期間に献血されていない献血者に対し、献血依頼のはがきを出す。(約200名)
献血教室参加者200名	青少年等献血ふれあい事業	継続	小学生	夏休み	1	映画館	新聞広告等を利用し、県内の小学生を対象に募集を行う。スライド等を利用し、献血の必要性や重要性を少しでも理解してもらう。
出前献血教室7校以上	青少年等献血ふれあい事業	継続	高校生及び教師	9月～3月	6	高等学校内	佐賀県と協力し校長会等と通して開催の働きかけを行う。教材についてはスライド、ポップ・ステップ・ジャンプ、DVD等を使用して献血の必要性等を理解してもらう。
看護学校血液センター見学1校以上	青少年等献血ふれあい事業	新規	看護学生	11月	1	血液センター	県内の看護学校の学生に献血の必要性や重要性を理解してもらうとともに、卒業後の医療現場での知識習得となる研修を行う。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間4回	協力団体並びに推進団体の紹介	新規	企業及び団体	4月・7月・10月・1月	4	-	佐賀県支部・唐津赤十字病院と協力して作成している情報紙に各団体の活動紹介や担当者の声を掲載する。
献血サポーター新規登録企業10社以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	-	各事業所等	企業及び団体へパンフレット・規約等を持参し推進する。
企業献血における献血者数を対前年比5%増	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	-	各事業所等	担当者に現在の血液事業の現状や必要性を推進の中で説明し、理解を得る。また、献血した血液の利用状況等がわかるような資料を作成する。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
複数回献血クラブ会員総数1400人以上	複数回献血協力者確保対策	継続	複数回献血者(未会員)	通年	-	-	・複数回献血クラブ会員登録推進パンフレットの配布 ・サイトスタンバーの利用促進(登録の簡便化) ・複数回献血クラブ会員登録方法を記載したパンフレットを複数回献血協力者で未登録の方に配布する。 ・献血施設に設置しているサイトスタンバーを利用促進して登録の簡便化を図る。
複数回献血者30%以上	複数回献血協力者確保対策	継続	献血者	通年	-	-	・複数回献血クラブ会員あてに献血者減少期を中心に複数回献血への協力を呼びかける。 ・献血イベント等の案内を送信することで次回献血のきっかけになるようにする。 ・処遇時に次回献血可能日をお知らせして年に2回以上来ていただけるよう推進する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血プラザさがにおける400mL献血者数20%増		継続	献血対象者	通年	-	-	過去1年間献血されていない方(約200名)へはがきで献血依頼を行う。
成分献血者20%増		継続	献血対象者	通年	-	-	過去1年間献血されていない方(約200名)へはがきで献血依頼を行う。



平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

長崎県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
高校献血30校実施	高校献血の推進	継続	高校生	6月～2月	30	学校	17歳からの400ml献血を積極的に取り組み、献血セミナーの実施も増やしていく。私立高校(男子校)は大変協力度度も高いが、公立高校の実施率が低いため、特に学校訪問を積極的に行ってい、校長・教頭の理解を得ていく。
10歳～20歳代の構成比率を25%以上に増やす。	若年層確保	継続	10歳～20歳代	4月～3月	—	—	23年度12月時点で23.2%なので、24年度は25%以上を目指す。高校献血及び大学献血をさらに増やしていく。特に大学献血においては、学生ボランティアを導入して、イベント形式の献血実施に力を入れていく。学内各種サークル等へ呼びかけを強化していく。
中高生対象の献血セミナー年5校以上実施	献血セミナー	継続	中高生	6月～2月	5	学校及び献血会場	厚生労働省からの文書が出された事により行政及び学校等の対応が変わりつつある。現在県内中学209校、高校79校あり、その中で中学1校、高校3校実施した。今後特に校内献血が出来よう高校10校以上に依頼を行う。献血に触れ合う機会が今後増加するよう積極的に推進活動を行っていく。
大学生、専門学校生による合同献血セミナー年2回実施	献血セミナー	継続	大学生及び専門学校生	6月～2月	2	学校及び研修会場	学生ボランティアの育成強化。キャンパス内での献血協力やボランティア募集のためのチラシ配布を実施。西九州地区で合同のボランティア研修会を今後も継続していく。九州ブロック内での会合にも多数の参加を呼びかけていく。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血ふれあい事業10校	青少年ふれあい事業	継続	幼児・小学生・中学生	通年	10	各学校	九州ブロック作成の「みんなの献血」のパンフレット小学校6年生対象に配布(継続)。低年齢層へのふれあい事業をさらに増加させていく。育友会への働きかけや学校行事に取り入れていただくよう推進を強化していく。
55歳以上の血小板献血1,200人確保	献血者確保対策	継続	55歳～69歳	通年	—	固定施設	採血基準の改定による、血小板献血ドナー確保のための定期的な呼びかけ依頼を行う。12月現在で835人の協力を得ている。九州ブロック内で14.5%を占めている。次回予約もお願いしていくとともに献血者との連携を深めて安定確保を行っている。
献血ふれあい事業年20人	体験学習	継続	小中高生	通年	5	献血ルーム	職場体験や施設見学の入力を積極的にを行い、血液の知識や献血のしくみ等について学習させる。新入生ボランティアには学校単位で年度当初、機会を設けて説明する。街頭での献血呼びかけやチラシ配布、イベント実施時にお手伝いをお願いする。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規及び掘り起し団体30社以上	献血協力団体増加対策	継続	企業及び団体	通年	—	固定施設及び移動採血	献血未実施企業・団体へ積極的に訪問し、献血のしくみや血液の必要性を十分に訴えて連携をとっていく。なかにはライオンズクラブ関係者もおられ、情報提供をしていただきながら推進を行っている。工業・商業団地や同業種の組合組織には、イベント等の日程に合わせて積極的に献血バスを配車していく。
献血サポーター新規登録団体50団体以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業及び団体	通年	—	—	献血実施いただいている企業、団体等にさらに登録をお願いする。現在6年間で269団体の登録をいただいている。今後も積極的に献血支援をしていただくために募集活動を続けていく。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
60名	複数回献血協力者研修会	継続	複数回献血登録者	10月～11月中	2回	—	ビデオ上映「ありがとう! っっていっぱい言わせて」及び、赤十字健康生活支援講習(生活習慣予防について)開催する。
応諾率400ml(35%)、成分(50%)	メールとハガキによる献血依頼	継続	複数回献血クラブ会員 献血協力者	毎月	未定	—	キャンペーン期間等、献血者確保が困難な時期を特に重点的に、直近の献血者(1年以内)を対象に400ml(12,000名)、成分(2,000名)に献血協力依頼(年間)
200組(400名)	献血をして映画を観に行こうキャンペーン	継続	複数回献血クラブ会員 献血協力者	未定	1回	—	献血に協力いただいている方200組(400名)を映画に無料招待し、日頃のお礼と血液事業の現状について説明した後、映画上映を行う。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
休日献血の拡大(月10台1車平均50人以上)	献血者確保対策の拡大	継続	献血者	通年	年間120回	—	前年同様に商業施設や企業、地域のイベント等に合わせた休日献血を拡大していく。現在、都市部での実施が多いが、各地域でも新たな取り組みが必要である。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

熊本県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
学生協議会(県下11校舎献血推進リーダー)の研修会の開催11校舎全リーダーの参加	若年層献血セミナー	継続	熊本県学生献血推進協議会	①5月 ②2月	2回	研修施設	①血液事業の現状や献血の知識を学ぶ研修会、DVDの上映。②他県の大学生ボランティアの献血啓発活動を学ぶ研修会。
高校生セミナー40名	血液センターオープンキャンパス	継続	高校生	8月	1回	血液センター	学生献血推進協議会(学生リーダー)の企画による高校生を対象としたオープンキャンパス型献血セミナーを開催する。
大学内献血400mL献血2,000人	大学内献血の推進	継続	大学生	通年		大学内	H23年度の学内献血は、1,827人に留まったので、学生献血推進リーダーと協議し献血参加者の増加を図る。
高等学校内献血実施12校を20校に増加	高校献血の推進	継続	高等学校(高校生)	通年	20回	高等学校	高校生の400mL献血体験学習の一環として高等学校内献血実施に取り組んでいただくよう依頼する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
小学生200人	施設見学会	継続	小学生とその保護者	7月~8月	5回	血液センター	体験型施設見学会の実施 ①DVD映像を使った座学②献血模擬体験③災害救援物資展示をはじめ被災地炊飯実習④救護服試着⑤エアータンク設置⑥心肺蘇生法実習⑦特殊医療救護車両展示等の各ブースをスタンプラリー方式のゲーム感覚でまわる見学会。募集方法として近隣小学校へのチラシ配布及び生活情報誌への広告掲載。HP、複数回献血クラブ会員へのメール配信
小学校10校	献血セミナー	新規	小学生	通年(夏冬休み除く)	10回	小学校	DVD・教本(冊子)の教材を元に受入れ側の時間に応じた内容で出前講座を実施。募集は各小学校への案内状とパンフレットの送付
高等学校20校	献血セミナー	新規	高校生	通年(夏冬休み除く)	20回	高等学校	高等学校内の全体集会や学年集会、あるいは保健委員等の勉強会や職員会議等に献血の知識や必要性をDVDやパワーポイント等を活用して啓発を図る。
前年度実績見込みに対し60歳以上の献血者数を100人増とする	60歳代の献血推進	新規	60歳以上	通年	6回		60~64歳の献血未経験献血者を対象に、はがきによる69歳までの献血延長のお知らせと協力をお願いし、60歳以上の協力者数6,000人(H23年度見込数5,900人)を確保する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
ロゴマーク配布数累計100社以上	献血協賛企業活動推進事業	継続	企業・団体	通年		献血実施のための打合せ場所	献血協力企業・団体への依頼。情報誌でのロゴマークのPR。
ライオンズクラブ献血研修会58クラブ会員参加	献血協力団体協力増加対策	継続	ライオンズクラブ会員	8~9月	1回	血液センター	パワーポイントとDVDを活用して献血の現状や必要性を訴える。
保健所管内献血リーダー研修会5保健所管内実施	献血協力企業協力増加対策	継続	企業・団体	2~3月	10回	各保健所	例年、保健所主催で管内の市町村と企業・団体の献血担当者を集め、血液センターも出席し献血の現状等を説明し啓発を図る。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	
複数回献血クラブ会員30%増	複数回献血者確保対策	継続	非会員	通年	4回	献血情報誌(年4回発行)による会員限定イベント(健康トレーニング・料理教室・コンサート・骨密度測定等)紹介記事の掲載による募集。また新規入会者に記念品(献血バスタミカ予定)を進呈し会員増をはかる。	
複数回献血者35%へ増	複数回献血者確保対策	新規	年1回の献血者	通年	2回/月	年1回の献血者及び初回献血後の献血者へ次回(または2回目)献血依頼のハガキを;	
ハガキによる献血要請16,000通 5,600人確保	はがきによる献血要請	継続	県内400mL献血協力者	11月~3月	献血バス配車先	献血者確保が厳しい冬季を中心に献血バス配車先の前回協力者16,000人にハガキによる献血協力を依頼し、5,600人の400mL採血を確保する。(H22年度実績19,908通、5,317人採血)	

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)	

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
20代の献血者率を20%まで上げる(平成22年度18.2%)	大分県学生献血サポーター	継続	学推協加盟の学生	7月	1	大分県内	探血バスに同行し、献血会場周辺での献血啓発や大分トリニータのホームゲーム前ピッチでの献血協力依頼をサポーターに向けて呼びかける。
20代の献血者率を20%まで上げる(平成22年度18.2%)	二十歳の献血街頭広報	継続	成人者(二十歳)	1月	1	成人式会場(大分市)	献血に関する展示ブースを成人式会場に設け、新成人に献血を理解していただく啓発を行う。
参加加盟校10校に増やす(各研修会等の参加が8校/25校)	大分県学推協全体研修会	継続	学推協加盟の学生	5月	1	大分市内(研修施設)	学推協加盟校の学生に献血の意義、現状等を学んでいただき、学内献血や街頭献血時のボランティアに活用させていく。
参加加盟校10校に増やす(各研修会等の参加が8校/25校)	愛の献血ふれあいフェスタ	継続	九州ブロック学推協	8月	1	九州管内(輪番)	九州ブロックセンター選定の若年層献血推進事業として開催し、各県の活動報告等を行い献血の意義などを情報発信する。
参加加盟校10校に増やす(各研修会等の参加が8校/25校)	大分・熊本県学推協合同研修会	継続	学推協加盟の学生	2月	1	熊本県	各県学推協の活動報告を行い、グループワーク等により今後の活動計画を議論し、実質の向上や相互の連携強化を図る。
10・20代の献血者率を26%まで上げる(平成22年度22.2%)	クリスマス献血キャンペーン [赤十字ふれあい広場]	継続	地域住民・学推協	12月	1	センター	県内赤十字施設とともに実施し、冬季の献血者確保と若年層献血の啓発や赤十字活動の紹介をする。
10・20代の献血者率を26%まで上げる(平成22年度22.2%)	学内400mL献血キャンペーン	継続	学内献血者	通年	—	学内献血会場	大学・短大・専門学校での献血において、学生が好む処遇品を適量する。
10代の献血者率を6%まで上げる(平成22年度4.0%)	若年層献血セミナー	継続	高校生 (支部トレセン参加者)	8月	1	トレセン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血セミナーとしてプログラムに取り入れてもらい、献血啓発を図る。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
参加者100名(各50名)	親子けんけん教室	継続	小・中学生の親子(80人)	8月	2	センター・献血ルーム	献血の現場や九州センターを見学し、献血の必要性を理解していただき、将来の献血者を確保する。
参加者80名(各40名)	献血ふれあい	継続	小・中学生 (支部トレセン参加者)	7・8月	各1回	トレセン会場	支部主催のトレーニングセンターに献血前教室(「教えてけんけんちゃんDVD」/「みんなの献血:九州ブロック作成」を教材として使用)としてプログラムに取り入れてもらい、献血の重要性を理解していただきたい。

3 企業等における献血者の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血サポーターロゴマーク10社配布	献血者安定確保	継続	献血協力団体 (LC・事業所)	通年	週1回	—	地方紙の夕刊に週1回献血協力団体へお礼のメッセージを掲載する。協力事業所の社会貢献PRにもなるため、海外による協力依頼にも有効である。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
クラブ会員の献血者100人増	複数回献血クラブ会員サービス事業	継続	複数回献血クラブ会員	9月・3月	2回	—	①情報誌の発行(年2回:9月3月)②講演(年1回:9月)③健康相談(年30人・2月)④メール依頼(型別不足時)
応答率19%	献血協力依頼	継続	複数回献血者	毎月	毎月	—	ハガキによる献血依頼(月20~25条:1回当たり約150人)
新規会員100名増	複数回献血クラブ会員増員	継続	献血者	常時	常時	—	QRコード入りの会員募集チラシを献血会場や献血ルームにて全献血者へ配付する。平成22年度より実施し、効果があるため継続して行う。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
探血バス1車当たり400mL献血者50名確保(平成23年度計画48.0人)	ライオンズクラブ献血推進セミナー及び研修会	継続	LC会員	7月・11月	2回	—	セミナー(各クラブより3名)研修会(各クラブ1名)を策定して連携強化を図る。
探血バス1車当たり400mL献血者50名確保(平成23年度計画48.0人)	献血者安定確保キャンペーン	継続	移動探血バス献血者	通年	年5回	—	協力事業所の見直しや処遇品の見直し
女性の比重不達者22%以下にする(H22=24.3%)	低ヘモグロビン者健康相談	継続	低ヘモグロビン率により献血ができなかった協力者	5月~3月	週1回	—	従業員による健康相談

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

宮崎県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
10~20代の献血率を25%	献血開催	継続	高校・大学・専門学校生・新入社員	通年(4~5月を中心)	5回	各高校・大学・専門学校・事業所	若年層献血セミナーを含め、献血への理解を深めてもらい、献血協力をいただく。また、4月の入社時期に合わせ、各事業所の新入社員に献血PRを行い、献血協力をいただく。
新規学推協加入校1校	学生献血推進団体強化	継続	大学・専門学校生	通年	2回以上	血液センター	学生献血推進団体の拡充を図り、学内献血の協力者を増やすために、各学校の献血担当窓口を通じ参加者を募りセミナーを開催し、メンバーの増員を行う。(目標参加人数50名)また、総会の中で献血セミナーを実施する。
初回献血者1,200人	初めての献血キャンペーン	継続	高校・大学・専門学校生・社会人	通年(4~5月を中心)		献血ルーム	初回献血者に献血記念品(けんけつちゃんマーカー)をプレゼントし、今後の継続協力をお願いする。
献血者480人	想いをカードにしようキャンペーン	新規	若年層	通年	月40枚×12か月	献血ルーム	専用カードを作成し、献血者はもちろん、JRC加盟校(高校生)や街頭イベントを通じ、将来の自分への想いを書いていただき、献血ルームで保管し、献血希望日時に送り出す。希望者にカード及び封筒を記入してもらい、希望月毎にレターケースで保管する。届期は献血ルームやバスへのポスター掲示とJRC加盟校へは支部を通じてチラシでのPRを行う。
献血者720人	お揃いなさい一緒に献血キャンペーン(年末年始・盆)	新規	若年層	12月・1月・8月	2回	献血ルーム	若年層の携省者とその知人友人を対象に、年末年始、お盆期間中に特別記念品を進呈するキャンペーンを実施する。18~19歳の協力者を抽出し、ハガキにて案内を行う。

119

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血者100人	60歳以上への献血依頼	新規	60歳以上	12~1月	1回	血液センター	60歳を過ぎて数年間協力がいない方への献血協力依頼を封書にて送付。60~64歳までの方の協力を強化し、65歳以降の献血継続協力を目指す。ハガキ1,000枚送付して要請を行い応募率1割として100人の確保を目指す。
献血者2,100人	いっしょに献血キャンペーン	新規	中高年世代(30~60歳)	5月・9月	2回	献血ルーム	家族・友人・知人を誘って献血協力いただく。複数人数で献血協力いただいた方に特別記念品を渡し、中高年世代の盛り起しを行う。ハガキにてキャンペーンの周知を行う。
献血者60人	想いを残そうキャンペーン	新規	中高年世代(30~60歳)	通年		献血ルーム	100回・200回等記念の献血や誕生日、結婚記念日等の希望日に献血いただいた方にはがきを渡し、自分へのメッセージを書いていただく。その際献血いただいた方には記念写真を額に入れて渡す。

120

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業・団体の確保(30社)	町・総ぐるみ献血参加運動	継続	各市町村献血会場 周辺企業及び団体	通年	20回	各市町村役場等での「町・総ぐるみ献血参加運動」会場	行政や献血協力団体と協力し、各市町村役場での協力団体の盛り起しを行い、裾野の広い協力組織網の構築を図る

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾者3,000人	メール発信	継続	複数回登録会員	通年	50回	献血ルームのキャンペーン情報等献血者のメリットとなる情報を2回/月送信する。また、緊急の献血依頼要請のメールを随時に、献血種別・型別に送信する。
応諾者1,000人	ハガキ送付	継続	既献血者(複数回会員含む)	通年	35回	3ヶ月以上献血していない献血者を対象に、ハガキによる献血要請を行う。
新規会員1,000人	新規会員確保と複数回献血	継続	複数回登録会員及び新規登録者	通年		献血ルームにおける新規登録会員を募集する。(記念品進呈)また、既登録者にも案内し、複数回献血者を確保する。また、献血バスでも大学献血・街頭献血を中心に新規登録者を募集する。
新規会員60人	フットスパサービス	継続	複数回登録会員及び新規登録者	1~2月の平日	20回	1月中旬~2月中旬にかけて献血ルームに一角に10人/日程度の方にフットスパサービスを行い複数回登録者を確保する。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
平日献血者数47人/日	日替わりお楽しみイベント	新規	献血者	通年	245回	献血者確保が厳しい平日にプチイベントを実施する。(本日PCポイント2倍・お茶菓子プレゼント・ヨーヨー・ポン菓子・竹とんぼプレゼント等)作成は赤十字奉仕団と協力。
ポイントカード満了者3,000人増	献血ありがとうポイントカード発行	新規	献血者	通年		5ポイント達成(達成時に特別記念品)を目指すことにより、献血者のリピーター率を高める。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

鹿児島県 赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血講座実施者数 1,500名	献血講座	継続	10代、20代対象	4月~3月	15	血液センター及び各学校等	高校・大学・専門学校等若年層を対象に献血講座を実施し献血への理解を深めてもらい献血協力をお願いする。
短大・大学・専門学校献血者2,000名	学生献血推進(学内献血等)協力	継続	10代、20代対象	4月~3月		各大学ほか	学生推進協議会メンバーによる学内献血やキャンペーン時の処遇品等企画し若年層の献血者増につなげる。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
親子参加数250名	楽しく学ぼうキッズ献血	継続	小学生と保護者	8月	6	血液センター	小学生高学年と保護者を対象に献血の重要性と命の大切さを学んでもらう。
親子参加数60名	楽しく学ぼうキッズ献血(市町村)	新規	小学生と保護者	8月	2	離島(移動バス)	小学生高学年と保護者を対象に献血の重要性と命の大切さを学んでもらう。
18歳~39歳献血参加者1000名	市町村との協働による若年層対策事業	継続	10代~30代対象	4月~3月	25	県内各市町村	市町村との協働により若年層をターゲットにした献血イベント。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
新規献血協力企業、団体15団体	新規献血協力企業、団体確保対策	継続	担当者	年度内全期間		県下全域	これまで献血実績の無い企業、団体の担当者(可能な限り代表者)と面会し、献血の必要性を強く訴え協力が得られるようお願いする。
献血サポーター制度50団体	献血協賛企業確保対策	継続	献血協力団体の担当者	年度内全期間		県下全域	献血協力事業所の担当者に対し、献血サポーター制度について説明し継続的な献血協力を依頼する。

4 複数回献血協力の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
メールにより複数回献血クラブの価値を高める(会員数を3000名以上)	複数回献血者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員	毎月	月2回程度	ハガキを止め、メール中心にし経費削減に努める。(様々な案内を提示し、献血者自らが行きたくする施設を構築する。よって、献血依頼のメールは年1回程度とする)
会員優待イベント実施(年12回以上)	複数回献血者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員が主、会員以外も可	血液不足時	不定期	血液不足時に、抽選会・ハンドマッサージ等を実施する。案内については、所内掲示板・メールを主とする。
献血予約制度の強化(月500名以上)	複数回献血者確保事業	継続	全員	毎日	毎日	次回の献血予約をいただくことで、献血者の基礎数を確保する。
当センター主催講座の優先案内(年4回)	複数回献血者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員が主、会員以外も可	1・4・7・10月	3か月に1回	当会館2階のホリスティックヘルスプラザ主催の講座の優先参加案内。
栄養講話、AED講習会(年1回)	複数回献血者確保事業	継続	複数回献血クラブ会員	2月頃	年1回	年一回、複数回献血クラブ会員の方を対象に実施。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
応諾率30%以上	ハガキによる400mL献血依頼	継続	400mL献血経験者	年度内全期間	全献血会場	献血実施会場において過去3年以内に400mL献血履歴のある方を対象にデータを抽出し献血協力を呼びかける。

平成24年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための対策

沖縄県赤十字血液センター

1 若年層献血者確保対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(若年層献血セミナー)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血教室35回以上 職場体験・施設見学10回以上	国庫補助事業	継続	高校生・専門学校生・大学生	通年	45回	各学校及び血液センター	県教育長名で全63高等学校へ献血教室実施の文書送付を依頼する。各高等学校、専門学校、6大学を直接訪問し、献血教室の実施を依頼する。血液センターでの職場体験・施設見学等を積極的に受け入れる。映像素材・パワーポイント等を活用する。
高等学校献血実施校30校以上	高等学校献血推進	継続	高校生・教職員	通年	30回	各高等学校	高等学校校長会で献血実施要請を行う。5月の連休前までに各校を直接訪問し、献血実施を依頼する。実施時期を分散し実施校を増やすよう調整する。
専門学校献血実施校20校以上 延べ回数30回以上	専門学校献血推進	継続	専門学校生・職員	通年	30回	各専門学校	献血未実施校へ直接訪問し、献血実施・再開を依頼する。資料等により、県内の血液確保の厳しい現状を説明する。

2 献血者の年齢層に応じた献血推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(青少年等献血ふれあい事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
献血教室2回以上、 職場体験・施設見学8回以上	国庫補助事業	継続	小・中学生	通年	10回	各学校及び血液センター	血液センターでの職場体験・施設見学等を積極的に受け入れる。JRC加盟校を中心に献血教室実施を依頼する。映像素材・パワーポイント・小冊子等を活用する。

3 企業等における献血の推進対策

※ 平成24年度においては、国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容					
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	予定場所	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
休眠協力企業・団体の復活(5団体以上)	休眠協力企業・団体の復活	継続	過去3年以上献血実施が途絶えて	通年	5回	各企業・団体	休眠企業・団体に積極的に訪問し、再開をお願いする。
新規協力企業・団体の開拓(10団体以上)	新規協力企業・団体の開拓	継続	献血未実施の企業・団体	通年	10回	各企業・団体	献血未実施企業・団体に積極的に訪問し、献血実施をお願いする。
複数回献血協力企業・団体の開拓(3団体以上)	複数回献血協力企業・団体の開拓	継続	年1回実施の企業・団体	通年	3回	各企業・団体	積極的に複数回献血協力を依頼する。
「献血サポーター」ロゴマーク配布(30団体以上)	国庫補助事業	継続	献血協力企業・団体	通年	30回	各企業・団体	献血協力企業・団体に積極的に訪問し、「献血サポーター」への登録をお願いする。

4 複数回献血協力者の確保対策

※ 平成24年度においては、した国庫補助事業(献血協賛企業活動推進事業)も継続予定であることから、必ず同事業を実施すること。

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)
年間2回以上協力 (2,300名目標)	メールによる協力 依頼	継続	メール会員 (840名)	通年	1回以上	電子メールによる協力依頼 夏場と冬場の血液不足時にメールにて協力依頼をし、前年度1,579名の実績を上回りたい、ラジオ放送でも呼掛けを強化、また献血協力者へ感謝のつどいのイベントを年に1回以上実施し新規複数回献血会員(目標340名)の登録者を増やす、献血も同時実施。会員の方へサービス提供の情報配信と同時に献血協力を依頼。
年間2回以上協力(5,200名目標)	ハガキによる献血 依頼	継続	対象者 (15,600)	通年		毎週移動献血場所の前回協力者に対し、実施協力依頼ハガキを送付 献血実施団体で、再度献血実施する際には、前回献血協力者へ、ハガキにて、協力依頼。(3カ所移動の場合は、可能時間に協力して頂けるよう全て記載)
年間2回以上協力(1,700名目標)	電話による献血依頼	継続	全献血者対象	通年		400ml、成分献血できる方 平日、一台平均採血予定本数53本ですが、予定本数に達しない日がつづいた場合、献血可能間隔基準をクリアしている献血者へ、400ml献血協力者を週末の街頭献血へ協力をよびかける。緊急時に備えて成分献血の協力を献血ルームの近隣事業所の協力者リスト台帳を作成し協力を呼掛ける。

5 その他

平成24年度の数値目標	事業名	具体的な対策・事業内容				
		新規・継続	対象者	実施時期 ※具体的に計画している実施月を記載すること	回数	内容(具体的かつ詳細に記載すること)